JOJOmenon

SPURムック
荒木飛呂彦責任編集
「ジョジョメノン」



荒木飛呂彦

「ジョジョの奇妙な冒険」連載25周年

JOJO'S 25TH ANNIVERSARY
HIROHIKO ARAKI

SHUEISHA MOOK

LOS ANGELES, SEPTEMBER, 2012



photograph:Kaori Suzuki

一枚の絵を携えて、荒木飛呂彦は
ロサンゼルスに降り立った……

荒木飛呂彦、

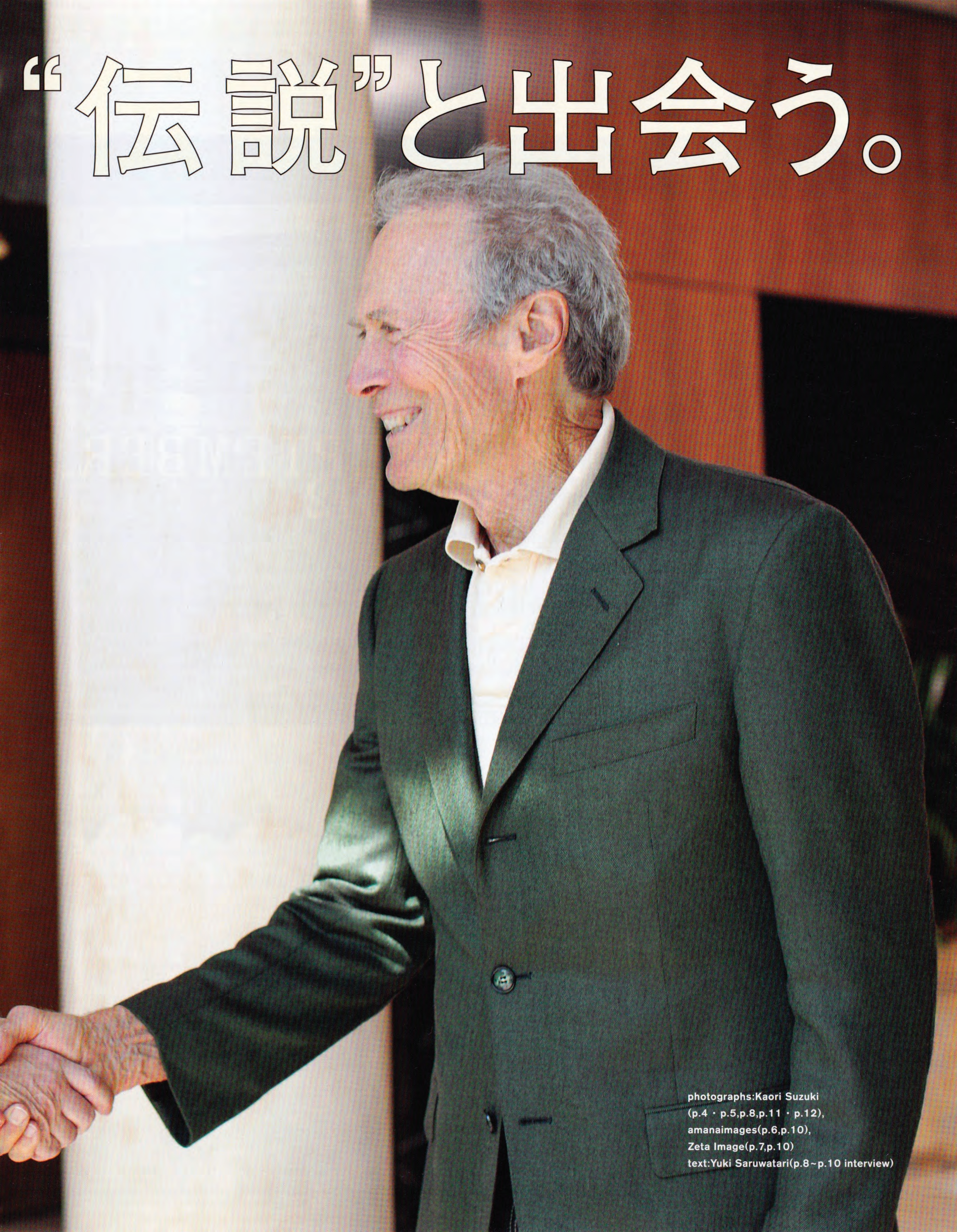
HIROHIKO ARAKI MEETS

クリント・イーストウッド



少年はある日、父親に誘われて映画館へ出かけた。
スクリーンに映るのは、陽射し照りつける荒野と乾いた風。
そこにふらりと現れたひとりのガンマン。
まぶしそうに遠くを見る男の表情と、
品のある美しい立ち姿に、心を奪われた。
少年は成長してマンガ家となり、
ひとつの作品を25年にわたり描き続ける。
物語の中で姿を変えて繰り返し登場するのは、
あの日父親と見た、ひとり静かに荒野に立つヒーローの面影……
いま、荒木飛呂彦はクリント・イーストウッドに会いに行く。

“伝説”と出会う。



photographs:Kaori Suzuki
(p.4・p.5,p.8,p.11・p.12),
amanaimages(p.6,p.10),
Zeta Image(p.7,p.10)
text:Yuki Saruwatari(p.8~p.10 interview)



荒木さんにとっての初イーストウッド作品『続 夕陽のガンマン』。イーストウッド演じる〝ブロンディ〟は、ベストとポンチョを羽織り、頭にはハット、口の端でシガリロをくわえるなど、そのファッションもキャラクターを作る重要な要素。「その立ち姿はデザインとして美しく、マンガ的でもある」と荒木さん談。

荒木飛呂彦、イーストウッド愛を熱く語る。「荒野に立つクリント・イーストウッドこそ、空条承太郎のモデルです」

小学生の荒木飛呂彦は、父親から映画に誘われた。「当時は子どもだし『ガメラ』なんかが観たかったんだけど、〝かっこいいから、これに行こうよ〟って父に言われて『続 夕陽のガンマン』('66)を観ることに」。もともと、父親がイーストウッドのファンだったのだが、親子で観た〝かっこいい映画〟は荒木少年の人生をある意味決定づけることにもなる。「小学生だし話の内容はわからなかったけど、イメージだけは鮮烈に記憶してますね。一匹狼のクリント・イーストウッドが馬に乗っていて、遠くから射撃したり、まぶしそうに首吊りのロープを見上げたり。そういうシーンのかっこよさを覚えてる」。

以来、出演作・監督作をフォロー。イーストウッドは荒木飛呂彦にとって理想のヒーロー像となった。「何より立ってるポーズがいい。男臭いのではなく、知性や育ちのよさを感じる立ち姿。気品があるんですよ。荒野にひとり立つイーストウッドのイメージが、マンガ『バビル2世』の主人公とも重なり、それが砂漠で学生服を着て戦う承太郎の姿へつながっていく」。

『ジョジョ』シリーズ中、もっとも主人公然としたキャラクター空条承太郎は、クリント・イーストウッドをモデルにして作られた。「イーストウッドは、かつてセルジオ・レオーネ監督から『演技せず、ただ立ってるだけでいい』と言われたそうです。だから承太郎にも余計なアクションはさせない。戦うときもポケットに手を突っ込んで静かに立ってるだけ。なのに、実はすごいスピードで破壊力あるパンチが出てる。で、『やれやれだぜ』って、そういう感じですよ」。

イーストウッド演ずるキャラクターがモデルとなったのは承太郎だけではない。「たとえば『ダーティハリー』('71)と『グラン・トリノ』('08)、両作品の主人公はリンクしている。ハリーの老後がウォルト・コワルスキー。僕の中ではそのようにつながっていて、孤独に戦ってきた男が老いて、若い奴に何かを教えながら死んでいくという流れがある。どちらも社会からはみ出しながらも群れずに戦い続ける、イーストウッドらしいヒーローです。『ジョジョ』第7部は西部劇的シチュエーションですが、ジャイロとジョニィのふたりも、家族や世間の価値観から逸脱しつつも、何か大きなものに立ち向かっていく。第5部のギャングにしても、彼らは親分子分の上下関係やサークル感覚のチームじゃない。はみ出し者同士の集まり。戦うときはそれぞれが孤独。そんなヒーロー観はイーストウッドの影響ですね」。

もはや『ジョジョ』における影の主役とさえ思えてくるクリント・イーストウッド。もしも荒木飛呂彦が映画監督で、イーストウッドを俳優として『ジョジョ』の作中に起用するなら、誰の役なのだろう。「難しい質問ですね。第7部ならいっぱいいるだろうけど……えーと、スティーブン・スティールさんかな。年齢的にもそうだけど、権威と戦っているところも」。

もしもイーストウッドがスタンド使いだとしたら、どんな能力？「え、スタンド？　なんだろう……荒風を起こす能力がいいかなあ。荒野にそよ風を吹かせて、それで相手にささやかな影響を与えながら、地道に攻撃していく。そんなスタンドにしたいですね」。

荒木飛呂彦が選ぶイーストウッド作品オールタイムベスト10



『続 夕陽のガンマン』(1966年)
セルジオ・レオーネ監督によるマカロニ・ウェスタンの傑作。「小学生以来、これまでに何度も観ました。大人になってからは、この主人公はどこから来て、どこへ行くのか、それが語られずとも、なんとなくわかるような気がする」。



『恐怖のメロディ』(1971年)
イーストウッド初監督作。「ストーカーみたいな女の子に襲われる話で、イーストウッドっぽくないセレクトなのが逆にいい。自分で初めて監督をするにあたり、こういう派手じゃない小品をきっちり手がけるのが彼らしい」。



『ダーティハリー』(1971年)
言わずと知れたイーストウッド代表作。「ハリーのキャラは、もしも『続 夕陽〜』の主人公が現代に来たら……という印象。アメリカ社会のいろんな問題を背負った作品。エンターテインメントとして観ても、カットするところがひとつもない」。



『アルカトラズからの脱出』(1979年)
サンフランシスコ湾の上に浮かぶアルカトラズ島にある刑務所からの、実話に基づく脱獄劇。「まさに手に汗握るサスペンス。この映画は何度も観ました」。『ストーンオーシャン』の舞台設定にも影響を与えたか？



『ファイヤーフォックス』(1982年)
旧ソ連から最新戦闘機を盗むパイロットの物語。イーストウッド52歳の頃の作品。「ランニングの場面があるんですが、年齢なりの息切れなど、老いの部分をきちんと見せている。イーストウッドの年齢と向き合う態度が感じられる」。



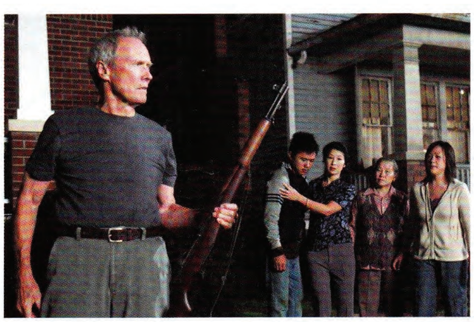
『許されざる者』(1992年)
アカデミー賞作品賞・監督賞に輝く〝最後の西部劇〟。「善悪の価値観が入り乱れたリアリティある語り口なのに、ファンタジー性もある。冒頭から最後のワンシーンまで、すべてに圧倒される。これはもうアメリカの伝説ですね」。



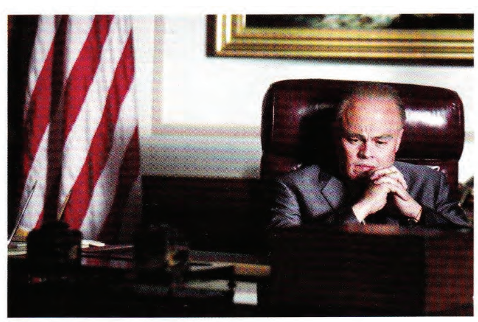
『ミスティック・リバー』(2003年)
幼なじみの男たちを巻き込んだ殺人事件が人間の業をあぶり出す、すごみのあるドラマ。「映像の中の闇に隠されたものが、映画そのものを象徴している。これがアカデミー賞作品賞を獲らなかったとき、納得いかなかったんですよ(笑)」。



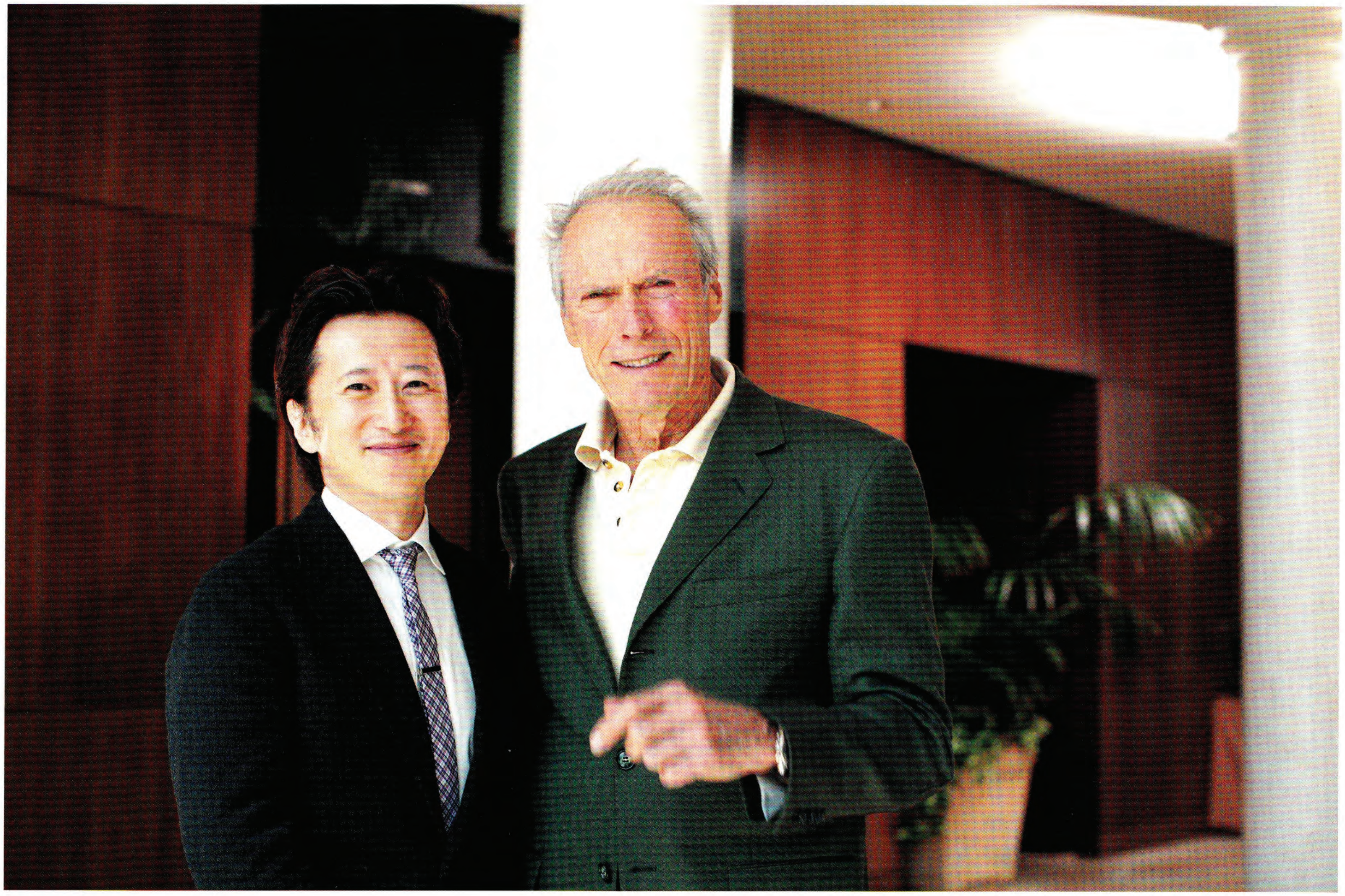
『チェンジリング』(2008年)
わが子の失踪を警察に届け出たことから精神病院に収監された母親をアンジェリーナ・ジョリーが熱演。「ほんとに実話なのかっていうくらい残酷な事件を描いた映画だけど、そこから逃げずにおぞましさをもろに出していますね」。



『グラン・トリノ』(2008年)
孤独な元軍人の最後の戦いの重い意味とは。「『ダーティハリー』『ハートブレイク・リッジ 勝利の戦場』『グラン・トリノ』の主人公はひと続き。社会に立ち向かう男の決着を描いたのがこれ。その流れは3作セットで観るべき」。



『J・エドガー』(2011年)
元FBI長官役にレオナルド・ディカプリオを迎えた、現時点でのイーストウッド最新監督作。「地味だけど人間味がにじみ出る演出。主人公の隠された欲望とか愛国心とか、複雑で悲しい人間をここまで描けるのかと驚きました」。



クリント・イーストウッド＆荒木飛呂彦
夢の対談が現実に！

2012年9月11日。荒木飛呂彦、
クリント・イーストウッドとついに対面す。
ふたりで交わされた会話の一部始終。

荒木　今日は通訳を通してのお話になってしまい、すみません。

イーストウッド(以下CE)　気にしないで。僕だって、少しくらい日本語をしゃべれるようになっているべきなんだ。日本語で映画を撮ったというのに、そのときもみんなが何を言っているか全然わからなかったんだよ(笑)。あの頃は、「日本語もできないのに、どうやったら日本語で映画を撮影できるんだい？」と人にしょっちゅう聞かれた。でも俳優が言っていることは英語版の脚本と同じはずだし、優秀な通訳もいてくれたからね。

荒木　最新出演作の『人生の特等席』は字幕なしでも観せていただいたんですが、それでも気持ちや感動は伝わってきました。映画のパワーはすごいですよね。

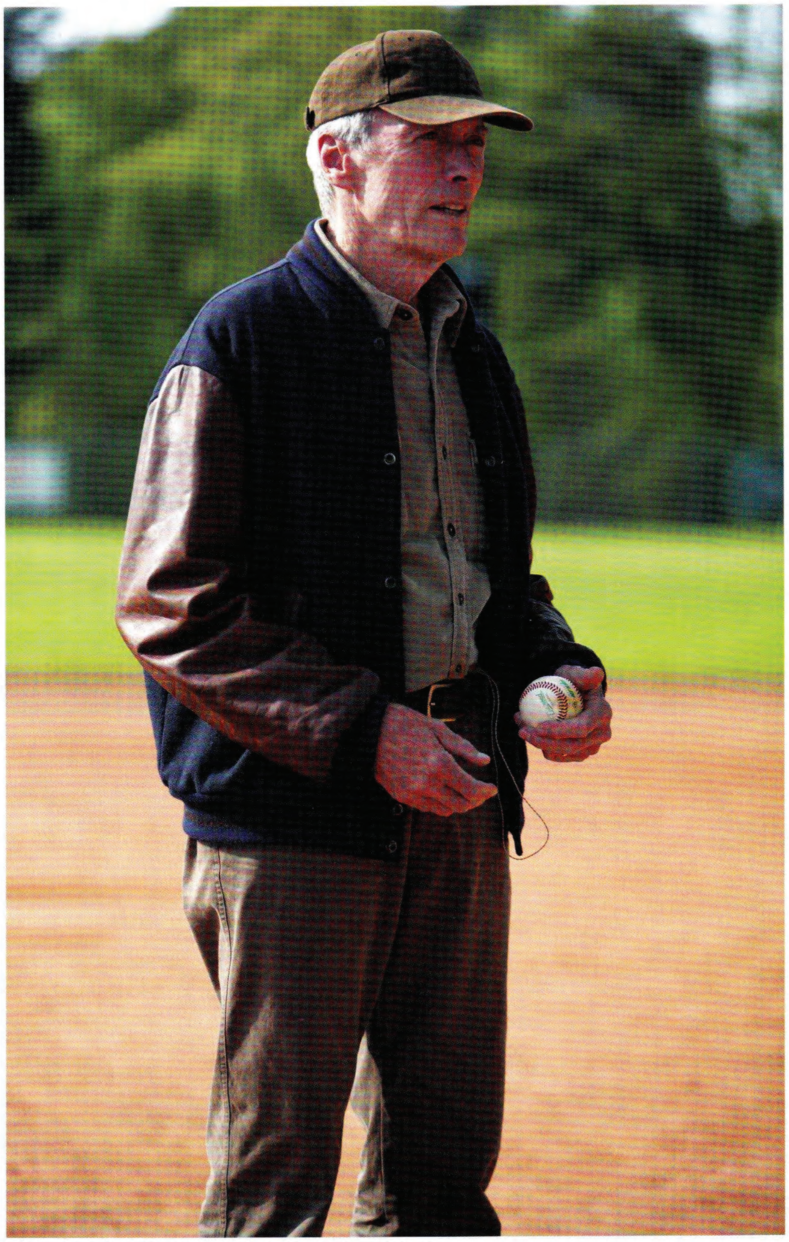
CE　それはうれしいね。映画はビジュアルなアートだからじゃないかな。あなたはもともとビジュアルの人だし。

荒木　本日は、マンガ家としての視点からお話をうかがいたいと思います。イーストウッドさんの映画には、テーマが共通している作品があるように思うんです。たとえば『グラン・トリノ』と『ハートブレイク・リッジ 勝利の戦場』('86)には通じるものがあります。それに『ミリオンダラー・ベイビー』('04)と『パーフェクト・ワールド』('93)の二作品にも。この『人生の特等席』は、『目撃』('97)と親子関係が似ているかなと思うんですけど、意識しているのでしょうか？

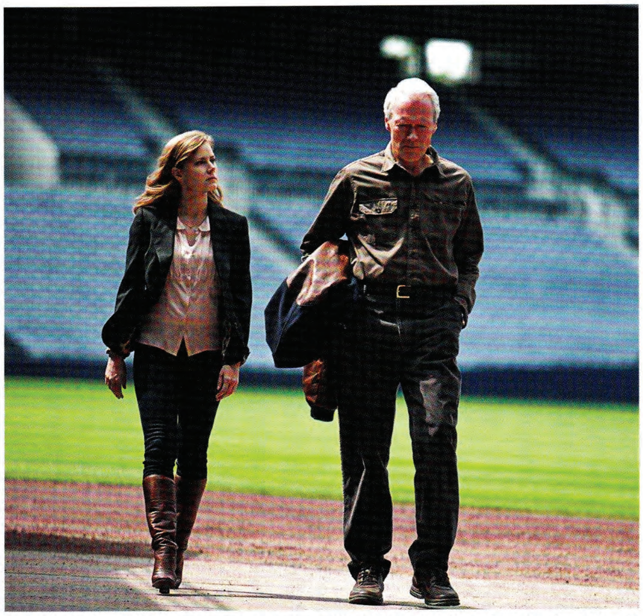
CE　どちらの作品も、大人になった娘との関係が出てくるからね。だけど『目撃』は相当前のことだし、自分ではわからない。無意識のうちに、ある種の感情的テーマに惹かれてしまうのかもしれないな。僕は家族、特に問題のある家族関係というテーマに惹かれる傾向があるのかもしれない。『ミリオンダラー・ベイビー』は父と娘についての物語だった。彼らは実際には父娘ではないが、彼は彼女にとっての父に、彼女は彼にとって娘のような存在になる。『グラン・トリノ』もそうだ。あの主人公は、家族から尊敬されていなかった。彼も家族に尊敬の気持ちは持っていなかった。だが、隣の家が彼にとって家族のような存在になる。最初は偏見を持っていたにもかかわらずね。彼はそのジレンマを乗り越えるんだ。そういったジレンマの要素にも惹かれるのかもしれない。

荒木　『人生の特等席』では、亡き妻の墓参りをした主人公が、ひとりで「YOU ARE MY SUNSHINE」を歌うシーンに感動しました。あれは今思い出しても泣ける名シーンです。あなたにとって、人生で一番好きな歌って何でしょうか？　僕の場合はカーペンターズの「スーパースター」なのですが。

CE　歌だけじゃなくて、映画でも、時々ふと心の中によみがえってくることはあるよね。この間も僕は、なぜかわからないけれど突然「モナ・リザ」を思い出して口ずさんでいたんだよ。ナット・キング・コールの曲だ。子どもの頃によく聴いた。それがなぜ突然心に浮かんだのかは、わからない。とても古い歌なのに。当時は、とても興味深い歌だったんだよ。あんな歌をヒットさせるなんて、ナット・キング・コール以外にはできなかったことだったんだ。嫌悪や、辛さについての歌。だから当時、







荒木飛呂彦も思わず感涙。
イーストウッド最新主演作『人生の特等席』

老境を迎えた、メジャーリーグ・スカウトマンの父(クリント・イーストウッド)。視力の衰えた彼をサポートするため、ツアーに同行する娘(エイミー・アダムス)。互いを大切な存在と感じながらも、過去のわだかまりから衝突してしまう親子関係を、『ジョジョ』ファンは承太郎と徐倫に重ねずにはいられない。また若きスカウトマンを演じるジャスティン・ティンバーレイクとイーストウッドは、ジョナサン&ツェペリの師弟関係さながら。「老いや家族など、これまでのイーストウッド作品のテーマに連なる映画。特にイーストウッドが『YOU ARE MY SUNSHINE』を口ずさむシーンでは感動しました」と荒木さん談。監督：ロバート・ロレンツ。11月23日全国ロードショー。

僕の心に響いたんだけどね。

荒木　いつも感じるんですが、イーストウッドさんは、立っている姿が、本当にすばらしいと思います。この映画でもあらためて惹きつけられました。上品で何げないんだけれど、とてもいいんですよ。

CE　そういうことは知りたくないね(笑)。自分で分析しちゃいけないんだよ。そうじゃなくて、外を見ているべきなんだ。今こうやってあなたの描いた絵を拝見しているようにね。自分のことは見ない。自意識過剰になるだけだ。

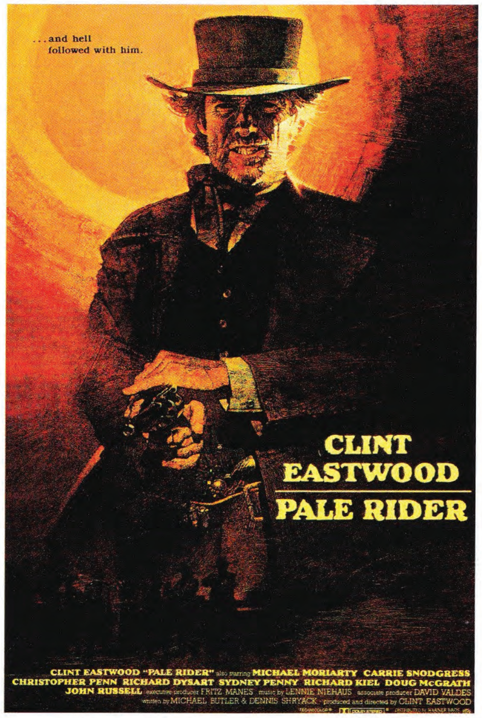
荒木　僕はイーストウッドさんの姿に影響を受けてキャラクターを描いているんです。帽子のかぶり方も、普通のアウトローって、ツバを曲げるんですよ。でもイーストウッドさんの場合、帽子のツバがまっすぐなんですよね。

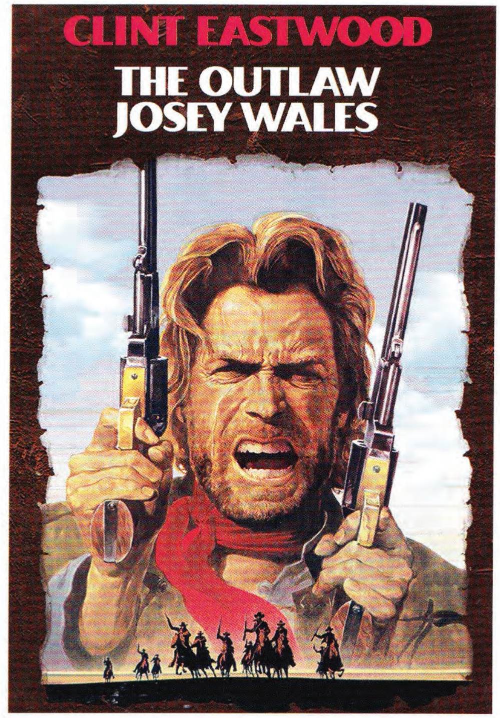
CE　その瞬間に決めているだけだよ(笑)。帽子をかぶって「あ、これでいいな」「こっちをやってみようかな」って感じだ。

荒木　またマンガ家の性質なのか、僕は昔から映画のポスターをよく見ているんです。『アウトロー』('76)や『ペイルライダー』('85)などのポスターは、特に大好きなものです。画家のボブ・ピークが描いたものですが、こんなふうにしてほしいとか、あなたからも指示はしたんでしょうか？

CE　ああ、もちろん僕も関わったよ。彼に「どっちが好き？」と聞かれたりもした。『アウトロー』のポスターの場合は、最初にカメラマンが、銃を持って叫んでいる僕の写真を撮影し、彼はそれを元に絵を描いた。でも写真どおりには せず、そこから自分なりに解釈して描いたのさ。カメラマンは感情







イーストウッド作品は、ビジュアルワークも秀逸。『アウトロー』(右)や『ペイルライダー』(中)のポスターを描いたボブ・ピークは特に有名。『ガントレット』(左)の絵はヒロイック・ファンタジーの挿画で有名なフランコ・フラゼッタによるもの。

を写真でとらえ、ボブ・ピークは、そこへさらに自分の感情を加えたわけだ。

荒木　なるほど。ところで『硫黄島からの手紙』('06)で来日されましたが、それ以前の来日は、ずいぶん昔だったと聞いています。

CE　『父親たちの星条旗』('06)のあたりで日本には何度か行っているんだ。硫黄島での撮影について許可を取ったり、硫黄島に実際に行ってみたりしなければいけなかったものでね。だけどその前は1962年だ。「ローハイド」に出ていたときだよ。

荒木　そのとき、日本をどう思いましたか？

CE　すごく面白いと思ったよ。僕は「ローハイド」でROWDY(ラウディ)というキャラクターを演じていたんだが、日本の人はみんな僕をロディさんと呼んだ。そう呼ばれるたびに、僕は「ロディサンって誰だ？」と思ったものだよ(笑)。あの番組のプロモーションで、僕は初めて海外に行く機会を得たんだ。イギリスや南アフリカ、ヨーロッパにも行った。その旅があったからこそ、『荒野の用心棒』('64)に出たんだよ。当時、僕はまだイタリアにもスペインにも行ったことがなくて、もしも映画の出来が悪くなったとしても、海外に行けるならいいかと思ったのさ。そして幸運にも映画は成功した。それに僕は黒澤明の『用心棒』('61)の大ファンだった。でなければ、あの映画には出なかったと思う。当時はまだ「ローハイド」に出演していたから、ほかに西部劇をやるのは嫌だったし、ちょっと休憩したほうがいいかとも感じていたのさ。だけど、エージェントが「日本映画のリメイクだよ」と言ってきて、と聞いてもエージェントは知らなかったが、脚本を10ページも読んだら、僕にはそれが『用心棒』だとわかったよ。その後は一気に読み、出演を決めた。自分に三船敏郎に匹敵する演技ができるかどうかはわからなかったけどね。興味を持った。「何のリメイク？」

荒木　ほかに日本に関する思い出はありますか？

CE　とても魅了されたということを覚えている。僕らは東京、箱根、京都、奈良に行った。とても素敵な旅だった。たくさん宣伝活動をやらなきゃいけなかったので、大変でもあったけど。まだ若かったのに、大変と感じたんだよ(笑)。

荒木　ちょっと話は変わりますが、僕はスパゲッティが好きなんです。イタリアのワインも。イーストウッドさんは、どんな食べ物がお好きですか？

CE　僕もスパゲッティは好きだよ。それで思い出したけれど『荒野の用心棒』が公開されたとき、日本人が"マカロニ・ウェスタン"という言葉を作ったんだよね。ほかの国では"スパゲッティ・ウェスタン"と呼び始めた。マカロニというのは、日本人なりのイタリアという意味だったんだよね。

荒木　普段よく食べるものは、何ですか？

CE　昨夜は赤ワインとスパゲッティ、それにビーツのサラダを食べた。僕はなんでも好きだが、基本的には地中海風の食生活をしている。それに寿司も好き。渡辺謙と仕事をしているときに、「ここに住む日本人が寿司を食べたいときは、どの店に行くんだい？」と聞いたんだ。すると彼はパシフィック・デザイン・センターの向かいの店を教えてくれた。ほかにも「イル・ピコリーノ」というイタリアンの店も好きだ。気に入っているレストランはたくさんある。

荒木　ところで、今何か欲しいものってありますか？　あるいはこれから欲しいものは？　もちろん、名声や家族や車など、すでにたくさんのものをお持ちですが。

CE　僕は幸運に生きてきた。いい人生を送らせてもらってきた。今も人生を楽しんでいる。このままいきたいと思っている。

荒木　わかりました。では、今日お持ちした絵の説明をすこしさせてください。彼の名前は承太郎、犬の名前はイギーといいます。

CE　なぜ承太郎と名付けたの？

荒木　主人公には代々"JO"のつく名前をつけるんです。

CE　なるほどね。

荒木　承太郎とイギーはふたりとも超能力を持っているんですよ。承太郎は、超能力ですばやい動きができるんですが、自分ではあまり動いたり、しゃべったりしないんです。そういう部分も、イーストウッドさんから影響を受けています。そして、日本から来てお渡しするので、この絵の背景には富士山を入れました。

CE　素敵だね。承太郎とイギーか。

荒木　富士山を描いた幸運のアイテムなので、お贈りします。受け取っていただけるとうれしいです。

CE　ありがとう。ゴルフ仲間の間では昔からずっと「うまいより運がいいほうがいい」って言われているんだよ(笑)。

荒木　今日はお時間をいただき、どうもありがとうございました。

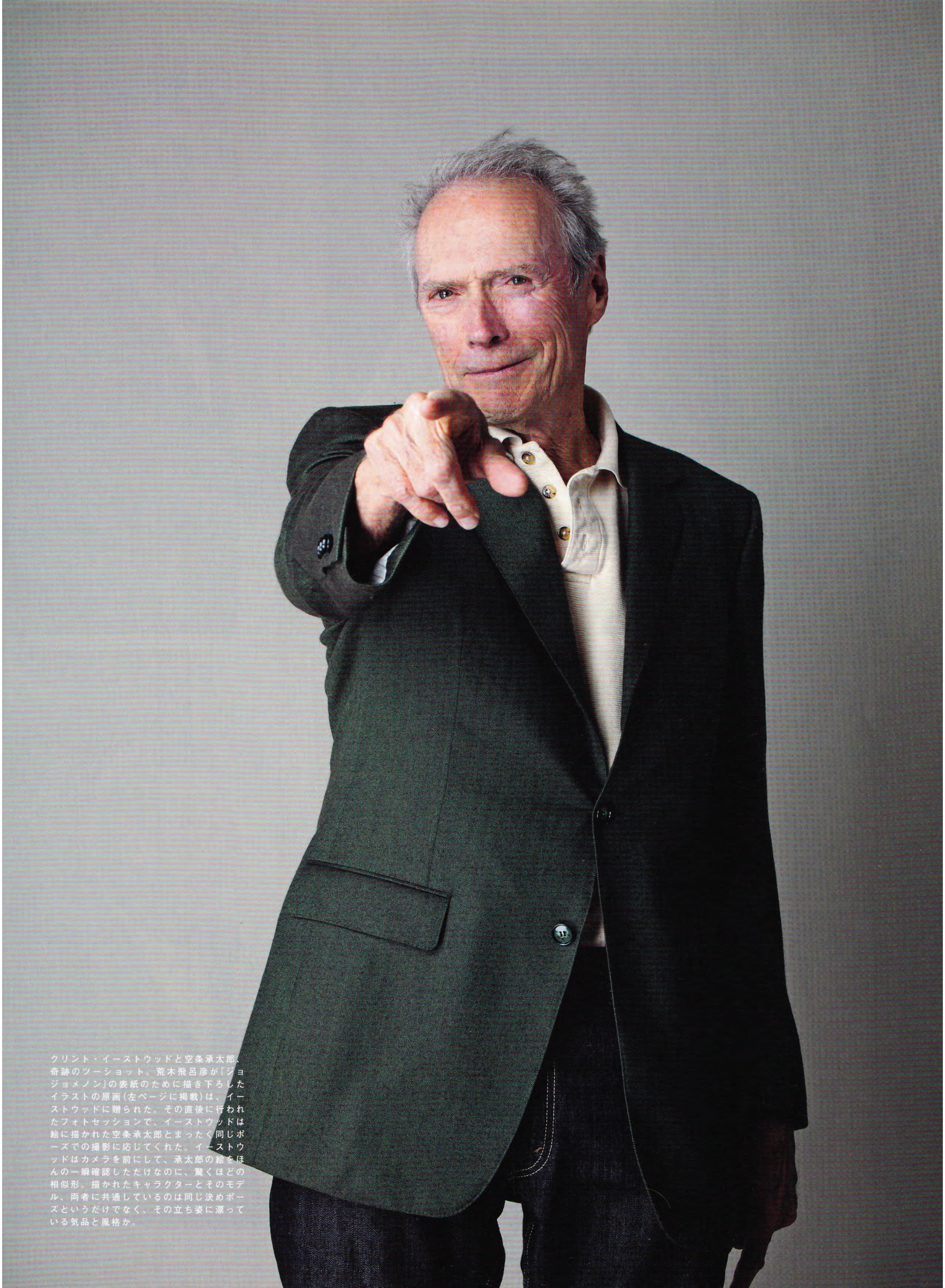




Clint Eastwood

Profile

1930年、サンフランシスコ生まれ。映画俳優、映画監督のほか、プロデュースから音楽まで手がける。1954年に映画『半魚人の逆襲』でデビュー、その後TVシリーズ「ローハイド」で日本でもおなじみに。60年代には『荒野の用心棒』『夕陽のガンマン』に主演、マカロニ・ウェスタンを代表する俳優となる。70年代には『ダーティハリー』などで人気を不動のものに。監督としては『許されざる者』『ミリオンダラー・ベイビー』でアカデミー賞作品賞・監督賞を2度受賞。世界中から尊敬を集めるアメリカ映画界のリビング・レジェンドだ。最新主演作は『人生の特等席』。好きな『ジョジョ』のキャラクターは……定かではないが、荒木飛呂彦が贈った絵を見たあと、イギーの名を繰り返しつぶやいていた。



クリント・イーストウッドと空条承太郎、奇跡のツーショット。荒木飛呂彦が『ジョジョメノン』の表紙のために描き下ろしたイラストの原画（左ページに掲載）は、イーストウッドに贈られた。その直後に行われたフォトセッションで、イーストウッドは絵に描かれた空条承太郎とまったく同じポーズでの撮影に応じてくれた。イーストウッドはカメラを前にして、承太郎の絵をほんの一瞬確認しただけなのに、驚くほどの相似形。描かれたキャラクターとそのモデル、両者に共通しているのは同じ決めポーズというだけでなく、その立ち姿に漂っている気品と風格か。

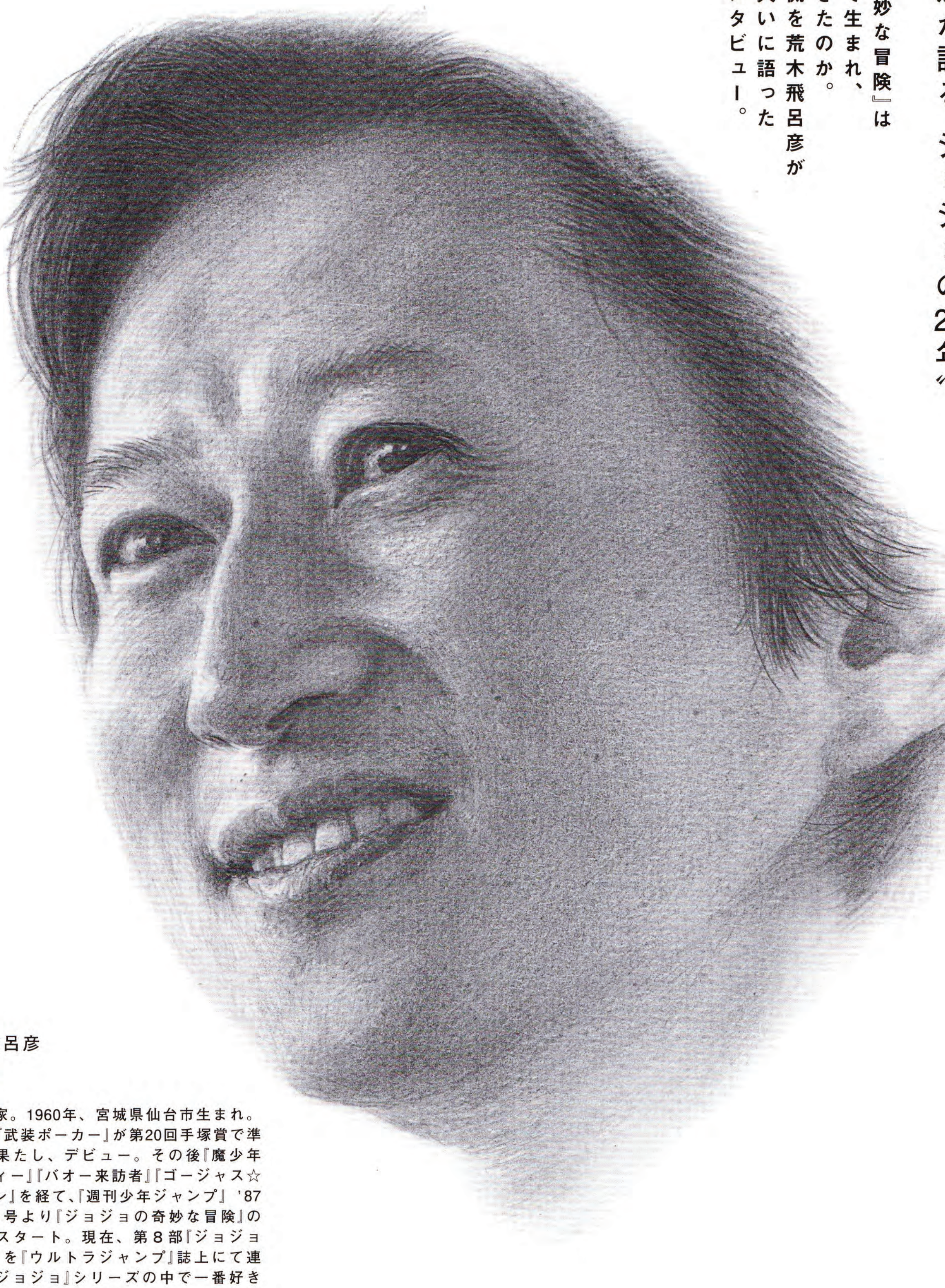


朱に染まる富士を背に立つ空条承太郎とイギーの図。クリント・イーストウッドに捧げる、荒木飛呂彦渾身の一枚だ。「日本からお贈りする絵だから富士山を描きたかった」と荒木さん。赤富士を背景にしたこの絵は、ジョジョ展東京キービジュアル（107ページ掲載）の青富士と対をなし、なおかつ“その後”のシーンを描いたもの。何者かに向けて指をさす承太郎は、イーストウッドが演じたガンマンやハリー・キャラハンのイメージとも重なる。取材後、みずから大きな額を抱えて帰っていったイーストウッド、すでにこの原画は、彼の邸宅のどこかに飾られていることだろう。

「ジョジョは第4部で終わっていたのかもしれない」

史上最長インタビュー
荒木飛呂彦が語る〝ジョジョの25年〟

『ジョジョの奇妙な冒険』はどのようにして生まれ、描き継がれてきたのか。その創作の裏側を荒木飛呂彦がワイン片手に大いに語った過去最長のインタビュー。



荒木飛呂彦

Profile

マンガ家。1960年、宮城県仙台市生まれ。'80年、『武装ポーカー』が第20回手塚賞で準入選を果たし、デビュー。その後『魔少年ビーティー』『バオー来訪者』『ゴージャス☆アイリン』を経て、『週刊少年ジャンプ』'87年1・2号より『ジョジョの奇妙な冒険』の連載をスタート。現在、第8部『ジョジョリオン』を『ウルトラジャンプ』誌上にて連載中。『ジョジョ』シリーズの中で一番好きなキャラクターは、重ちー。

illustration:Yu Masuko
interview & text:Masayuki Sawada

——2012年は、『ジョジョの奇妙な冒険』の連載がスタートしてちょうど25周年という記念すべき年です。荒木さんのマンガ家としての歩みは、『武装ポーカー』でデビューを飾り、『魔少年ビーティー』『バオー来訪者』といった連載作品を発表し、やがて『ジョジョ』へとつながっていくわけですが、『ジョジョ』前夜とでもいうべきその流れを教えてください。

荒木　まず『魔少年ビーティー』というのは、シャーロック・ホームズをベースに描いているんですよ。それは知能戦というか、知的バトルだったんですね。で、『魔少年ビーティー』が終わって、何か次に新連載で新しいものを提示しないと採用してくれなかったので、「じゃあ、今度は肉体に行くか」と。先輩のマンガ家さんたちと同じような作品を描こうものなら、とにかく担当の編集者からダメ出しされるんですよ。だから、誰もやっていない分野に踏み込んでいくしかなかった。当時はバイオテクノロジーとかDNAとか、そういうのがちょっと流行(はや)っていて、それで『バオー来訪者』ができたんです。そして、そのあとに『ゴージャス☆アイリン』という女性が主人公の作品を描いて、次が『ジョジョの奇妙な冒険』(以下『ジョジョ』)となるわけです。

——『ジョジョ』では何を描こうとしたのですか？

荒木　『バオー来訪者』で肉体をやって、その究極の強いヤツを描いてみたくなったんですよ。あの当時はトーナメントバトル形式のマンガばかりで、そういう形ではなくて何かできないかなと考えているときにディオが生まれて、それを究極の不老不死にしたらもっと怖いだろうなって。しかも、「先祖の因縁で襲ってきたらどうだろう？」と。襲われる側は身に覚えがまったくないので、すごく怖いじゃないですか。だから、最初にディオのキャラクターができて、それに対する形でジョナサンが出てきたんですよ。やっぱり自分的に描きたいのは、ディオ。あれは『魔少年ビーティー』の延長にあると思います。もっと悪くした感じですね。

——でも、主人公はジョナサン・ジョースターですよね。

荒木　やっぱり正義は普遍的なテーマだと思っていたので、主人公はジョジョじゃないとね。

——タイトルに「奇妙な冒険」と名付けた理由は？

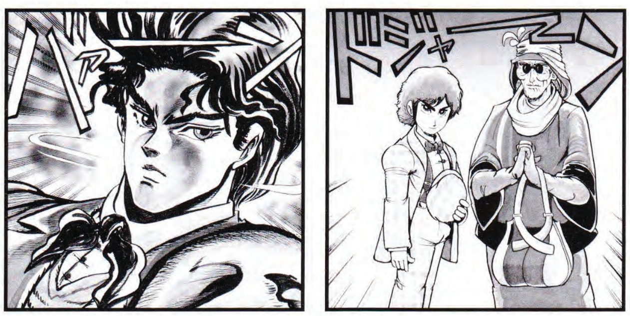
荒木　要するに、「奇妙な展開ですよ」「ホラーですよ」「ちょっと不思議な話ですよ」ってことを伝えたかったんです。『ジョジョの冒険』じゃダメなんです。そうそう、タモリさんがやっているテレビ番組で「世にも奇妙な物語」ってあるじゃないですか。あれよりも『ジョジョ』のほうが早いですからね。自慢じゃないけど、一応言っておきます(笑)。

——外国が舞台で、外国人が主人公という『ジョジョ』は、当時の『週刊少年ジャンプ』(以下『ジャンプ』)ではかなり異色だったのでは？

荒木　超異色でした(笑)。編集部の中では否定的な意見も多かったみたいだけど、担当の編集者がほかにはないものを描けっていう方針だったんです。その人からは、澁澤龍彦とか種村季弘とか、あとはフリーメーソン関係の本とか、いろいろ勧められましたね。直接的には描いていないにしても、どこか不思議なロマンのある世界観には少なからず影響を受けていると思います。

——そういえば、最初の『ジョジョ』は、「ロマンホラー！—深紅の秘伝説—」というキャッチコピーがつけられていました。

荒木　そうですね。あれは読者にとってわかりやすいように、一種のジャンル分けみたいなものです。僕は大好きですけど、少なくとも『ジョジョ』に関しては楳図かずお先生が描くようなホラーではないですよっていうインフォメーションです。



『魔少年ビーティー』の主人公ビーティーは、悪魔的な頭脳を持つ謎の少年。第1部で敵役となるディオ・ブランドーとビーティーは、よく見ると似ているかも!?

——『ジョジョ』の名前はどうやって決めたんですか？　由来をめぐっては、ほとんど都市伝説のような話もあるみたいですが。

荒木　ファミレスの「ジョナサン」で打ち合わせをしていたから、ジョナサン・ジョースターにしたってやつですよね。でも、それは違うんですよ。実際、打ち合わせをしてたのは「デニーズ」でしたから(笑)。まぁ、「ジョナサン」のほうが話としては面白いから、そっちが勝手に独り歩きしたんでしょうね。本当のところは、語呂がいいというか、韻を踏むというか、たとえばスティーブン・スピルバーグみたいな感じでつけたかっただけなんですよ。

〝人間讃歌〟は、思いつき!?

——波紋はどうやって生まれたのですか？

荒木　とにかく超能力バトルがやりたくて、超能力を絵にするっていうか、それを目指してたんですよ。超能力って目に見えないから、僕としては何とかして絵に描いてみたかった。超能力者が念力だけでガラスをパンと割ったりするじゃないですか。その目に見えない部分を描きたくて生まれたのが波紋です。水の波紋のように、エネルギーが広がって相手を倒すイメージですよね。

——波紋と同じく〝発明〟といえるものが、擬音語だと思うのですが、「ズキュウウウウゥン」とか「メメタア」といった言葉はどうやって生まれるのですか？

荒木　どうやって生まれるって言われてもなぁ(笑)。これは天然で、自然と出てくるものだから、自分ではヘンだと思っていないんですよ。『ジョジョ』の連載を始めた当時、プリンスの曲とかを聴いていたんですけど、ピュンピュンピュンピュンとか、何かヘンな音が入っているんです。あと、ホラー映画を見ていても、シャワーのカーテンを開けるときにヒュインヒュインヒュインというヘンな音がついたりしていました。意味はないんだろうけど、何だかリズムがあるし、カッコよく感じるんですよね。だから、それをマンガの中でやってみたんです。

——描き始めた時点で、構想はどこまであったのでしょうか？

荒木　まず吸血鬼というモンスターを描こうと思っていました。ダークな貴族といった雰囲気がカッコいいし、何よりも十字架がダメとか、ニンニクが嫌いとか、太陽が弱点とか、彼らにはルールがあるじゃないですか。そこが面白いし、シビれるんですよね。そうしたルールにのっとったうえで、超能力を描きたいというのが始まりで、さらに主人公に敗れた敵が何らかのきっかけで甦って、子孫を襲いに来るというところまでは何となく考えていました。そういう意味では、第3部の『スターダストクルセイダース』までの構想はありました。

——『ジョジョ』の構想が生まれたとき、これはいけるなという確信はあったんですか？

荒木　妙な自信はありましたね。誤解のないように言っておくと、『ビーティー』のときも『バオー』のときも自信はあったんですよ。でも、絵はまだまだ未熟だなって思ってました。それが『ジョジョ』の連載が始まって、ヨーロッパに取材旅行に連れていってもらって、ローマで彫像のポージングを見たときに、「これをマンガにしたら大丈夫だ」と思ったんです。何ていうんだろうな、山に登るときに道

を見つけたぞ、みたいな感覚ですね。この道を行けばおそらく行けそうだって感覚。

――最初に描いたカットは覚えていますか？

荒木　たぶん新連載の告知用に描いたものになるのかな。ジョジョとディオが、徒競走みたいな感じで競争しているカットだったと思います。

――『ジョジョ』のテーマといえば〝人間讃歌〟ですが、これはどうやって生まれたのですか？

荒木　あれはね、なんか成り行きなんですよ。コミックスの第1巻が出るときにコメントを書かなくてはいけなくて、それで思いつきで書いたのが〝人間讃歌〟。でも、『ジョジョ』は、機械とかに頼らないバトルマンガというか、要するに肉体と精神の戦いを描きたかったから、そこを表現するのに〝人間讃歌〟が適当だったわけです。われながら書いておいてよかったなと思いますよ。25年前の自分にありがとうですね(笑)。

――では、あらためて振り返ってみて、第1部の中で最も印象に残っている場面はどこですか？

荒木　石仮面のところと、あとはジョナサンが死ぬところですかね。そもそもジョナサンが死ぬことは決めていなかったんです。だけど、ディオを倒すときに、自らの命を捧げるような感じにして次の世代に宿命をつなげていったほうがいいなと思ったので、あえて死ぬ結末にしました。『ジャンプ』としてはけっこう冒険でしたよね。主人公が死んじゃうって、その頃はあり得ないですから。ただ、僕は主人公が死ぬっていうのも、いい感じだなと思ったんですよ。ジョナサンは決して負けて終わってないじゃないですか。何か美しい気持ちを残しているから、これはむしろ勝利とすべきではないかと。あと、死んだはずなのに、あっさりと生き返ってくるマンガに対して、ちょっとした反発もあったんですよ(笑)。そういうマンガが多かったんです、当時は。

――連載開始から1年もたたないうちにジョナサンが死んで、すぐに次の第2部『戦闘潮流』に向かっていますよね。

荒木　そうですね。そのときはできるかぎり早く次に行きたかったんですよ。どういう気持ちだったかはよく思い出せないですけど、先が描きたくてしょうがなかったんです。

第2部を描いてエンジンがかかった

――第2部『戦闘潮流』はどういった構想で始めたのですか？

荒木　主人公がジョナサンからジョセフに変わるので、それに合わせてキャラクターももっと明るい感じにしようと思っていました。動きがあるっていうのかな、好奇心旺盛でいろんなところに首を突っ込んでいったりするようなキャラクターにしようって。ジョナサンは、すべてが受け身というか、相手が来て、そこに対して正義を行うみたいな人なんだけど、ジョセフはもっとヤンチャっていうか、突っ込んでいく感じですよね。主人公を変えて、時代設定を変えて、ディオ以上の敵をつくる。そこまでは考えていました。結果、ストーリーも冒険の要素が入ってきたし、第2部で『ジョジョ』はすごく少年誌っぽいマンガになったんじゃないかな。

――第2部で最も印象に残っていることは何ですか？

荒木　さっき少し話しましたけど、連載が始まって1年もたってないぐらいかな。当時の編集長がイタリアに行くから、ついでに行かないかって誘われたんですよ。まだまだ新人だから取材旅行に出かけるような身分ではないんだけど、「おっ、行きます、行きます」って感じでついていったんです。これがまた、とにかくいい旅行だったんですよ。絵を描く人間としては最高というか、アイデアだらけの国だなと思いましたね。それまでも画集とかでローマ時代の彫刻や絵画は見てたけど、正直、「古くせえな」っていう印象しかなかった。でも、実際に見ると、何か違うんですよ。「すげえな！」って圧倒されっ放しで、その後の『ジョジョ』にもろに影響を受けましたね。ローマを舞台にしたり、ローマの下には遺跡がいっぱいあっていまだに掘り起こされていないっていうネタを盛り込んだり、カーズをはじめとした柱の男たちもそうです。

――たしかに第2部って、イギリスからニューヨークに来て、すぐにメキシコに行って、その後のバトルはイタリアが多いですよね。

荒木　それぐらいこのときのイタリア旅行から、すごく大きな影響を受けたんですね。

――では、第2部のキャラクターでお好きなのは？

荒木　敵がいいですよね。エシディシが泣くシーンがあるんですけど、敵が泣くのっていいなって思いました。

――「アアあんまりだァァァ」ってところですね。あんな敵は今まで見たことがなかったです。

荒木　強い敵が、ある瞬間に弱みを見せたほうが怖いなって思ったときがあるんですよ。

――そのエシディシの泣くシーンは、見開きで構成されていて、読者としてはものすごくインパクトがありました。

荒木　『ジャンプ』って毎回19ページしかないんですね。そう考えると贅沢なページの使い方ですけど、当時の担当編集に「やるときは思いっきりやれ」って言われてたから、躊躇はなかったです。ほかに敵でいうと、僕の周りではサンタナに衝撃を受けたっていう人が多いんですよね。排気口に入ってくところが気持ち悪いって(笑)。ただ、ホラー映画好きの僕としては当たり前の描写であって、すごく普通に描いているんですよ。

――それと、柱の男のリーダーであるカーズの強さは衝撃でした。あのラストは『ジョジョ』における名場面のひとつだと思います。

荒木　究極の強い人は死なないし、ああいう感じだろうと。今にして思えば、第2部を描いているときにエンジンが本格的にかかったなという気がします。気持ちがはやっちゃって、早く第3部に行きたくてしょうがなかった。第1部を構想したときから決まっていたDIOがついにやって来るわけですからね。

波紋からスタンドへ

――第3部『スターダストクルセイダース』では舞台が現代になります。どういった構想を練っていたのですか？

荒木　DIOが復活して、ジョースター家の子孫を襲うということまでは第1部がスタートしたときから決まっていました。あとは、トーナメント方式ではなく、ロードムービー的な、目的地に向かって旅をする間に敵と出会い、戦うやり方で描きたいなと思っていました。敵に関しては、どんどん強いヤツが現れるのではなく、時には弱いヤツも出てくるんですよ。そのほうが面白いじゃないですか。そうやって戦いの旅を続ける中で、第1部と第2部を通じて追求してきた「人間はどこまで強くなれるのか？」という問いをさらに深めていこうって感じかな。

――戦いの旅は、東京からスタートして、香港、シンガポール、インド、さらに最終目的地であるエジプトへとたどり着くわけですが、このルートはどういう形で決まったのですか？

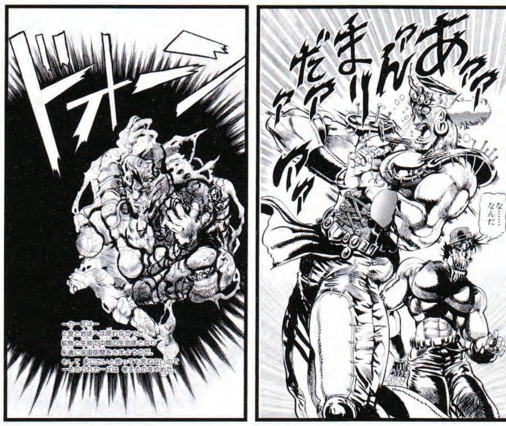
荒木　ジュール・ヴェルヌの小説に『八十日間世界一周』というのがありますよね。あれの逆コースなんですよ。あと、これは横山光輝先生の『バビル2世』の明らかな影響なんですけど、とにかく主人公に学生服を着せてエジプトに行かせたかったんです。だから、承太郎は学生服。絶対に学生服じゃなきゃダメだったんですよ、僕の中では(笑)。

――そして、第3部からは波紋ではなく、スタンドが新たに生まれました。このタイミングで波紋からスタンドに変わったのはなぜなんですか？

荒木　ある日、担当編集が「もう波紋は古いよな」って言うんです



第３部の主人公、空条承太郎はいつも学生服。愛読していた『バビル２世』の影響で、学生服で砂漠に行く場面をどうしても描きたかったとか。



（右）第２部に登場する柱の男のひとり、エシディシ。敵が号泣するシーンは、当時としてはかなり画期的だった。（左）同じく柱の男のリーダーである天才、カーズ。ジョジョとの戦いで大気圏外に吹き飛ばされ、死なないまま永遠に宇宙空間をさまよっている。

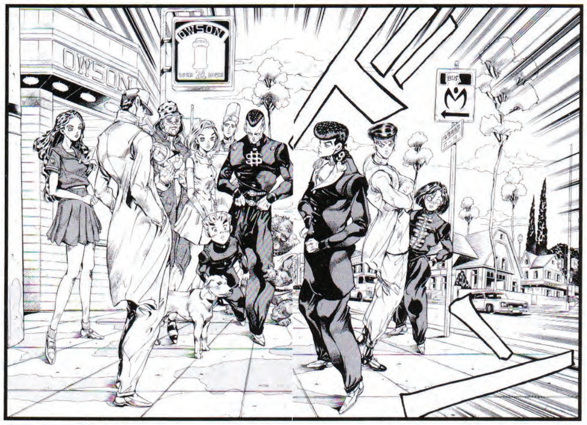


荒木さんが第１部の中で印象に残っていると語る場面が、最初に石仮面が登場するところ。このあと美女の生き血を吸って、石仮面は動き出す。



ブチャラティが、ボスを裏切ることを仲間たちに告げるシーン。第５部を代表する名場面であり、ここから彼らの運命は急展開していく。





杜王町に暮らす高校生たちが戦いを通じて友情を深め、成長していく姿を描く第４部。「ヤンキー漫画に憧れがあり、自分なりに目指してみた」と語るように、リーゼントスタイルの東方仗助をはじめ、登場人物たちはどこかヤンキーの匂いがするが、そこは荒木さんのこと、やはり服装はオシャレだった。



現在連載中の第８部は再び杜王町が舞台。主人公の東方定助はなぜ記憶喪失なのか？　その謎をタテ糸に東方家の家系が不気味に絡む。



『ジョジョ』シリーズにおいて最長の物語となった第７部は、総距離6000kmに及ぶ、北アメリカ横断レースの戦いを描いている。



（右）『ジョジョ』シリーズ初の女性主人公、空条徐倫が活躍する第６部。無実の罪で刑務所に入れられた徐倫が、父である承太郎を救うために戦う。（左）荒木さんが第６部で好きなキャラクターだというエンポリオ少年。刑務所で暮らすこの少年は物語の重要なカギを握っている。

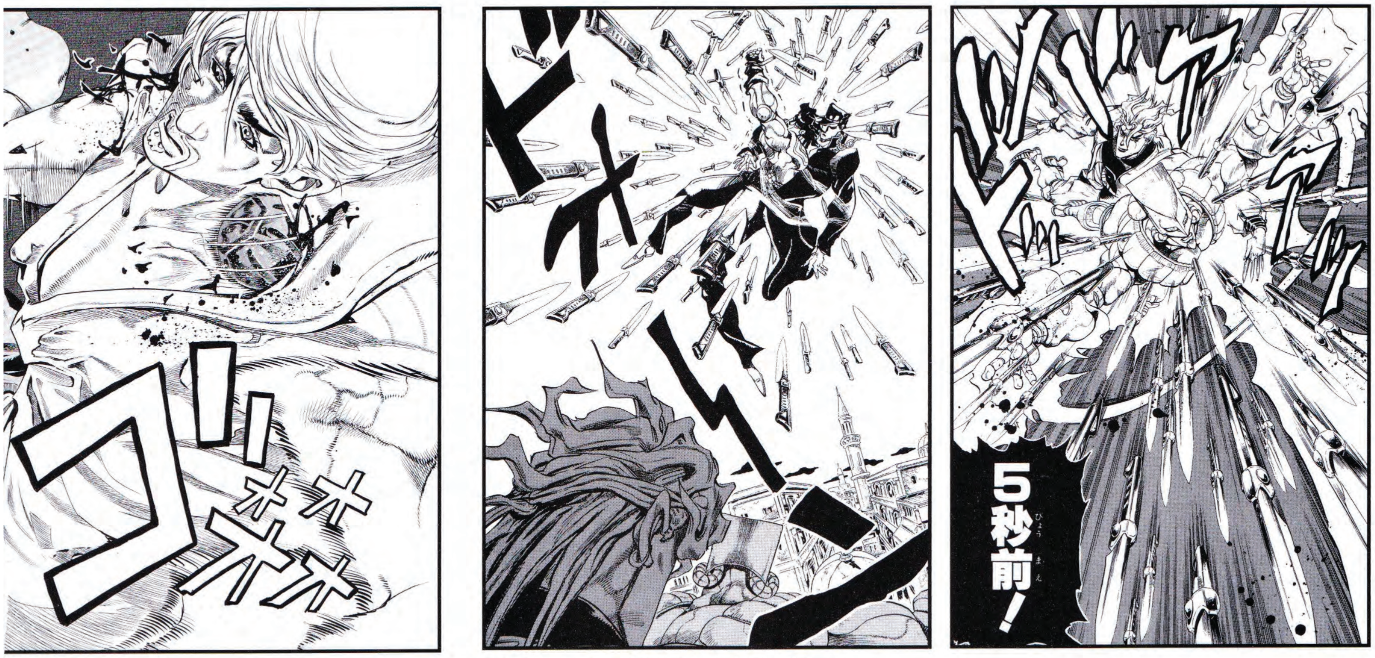
よ。僕からしたら「えっ!?」って感じですけど、そう言われた以上は何か考えなくてはいけなくて、いろいろと考えた末に浮かんだのがスタンドだったんです。わかりやすくいうと、守護霊のイメージですね。波紋はエネルギーの広がりを絵で表現したわけですが、スタンドは能力がビジュアルとして現れる。とにかく見えないものを絵で描きたいんですよ、僕は。連載が始まった最初の頃は「一体何が起こっているのかわからない」という意見もありました。でも、僕はこれで大丈夫という妙な自信はあった。スタンドだったら、思いつくかぎり自由につくっていいから、いくらでも無限に描けると思っていましたね。

――最初に描いたスタンドは何だったんですか？

荒木　承太郎のスタープラチナですね。ＤＩＯのザ・ワールドも初めから決まっていました。タロットカードを元にスタンドを考えていたので、敵の数はカードの枚数と同じ22人くらいで終わるだろうと思っていたんだけど、いざ始めるとどんどん描けちゃって（笑）。

――いくらでも描けるということは、作業量が増えて大変になるということではないんですか？

荒木　週刊のスケジュールだとギリギリのときもありましたよ。ただ、絵って本当に無限に描けるんですよ。乗ってくるとハイになって、寝ないでもずっと描いていられる。たとえば有名なモナ・リザの絵がありますよね。あの口元の微笑みのところをずっと見ていると、ものすごく深いんですよね、あれ。作者のレオナルド・ダ・ヴィンチはおそらくずっと何度も描い



荒木さんがベストバウトとして挙げた「承太郎vs.DIO」。この戦いの中で承太郎は、時を止める能力を身につけ、ついにDIOを倒す。

「絵って本当に無限に描けるんですよ」

ていたと思いますよ。しかも、まだ終わっていない。未完。だから、謎の微笑みになっているんですよ。

——それぐらい一枚の絵を飽きることなく、ずっと描き続けられるものですか？

荒木　描けますね。これは絵だけに限らなくて、いいシーンができたときは一日じゅう何回も読み直しては自分で泣いています。「ほんとにいいシーンだな」って（笑）。だけど、それをやっちゃうと次の日がヤバイ。疲れが残ったり、腰痛になったりして、そうなると連載を続けるのがツラくなっちゃうから、ほどよいところで理性を働かせてやめるんです。

ネームは、常に21ページ

——描いていて「これは完璧だ！」と思うときってあるのですか？

荒木　ありますよ。このコマ要るし、このコマも要るし、一コマたりとも削れないなってときが。そういうときは、われながら完璧だなって思いますね（笑）。マンガって、ページをめくるリズムっていうのがあるんですよ。ポンポン、ポンポンと読んで、ページをめくったときにガンッとかね。そういうリズムみたいなのがあるんです。それが僕の場合は、21ページでひとまとまりなんですよ。ただ、『ジャンプ』っていつも1話分が19ページなんです。だから、いつも2ページどうしようって悩んでました。当然ページを増やすことはできないからカットせざるを得ないんだけど、その作業にものすっごくエネルギー使うんだよね。そうやってやり繰りすると、今度はリズムが変わってきちゃう。

——これだけずっとやっていても、19ページのリズムに慣れることはなかったんですか？

荒木　本当にそうですよね。おまえ、いい加減にわかれよって思うかもしれないけど、全然ダメでした（笑）。常に21ページでネームを描いてしまうんですよ。それで19ページに削り直して、あらためて清書していくって感じですね。たまに『ジョジョ』はわかりにくいって言われるんだけど、おそらくこのせいでもあるんじゃないかなって思ってます。

——リズムということでいえば、『ジョジョ』のセリフもリズミカルというか、特徴的ですよね。

荒木　そうですね。ちっちゃい「ッ」を入れたりとか、ビックリマークの数だったりとか、僕の中で気持ちのいいリズムがあるんですよ。だから、「オラオラ」の数とかもちゃんと決まってます。アシスタントがセリフを入れてくれるんですけど、「オラ」の数が少ないと、ちゃんとネームどおりの個数でお願いしますって注意してますから（笑）。

——セリフの話になったので、ついでにおうかがいしますと、第1部で「何をするだァーッ！」ってセリフがありますよね。ファンの間では有名な話ですが、これは完全に誤植だったんだとか。

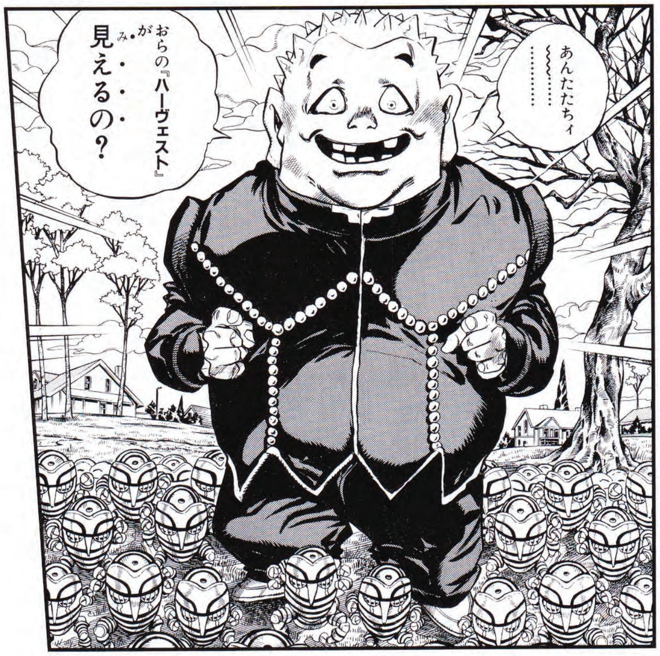
荒木　そうそう。完全に誤植。連載のときは「何をするんだァーッ！」になっていたんだけど、単行本になるときに間違ったみたい。でも、何かいいなと思って（笑）、ずっと直させなかったんです。それなのに、文庫本になるときに修正されちゃったみたい。そのままでよかったんですけどね。

——あと、『ジョジョ』シリーズの特徴でもあるファッションへのこだわりは、第3部あたりから顕著になってきた気がするのですが、実際はどうなんですか？

荒木　そうですね。第3部あたりから意識的になってきたと思います。ジョナサンもジョセフも、遠めのシルエットだとあんまり区別がつかなかったけど、第3部に登場する5人の主要キャラクターたち（承太郎、ジョセフ、ポルナレフ、花京院、アブドゥル）に関しては、遠くにいてもそれぞれ誰だかわかるようにしたかったんですよ。だから、髪形とか帽子とかで明確に違いを出すようにしました。そのへんから、キャラクター＝ファッションになってきたような気がします。

身上調査書がとても重要

——「みんながいたからこの旅は楽しかった」というセリフもあるように、第3部は仲間との長い戦いの旅でした。それが第4部『ダイヤモンドは砕けない』になると、一転して日本の地方都市が舞台になります。



荒木さんが一番好きなキャラといえば、第４部に登場するこの重ちーである。ゆるくてボケているところがお気に入りなのだとか。



絶体絶命かと思われた吉良吉影が、辻彩のサロンで顔を変えて、雑踏の中にまんまと逃げ込んだ場面。荒木さんが好きな場面のひとつ。



「ジャイロvs.リンゴォ」も荒木さんにとって忘れられない戦い。敵味方を超えて通じ合ったこのふたりのバトルは、まさに男の世界。

荒木　第3部は、旅をしているジョジョたちに敵が襲ってくるタイプのバトルでした。だけど、蜘蛛みたいに敵が待ち受けているタイプのアイデアもいくつか浮かんでいたので、それを第4部でやろうと思ったんです。そのためにはひとつの町を舞台にするのがよくて、そこで杜王町の構想が生まれました。杜王町は、僕の地元である仙台市の二、三カ所を圧縮してつくった架空の町です。やっぱり一度は仙台を描いてみたかったんですよ。僕個人の思いですが、自分が育った時代と比べて、バブル成長期の住宅地の広がり方というのが、何だかよそ者がどんどん入ってきてる感じがして、少し不気味に思ってたんですよね。いったいどこから来た人がここに住んでるんだろうって。東京に住んでいると、みんなよそ者ばかりだからわかんないかもしれないけど、地方だと何かそういう感覚があるんですよ。吉良吉影とか岸辺露伴は、その不気味さとか、不穏さの表れみたいなものですね。

――その仙台で原画展が開かれました。出身地ですから、感慨もひとしおだったのでは？

荒木　いやぁ、そりゃもう、うれしかったですよ。でも、実際のモデルとは違うとはいえ、かなり不気味な設定にしちゃっているのに、みんな喜んでるから、不思議でしたね。オーソンが本当にできてしまうなんて、普通じゃあり得ないでしょう（笑）。

――杜王町は架空の町ですが、詳細な地図が掲載されたこともあって、自分の住んでいる町と重ねて読んだ人も多いと思います。キャラクターの設定はかなり緻密ですよね。

荒木　『ジョジョ』の連載をスタートしたときからそうですが、僕は主人公が太陽に対してどっちを向いてるかというのを考えるんですよ。じゃないと、その人が本当にいるような感覚にならない。その感覚が大切だから、キャラクターをつくるときは身上調査書を準備します。これはほかのマンガ家もそうですし、映画監督とかもやっていると思うんです。キャラクターの設定を緻密にすることで、どんどん立体的になっていくというか、実在の人物のように生き生きしてくるんですよね。

――マンガづくりにおいて一番重要なのは、キャラクターということですか？

荒木　少なくとも僕の場合はそうですね。キャラクターができると、ストーリーは自然にできていく感覚です。要するに、人物がそこにいることが重要で、その人物ができると、勝手に物語ができていくんですよ。でも、マンガってたぶんそうだと思うんですよね。ストーリーからつくると、逆にかなり困難な作業というか。

――なるほど。では、お気に入りのキャラクターは誰かいますか？

荒木　いろいろいますよ。第4部でいうと、やっぱり東方仗助はいいですね。リーゼントにしているのは、僕なりのヤンキーマンガへの憧れなんですよ。そっちのほうを目指してみたんだけど、もともと僕にその精神がないから、何だか奇妙なことになっちゃってますけどね（笑）。あと、重ちーは大好きです。というか、『ジョジョ』のすべてのシリーズを通して一番好きなキャラクターですね、重ちーは。あのキャラと、ハーヴェストというスタンドは何かいいんだよね。愛すべきバカというのか、ああいうゆるくてボケているキャラクターはあまり描かないから、そういう意味でも新鮮でした。

――そこまで好きだったのに、死んじゃいましたよね。

荒木　死んじゃいましたね。吉良というキャラクターを立てて、さらに物語を盛り上げるためなんだけど、好きだったから苦悩しました。何かをなくした感じでしたね。重ちーはもういないのかって。だから、何度も復活させたいなって思ってました。

――その重ちーを倒した吉良吉影の怖さとキラークイーンの強さは強烈でした。

荒木　DIOを違う意味で超えなきゃいけないと思っていたから、ああいう感じになったんです。僕自身、どうやったら吉良に勝てるんだろうって悩みましたよ（笑）。僕が悩むぐらいだから、読者はかなりハラハラドキドキしたんじゃないですか。

――第3部から第4部というのは、ひとつの転換点といえなくもないと思うのですが、描いているご本人はどういう認識ですか？

荒木　特にそれはないんですよね。たしかに第4部になっていろいろなことが自由に描けた感じはあります。主人公の東方仗助を筆頭に、登場人物が等身大になってきた感じもありますけど、僕自身としては第3部で描き切れなかったことを第4部でやったという意識で、転換という意味では第5部のほうがよっぽど大きな変化だったと思います。第1部から第3部はひとつの流れがあって、そこからゆる

やかにつながって広がっていったのが第4部で、第5部からはテーマ性がぐっと深化した。だから、初期の構想から考えると、『ジョジョ』は第4部で終わっていたといえるのかもしれませんね。第5部からは『ジョジョ』の柱となっている血統のことももちろんあるんですけれども、信頼していた組織に裏切られた人たちの哀しみというか、生まれてきた哀しみみたいなものを描きたいなと思っていました。人間ってこの世に存在すること自体が哀しいんですよ。だからこそ、人生を通じて喜びや生まれてきた意味を見つけ出していくと思うんです。エピローグの「眠れる奴隷」がまさにそうですが、そのへんのことを描いてみたかったという意味でも、明らかに第5部から作風は変わった気がしますね。

われわれはみんな「運命の奴隷」

——第5部で最も印象に残っている場面はどこになりますか？

荒木　ベネチアのシーンで、ブチャラティがボスを裏切ることをみんなに告げるところかな。あそこは泣けるところだし、キャラクターたちの分岐点になっていると思います。あとは、アバッキオが死ぬところも印象に残っていますし、さっき話したエピローグもはずせないですね。

——エピローグは、ジョルノが登場する以前の前日譚になっていますが、あれを描こうということは最初から決めていたんですか？

荒木　そうですね。テーマをより強く伝えるために、もう一回描こうって決めてました。結果、物語がぐっと締まった感じになってよかったなと思います。今あらためて考えると、『ジョジョ』の25年間の歴史の中でも最も印象的なエピソードかもしれませんね。『ジョジョ』シリーズの神髄が、あそこには表れていると思います。

——第5部はイタリアが舞台ということもあって、登場人物たちのファッションもよかったです。

荒木　イタリアンファッションを思いっ切り描きたかったんですよ。でも、ジョルノは学生服ですけどね（笑）。

——服も含めて、キャラクターを描くときって、最初にどこを描くのですか？

荒木　僕の場合は輪郭です。どっち向いているかとかが大事で、そうすることで自然と骨格が決まってくるんですよ。骨格が決まると、下まで自動的に描ける。服もそうで、皺を入れるとどんどんどんどん立体的に服の形ができてくるんです。だから、それをどこで止めるかが難しい。放っておくとずっと描けちゃうので（笑）。

——では、ジョジョ立ちと呼ばれる独特のポージングはどのようにして生まれているのですか？

荒木　手がこのへんにあったほうが絵的にいいかなとか、そういう感じですね。

——ご自分で鏡の前でポーズしたりすることはあるんですか？

荒木　ああ、しますよ（笑）。こうやってねじったらどうなるのかなって。でも、一番参考にしているのは、女性誌ですね。女性誌のモデルさんって、けっこうあり得ないポーズをとっているので、面白いんですよ。



荒木さんが気に入っている絵。花びら舞い散る中、鮮やかなピンクを使って描かれたジョルノの立ち姿には匂い立つような色気がある。

次に向かう先はパラレルワールド

——第5部が終わった時点で半年ほど休まれていますよね。第1部から第5部まで、ずっと連載を続けてきて、このタイミングで小休止したのはどういう意味があったのでしょうか？

荒木　ようやくマンガ家も休みがもらえるような時代になったってことですよ（笑）。それまでは休みといったらお正月だけでしたから。でも、『JOJO A-GO!GO!』（画集）とか描いたりしていたので、休んでないんですけどね。

——新連載となった第6部『ストーンオーシャン』ですが、ここで初めて女性が主人公となりました。

荒木　最初のほうでちらっと触れましたけど、『ジョジョ』を描く前に『ゴージャス☆アイリン』という女性が主人公の作品を描いていたんですよ。今でこそ強い女性が戦う作品はたくさんあるけど、当時の少年誌ではあり得なくて、直感的に「これはヤバイな」と思って長編にするのをやめたんです。人気出ないし、どうせ続かないだろうなって。

——「ヤバイな」って、具体的にどういうことですか？

荒木　その頃は『エイリアン2』が公開されて、シガニー・ウィーバー演じるリプリーみたいな強い女性がいたから、僕も試しにトライしてみたんだけど、やっぱり自分は男だし、女の子が殴られたりするのはちょっと残酷すぎて描けないと思ったんですよ。でも、15年近くもたつと時代も変わるというか、女の子がパンチをくらったりしても平気な感じになった。男も女も同じなんだなと思って、今度はちゃんとタフな女の子が描ける気がしたんです。それで第6部では空条徐倫という女の子を主人公に、『ジョジョ』の物語を描いてみました。ただ、血とかにしても、僕はデザイン的に描くようにしているんですよ。カットバックと同じような気持ちで描いているから、そんな生々しさはないと思っているんですけどね。

——舞台を刑務所にした理由は？

荒木　第5部でギャングを描いたんだったら、今度はそれよりも悪い刑務所だろうと。まぁ、これも杜王町みたいな感覚ですよ。閉ざされたそこだけの世界を描くっていう感じです。それと、スティーブ・マックイーンが主演した『大脱走』という映画があるんですけ

ど、僕はあれが大好きで、いつかは脱獄の醍醐味も描いてみたいと思ってたんですよね。

——描いていて印象に残っているキャラクターだったり、シーンはありますか?

荒木 キャラクターだと、エンポリオが好きですね。刑務所の中で生活している少年がいるというのは何か不思議な感じがして面白いじゃないですか。

——第6部のラストはその解釈をめぐってさまざまな意見があります。ある意味、一周したというか、ひと区切りついたといえなくもないのですが、これはどういう意図だったのですか?

荒木 描いている僕のほうも、究極までいった感覚があって、『ジョジョ』は根本的に終わったなと思いましたね。スタンドのアイデアも、何か描き切った感があったんですよ。水や空気、元素、時間の流れとか、あらゆるものを描いちゃったから。そして、ここまで描いちゃったら、次に向かう先はパラレルワールドしかないだろうと。それに『ジャンプ』で描くのも、これで終わりなんだろうなって思いもありました。年齢的にも、何か少年誌で描くのも終わりかなみたいな。周りを見渡しても、『こち亀』の秋本治先生以外はみんな若いマンガ家ばかりなので、昔から浮いている感じはあったけど、さすがにもう違うのかなって。

たどり着けるのか心配だった

——第6部が終わって1年ほど間が空いてから、第7部『スティール・ボール・ラン』が始まります。最初のうちはまだ『ジャンプ』での連載でしたが、そのときはタイトルに『ジョジョの奇妙な冒険』がついてなかったですよね。

荒木 ああ、そうですね。本当は第6部の『ストーンオーシャン』のときから『ジョジョの奇妙な冒険』は、はずそうと言われていたんですよ。でも、僕は入れたかったから、『ストーンオーシャン』では無理やり入れたけど、『スティール・ボール・ラン』でついにはずれました。主人公がジョジョではなくなったこと、これまでの『ジョジョ』シリーズを読んでいない人に向けて描き始めたことが主な理由ですね。とはいってもやはり『ストーンオーシャン』から続く新たな世界の延長上でもあるし、スタンドは描き続けるつもりだったので、途中『ウルトラジャンプ』に移籍してからはサブタイトルに『ジョジョの奇妙な冒険Ｐａｒｔ７』とつけるようになりました。

——第6部は刑務所が舞台でしたが、第7部は19世紀末の北米大陸を西から東へ横断する壮大な旅になります。

荒木 やっぱり人間って、旅をしたりして成長していくというのがあるんですよね。僕も高校時代にそうやってキャンプとか自転車旅行をして自分を鍛えるみたいなことがあったので、旅を通じて主人公を成長させるという物語を描いてみたかったんです。

——ちなみに高校時代はどちらに行ったんですか?

荒木 仙台から北海道まで自転車で行きました。高校一年生の夏休みですね。岩手の龍泉洞とか青森の恐山とかをまわって、時にはその地方のヤンキーに「誰の許可を得てここを通ってるんだよ」とか難癖つけられたりしながら(笑)、3週間ぐらいかけて走りましたよ。ただ、自転車を漕ぎすぎたからなのか、椎間板ヘルニアになって入院しましたけどね(笑)。

——第7部は具体的にどういう物語にしていこうと考えていましたか?

荒木 ジャイロ・ツェペリとジョニィ・ジョースターは、まるで兄弟関係みたいなものを象徴して、お兄さんを失ったジョニィがジャイロのおかげで成長していき、最後はジャイロが死ぬというところまでは考えていました。ふたりの登場はパラレルワールドの存在を表していて、鉄球は波紋の変形なんですよね。パラレルワールドを描けることで、『ジョジョ』の物語はいろいろな形で再び語り直すことができるようになったと思います。ただ、一応ルールはあって、ジョニィとジャイロの関係も、前の話とある程度のリンクをつけておく必要はあります。



こちらも荒木さんが気に入っている絵。急に色に目覚めた時期だったらしく、「グリーンを塗ったときに、おおっと思った」とのこと。

——6000㎞に及ぶ大陸横断レースは描いているほうとしても長くなかったですか?

荒木 長かったですよ。大陸横断の旅は、なかなかゴールまでたどり着かなくて、描いていてきつかった。自分自身が最後のゴールまでたどり着けるのか心配でした(笑)。それに荒野とか草原をずーっと描いていると、精神的にくるんですよ。本当に疲れましたね。あぁ、早く日本に帰りてぇと思ってました(笑)。

——第7部が今のところ一番長いシリーズになっていますよね。

荒木 そうです。『週刊少年ジャンプ』から『ウルトラジャンプ』に移ったことで月刊になったし、ページ数も増えたから、連載期間も6年か7年ぐらいかかりました。

——このシリーズも魅力的なキャラクターが多いですが、印象に残っているのはどれですか?

荒木 全員好きですよ。なかでもリンゴォ・ロードアゲインは描いていてよかったなぁ。礼儀正しくて、男の美学があって。

——そこにはクリント・イーストウッドの西部劇からの影響はあるのでしょうか?

荒木 間違いなくあります。イーストウッドは、西部劇を誰も撮らなくなった時代にあえて西部劇をつくり、しかもそれが大傑作だってところがいいんですよね。

謎だらけの『ジョジョリオン』

——第7部から始まったパラレルワールドの世界は、現在『ウルトラジャンプ』で連載中の第8部『ジョジョリオン』でも受け継がれています。まだまだ先が見えていませんが、『ジョジョリオン』はどういう構想で描いているのですか？

荒木　とにかく『スティール・ボール・ラン』が過酷で、早く日本に帰りたくてしょうがなかったから、それだったら次の舞台は杜王町にしようって（笑）。杜王町を描いているとホッとするんですよ。ウチに帰ってきたなぁって気がして。物語自体はスタートしたばかりで、僕自身もまだまだ全貌が見えていません。ジョニィと定助は血統的につながっていて、ちょっと因縁もある、みたいなことしかイメージしていないんです。舞台が杜王町だから、第4部の人たちと何かしら関わりがあるだろうということは何となく想像つくと思いますが、そこから先の展開になるとまだよくわかっていないんですよ（笑）。

——ということは、第4部のキャラクターが別の形で登場する可能性はあるってことですか？

荒木　あるでしょうね。重ちーの別バージョンが出てくるかもしれないし、露伴も出てくるかもしれない。またそうやって杜王町をつくっていきたいと思っています。

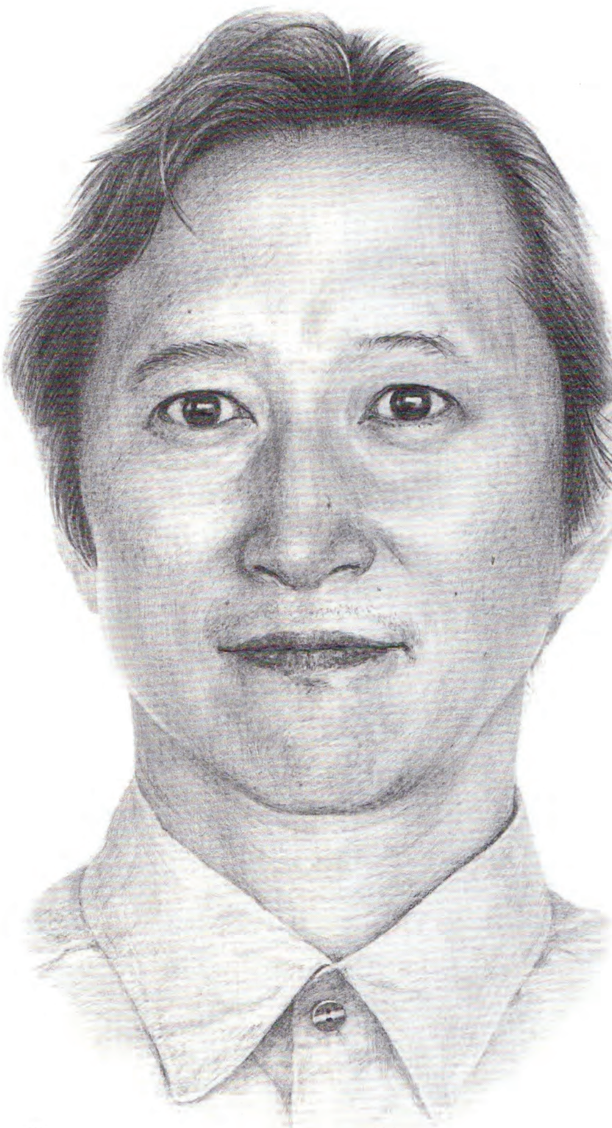
——『ジョジョリオン』というタイトルの由来は？

荒木　ここに来て急に、ジョジョを入れたくなったんです。じゃあ、造語をつくろうということになって。候補の中には『ジョジョタウン』とかありましたよ（笑）。

——それってどこかの通販サイトみたいですね（笑）。

荒木　そういえば、今回のムックのタイトルにつけた『ジョジョメノン』も候補のひとつに挙がっていたんですよ。

「もう『ジョジョ』しか描かないし、描けない」



——そうだったんですか！　実際、『ジョジョリオン』ってすごく覚えやすいんですけど、意味がわからないので、その謎めいた感じがいいですよね。

荒木　『ジョジョリオン』で描きたいのは、東方定助というキャラクターが生まれた理由なんですよね。そのつながりを解き明かしていきたいと思っています。

——連載準備中に東日本大震災が起きて、そのことも受けて物語は始まっています。震災後の杜王町に突如地面が隆起して「壁の目」と呼ばれる不思議な断層が現れるわけですが、ここにきてリアルタイムの『ジョジョ』が始まったわけですね。

荒木　杜王町のことを描いていて、やっぱりそこは避けられないですよね。ただ、表現の仕方によっては傷つく人がいるから、注意して描こうと思っています。

——まだ始まったばかりですが、第8部ではスタンド同士のわかりやすい肉弾戦がなく、相手の記憶をチェスに閉じ込めたりとか、細かいレベルの戦いになっているのはなぜですか？

荒木　より日常感を表したかったんですよ。火山を噴火させるとか、時間を止めるとか、そういうでっかいやつじゃなくて、小さいやつにしようと思ったんです。そのことで戦い方とか使い方を考えるのは難しくなるかもしれないけど、微妙な心理は描きやすくなった。小さいからこそ、余計に怖いと思うことってありますからね。

——そして、東方家の家系図が現れて、どんどん血統の話が出てきています。あのつながりは衝撃でした。ここにコイツがいるのかって。

荒木　そうですか。僕にしてみれば自然の流れなんですけど、まぁ、たしかにこれから家系図が重要になってきますね。家系図を眺めているだけで、一晩中ご飯が食べられるくらい面白くなるんじゃないですか（笑）。

——『ジョジョリオン』は、これまでのシリーズに比べて、少しエロティックな要素がありますが、これはどういう意識なんですか？

荒木　今まで描いたことのないものを描いてみたかったんです。だから、バストトップが出たのもたぶん今回が初めて。絵に関しても、少しゆるく描こうかなって思っているんですよ。ぎちぎちの戦いだけじゃなくて、ちょっとはずれるというか、そのへんが読者も好きなんだろうなと思うんですね。今までは怖さとかそういうのばかりを追求していたので、そこの中に適当感というか、ゆるさを入れたいんですよ。

——それは具体的にはどういう形で表れていますか？

荒木　たとえば、白い絵とかをけっこう増やしているんですよ。みっちりと描き込まないで、そこでちょっとゆるくさせるようにしています。以前のように黒く描いてもいいんだけど、読者がここでぎちぎちにならないでさらっといきたいと思わせるために、あえて白くしています。

——『ジョジョ』はシリーズを通し



第５部のエピローグ「眠れる奴隷」は、荒木さんが描いてよかったと語るエピソード。そこには『ジョジョ』シリーズの神髄がある！

て常に絵が進化していっていますよね。

荒木　変えようというよりも、昔の絵を描かないようにしようと心がけていますからね。ただ、広瀬康一とか小林玉美とか、身長がどんどん縮んでいくキャラがいるから、あれはちょっとまずいかなとは思いますけど（笑）。

――逆に、第7部のファニー・バレンタイン大統領はどんどん大きくなっていきましたよね。

荒木　まぁ、あれは鍛えているからいいってことで（笑）。実際、キャラクターがどんどん動いていっちゃうんですよ。セリフにしてもポージングにしても自然の流れで出てきている感じです。

――セリフに関しては、『ジョジョの奇妙な名言集』という形でまとまって本になっているからすごいですよね。

荒木　すごいですよね（笑）。ああいう形で若い世代の人たちに受け入れられるのを見ると、描いてよかったなあと思いますね。

荒木飛呂彦はずっと『ジョジョ』

――あらためて25周年を振り返って、どういう感想ですか？

荒木　マンガってひとりで描いているときが多いんですよ。そのときに友達は遊んでいるわけですから、そういうのを見ながら、自分の仕事はこれなんだって言い聞かせてやってきた感じですね。べつに我慢してきたわけじゃないんですよ（笑）。それが積み重なって今になっているだけだと思うんです。

――こうなると次は50周年ですかね。この調子だと、あり得ると思うのですが。

荒木　いや、ないでしょ。でも、そのときになってもまだ第8部を描いていたら面白いですよね（笑）。

――散々聞かれていることだと思いますが、長く続ける秘訣って何ですか？

荒木　アイデアじゃなくて、やる気。描きたいという気持ちなんだと思います。だから、それがなくなるのが怖いですよね。

――過去にそう思ったことはあったんですか？

荒木　もう描き切ったかなって思ったときは、そういう感じになりましたね。でも、そこからまた描き続けられたのは、目標にする人がいたから。クリント・イーストウッドを見たら、まだまだやろうって気になりますよ。

――子どもの頃からマンガ家になりたかったわけですよね。初めて描いたマンガって覚えていますか？

荒木　うーん。最初は友達の似顔絵から始まるのかな。ストーリーがついたものとしては、チャンバラ漫画みたいなものを描いた記憶がありますね。友達に見せたら、「うまいね」って褒められました。

――そのときからずっとマンガを描いているときが一番楽しいという状態が続いているわけですか？

荒木　そうですね。それは変わってないです。そもそも僕は趣味という趣味がないんですよ。だから、続けられるのかもしれませんね。

――では、「こうしたい！」とか、何か夢とか目標みたいなものはないんですか？

荒木　えっ、夢ですか。女優さんと結婚したいとかってこと（笑）。いやいや、それも特にないですね。あっ、でも、イーストウッドと会うことは夢でした。だから、今回実現したことはすごくうれしいです。ドタキャンされたら本当にガッカリするから、実際に会うまではあまり期待しないようにしていましたからね（笑）。

――『ジョジョ』シリーズは永遠に描き続けていこうという意識はあるんですか？

荒木　『ジョジョ』シリーズしか描けないのかなというのはありますよね。逆に、いろいろなところにいくのはダメだと思います。芸能人が政治家になったりするのは、本当にイヤなんですよ。そういう人にはゼッタイに投票しないですから。これは書いてもらってかまいません（笑）。人には持ち分みたいなものがあるんですよ。それを超えてあっちにもこっちにも行く人は好きじゃないですね。モチはモチ屋じゃないですけど、荒木飛呂彦はずっと『ジョジョ』でいいんですよ。もう『ジョジョ』しか描かないし、『ジョジョ』しか描けない。

HIROHIKO

2012年6月、荒木飛呂彦はニューヨークにいた。

GOES TO

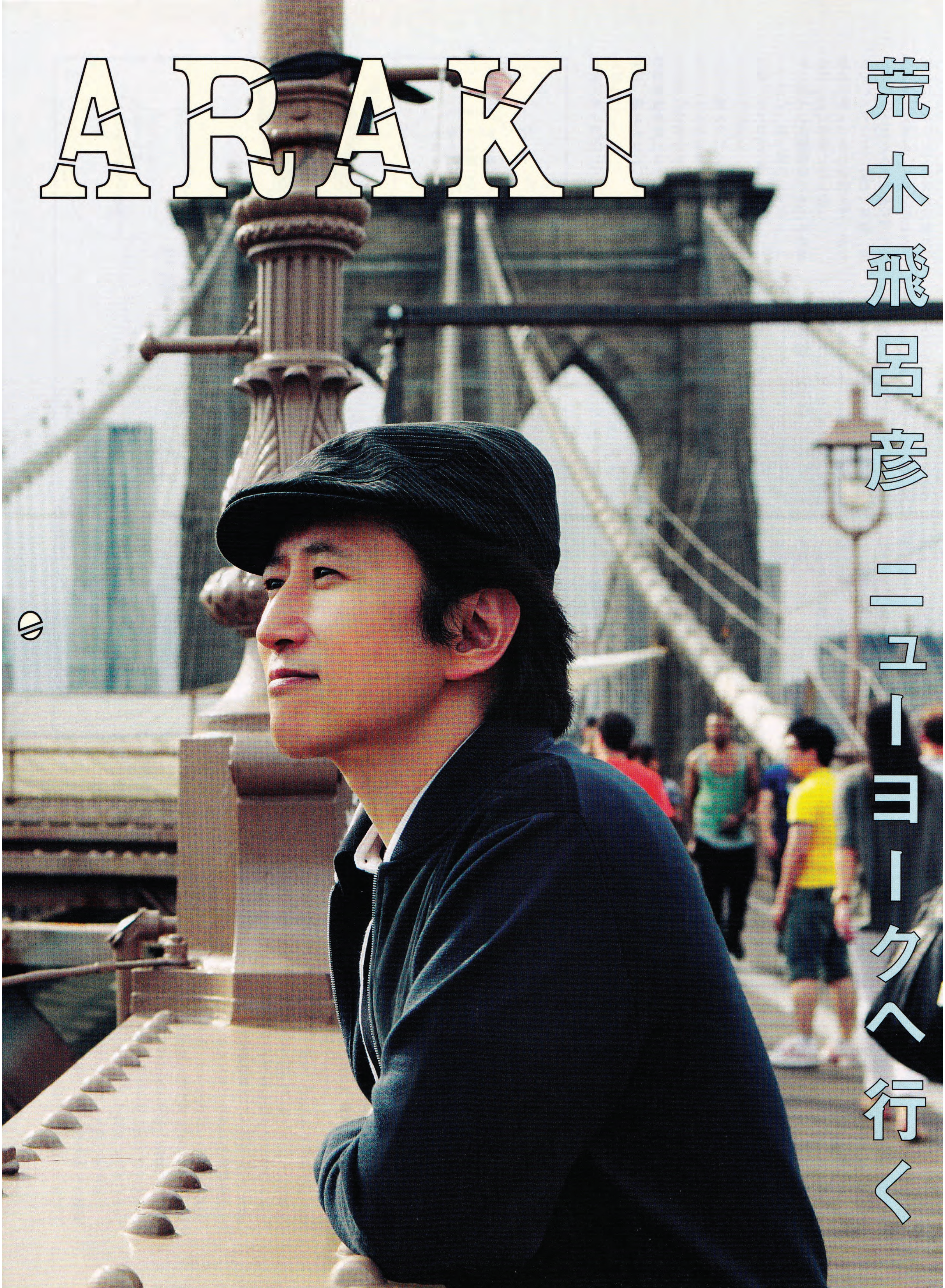
『ジョジョの奇妙な冒険』の舞台にもなったこの街で、

NEW YORK

新たなストーリーのインスピレーションを求めて

photographs:Kikuko Usuyama
coordination:Akiko Ichikawa





ARAKI

荒木飛呂彦 ニューヨークへ行く

GUCCI 2013 CRUISE COLLECTIONへ。

NYでフリーダ・ジャンニーニと再会。

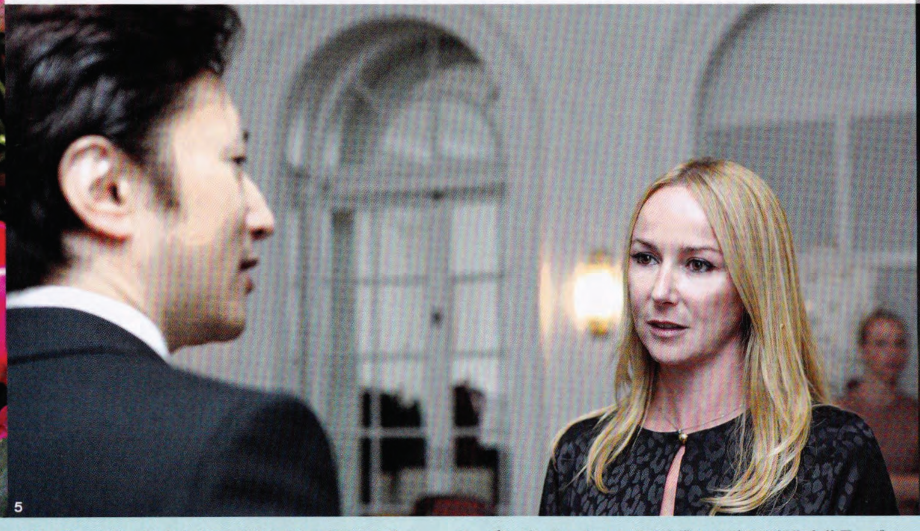


1











1　グッチ2013 クルーズコレクション、ニューヨーク会場の中庭にて。グッチのアイコン「フローラ」柄さながらの満開の花を背に荒木飛呂彦の隣でほほえむのがフリーダ・ジャンニーニ。荒木が着るのはグッチ2012春夏メンズのルック。

2　プレゼンテーションでは実際にモデルが新作を着用。グッチ秋冬ショーのランウェイも歩いたトップモデルのひとり、マウド・ウェルゼンは、レオパード柄のオールインワンを着用。　3　会場の邸宅「Academy Mansion」のエントランス前で。

4　会場にディスプレイされたサドル(鞍)に刺しゅうされたグッチのクレスト(紋章)。甲冑を身に着けた騎士が両腕にラゲージを携える図は、グッチのルーツとアイデンティティの象徴。　5　新作の各ルックを自ら説明するフリーダ・ジャンニーニ。

２０１２年6月、荒木飛呂彦はニューヨークにいた。今回は連載作品の取材ではない。グッチがニューヨークで発表したクルーズコレクションを自身の目で確かめるためだ。

イタリアンブランド「グッチ」と荒木の出会いは２０１１年。グッチが誇る歴史とアルチザンのプライドをテーマに描いた『岸辺露伴 グッチへ行く』は、『ジョジョ』ファンたちの予想の〝斜め上〟を行く、新しいスタイルでのマンガとファッションのコラボを示した作品。『ＳＰＵＲ』誌上で発表されるやいなや、たちまち話題となった。さらに作品の原画と描かれた最新コレクションを同時にディスプレイする「岸辺露伴 新宿へ行く展」をグッチ新宿で開催。ファッションフリークにも〝モードなマンガ〟の可能性を知らしめた。さらにグッチはフィレンツェに構えるミュージアム「GUCCI MUSEO」で荒木の原画展を開催することを決定。その発表を前にフィレンツェ展のキービジュアルを描くことになった荒木は、『岸辺露伴 グッチへ行く』を制作したときと同じように、服に直接触れることでそのスピリットを感じるため、この都市まで足を運んだのだ。

クルーズコレクションとは、ホリデイ(クリスマスシーズン)に、暖かなリゾート地などで、ひと足早く春の気分を楽しめるコレクション。グッチの伝統とモダンなテイストを融合させたこのコレクションの発表会場として、グッチが用意したのはアッパーイーストにある瀟洒な邸宅。その花の咲き乱れるパティオで、荒木を待っていたのは、グッチのクリエイティブ・ディレクター、フリーダ・ジャンニーニだった。





1





3 2



1　サイドにボタンが並ぶラベンダーのミニドレス。胸元にはホワイト、パープル、ペールピンクなどカラフルなパールやビーズ、クリスタルのフラワーモチーフ。
2　スポーティなフローラ柄のダブルブレストコート。コート自体がキャンバスであるかのように全面に花々が描かれる。フローラをモチーフにした今回のクルーズコレクションを象徴するルックだ。
3　ニューヨーク滞在中に誕生日を迎えた荒木飛呂彦。コレクションのプレゼンテーションに先立ち、フリーダからギフトが贈られた。ボックスに入っていたのは、グッチのiPadケース。
4　フィレンツェでの「荒木飛呂彦展」のためのキービジュアル。描かれたのは第6部の主人公、空条徐倫と、イタリアが舞台の第5部に登場するブローノ・ブチャラティ。徐倫が身にまとうのは写真2のフローラ柄コート。ブチャラティが着るネイビースーツも、グッチの新作メンズスーツだ。背景にそびえるのはフィレンツェのドゥオモ。荒木飛呂彦らしい鮮やかなグリーンで塗られた空には、フローラの模様が淡く透ける。この作品の原画は10月6日より開催される東京の「ジョジョ展」でも展示される。
5　キービジュアル用に描く予定のコートを徹底的にリサーチする荒木飛呂彦。驚くべきことに、すでにこの時点で肘を曲げて手綱を握る徐倫の姿を描くことを想定していたのか、腕の部分の柄を入念にチェックし、確認用の写真を何枚も撮影していた。
6　乗馬の世界と縁が深く、歴史ある障害馬術競技会のスポンサーでもあるグッチ。乗馬用のウェアや馬具のコレクションも初展示。





4



6 5

フリーダ・ジャンニーニと荒木飛呂彦が顔を合わせるのは2011年9月、フィレンツェで開かれた「GUCCI MUSEO」オープニング以来。互いの再会を祝しつつ、新しいコレクションについて説明するフリーダ。「このコレクションは、グッチのアーカイブにある〝フローラ〟をメインモチーフにしています。フローラはプリント、刺しゅう、さらにビーズやクリスタルで立体的に表現されたものもあります」。フローラはグッチが作り出したフラワーパターン。1966年にグッチがグレース・ケリーのためにデザインした花柄のスカーフがオリジンとされる、ブランドアイコンのひとつ。「アイテムごとにバランスを変えているけれど、描かれた花はすべて同じアーカイブを元にしています」。

「どれも生命感に満ちあふれている。すごくいいですね」と荒木。

コレクションを身に着けたモデルを前に、クリエイティブ・ディレクターのフリーダ自身が解説を加える。非常に贅沢なプレゼンテーションだ。新作のスポーティなコートについてフリーダは「このフローラは強い色を使っていますし、荒木さんの絵に似合うのではないでしょうか」。

「このコートは全体に柄が入っているし、マンガではアップにして全身を描かない場合も多いから構図的にもいいですね」と荒木。こうして選ばれたのが、フィレンツェ展キービジュアルの衣装。馬上の徐倫の身を飾るのはコレクションを象徴するルックのひとつ、フローラ柄コートだ。グッチと荒木飛呂彦によるコラボレーションは、これからも新たなサプライズを生み出すことになりそうだ。

荒木飛呂彦の奇妙なニューヨーク案内

荒木飛呂彦の旅先といえばイタリア……だが、作品に意外と多く登場するのがニューヨークだ。〝奇妙〟をキーワードに選んだＮＹアドレスを巡る。



ジョジョにおけるニューヨーク

ニューヨーク訪問は荒木さんにとって3回目。「『スティール・ボール・ラン』の取材で2度来ています。前回は冬場で寒かったけど、気候のいい時期は気持ちいいですね」。『ジョジョ』でニューヨークが舞台となったのは、まず第2部冒頭。コーラ売りから英国風アクセントを揶揄されたジョセフは、少年スモーキーを救うべく警官に波紋でコーラの王冠を吹っ飛ばす。そこで描かれたのは暴力と猥雑さあふれる1938年のニューヨーク。さらに『スティール』では1891年のニューヨークが作中のレースのゴール地点に。「長い物語で、本当にゴールへたどり着けるか不安でしたね。ここに来て、一番日本と違うと感じるのは建物の量感。距離感が変になるというか。え、ニューヨークで一番好きなところ？　うーん、バーガーキングかな。あれはうまいっすね（笑）」。

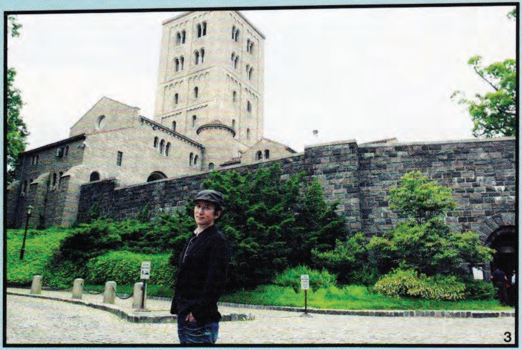


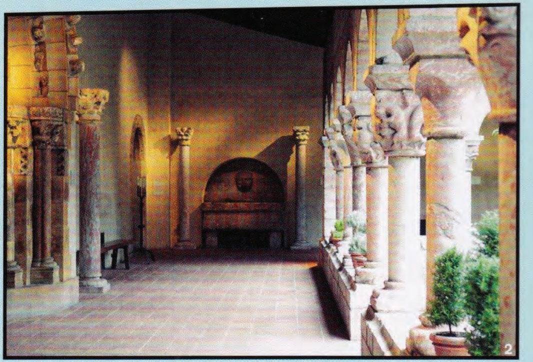
第2部に登場するＮＹ。ジョセフは荒木さんと同じくキャスケット着用。





古色蒼然としたクロイスターズの様子は、復活したディオが吸血鬼を従えて拠点とした〝風の騎士たち〟と呼ばれる町「ウインドナイツ・ロット」に酷似。





4　フランスの教会を飾っていた13～14世紀のステンドグラスも。フレスコ画や祭壇画、彫刻なども数多く収蔵する。
5　非常に獰猛で処女にしかなつかず、その角には、毒に汚された水を清める力が宿るといわれるユニコーン。ザクロの木のたもとで生け捕りにされた姿を描写したのは、７枚の連作中で最も有名な『囚われのユニコーン』。1500年頃ブリュッセルで織られたとされる。

1　『The Hunt of the Unicorn』と題された7枚のタペストリーの間。狩人がユニコーンを追い、生け捕る様を描く。ここにはユニコーンの角も展示。実際にはクジラの仲間、イッカクの牙であろうといわれる。
2　ピレネー山脈のベネディクト派修道院から移築された「キュクサの回廊」。回廊中央の中庭には、中世と現代、両方の植物が植えられる。
3　丘の中腹にそそり立つ石造りの塔は壮観。

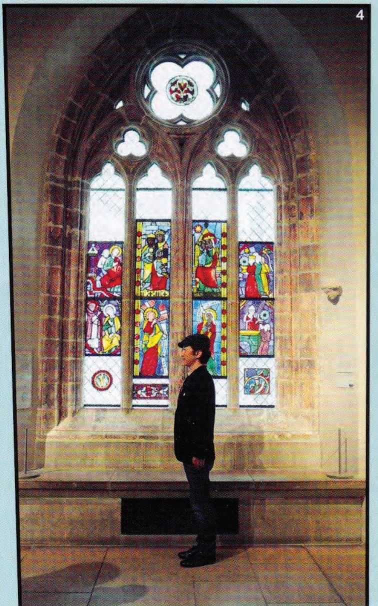
THE CLOISTERS
クロイスターズ

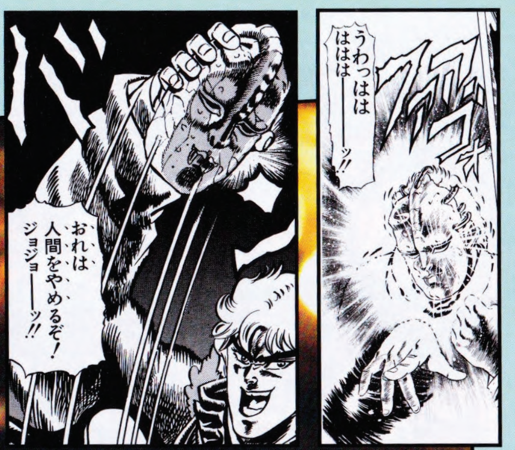
中世ヨーロッパ美術と建築の遺構を集めたメトロポリタン美術館別館。マンハッタン北部のフォート・トライオン公園内に位置し、まさに〝いわくつきの古城〟といった〝奇妙〟な雰囲気だ。収蔵品の中でも、空想の動物ユニコーンが人々に襲われ捕らえられる姿を織り上げたタペストリーの連作は、その奇想に惹きつけられる。

●The Cloisters Museum and Gardens
Fort Tryon Park　☎212-923-3700
㊏9時30分～17時15分　㊡月曜　入場料／＄25
www.metmuseum.org/visit/visit-the-cloisters

※＄１＝約78.2円です（９月10日現在）。







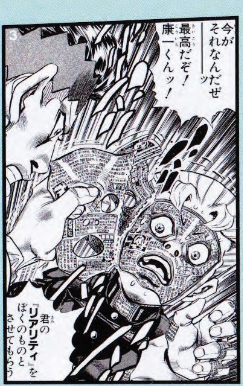
「おれは人間をやめるぞ！」と高らかに宣言するディオ。『ジョジョの奇妙な冒険』における仮面といえば、なんといっても第１部でおなじみの石仮面だ。写真は『SLEEP NO MORE』観劇後のディナーで、劇場で渡される白いマスクとトランプを手にポーズを決める荒木さん。



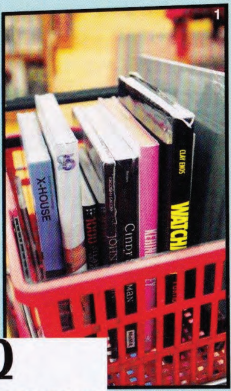












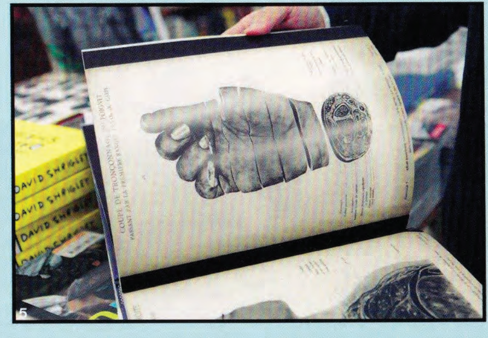
1　この日入手したのは、エドワード・バーン=ジョーンズやジョン・カリンの作品集、シンディ・シャーマン、テリー・リチャードソン、ライアン・マッギンレーの写真集、マンガ関連では『ウォッチメン』のビジュアル集も。さらにスチームパンクに登場するアイテムの図録、日本の着物の写真集、建築関連本などなど。
2・3　数々の本を直感的に選びチェックしていく様は、岸辺露伴のヘブンズ・ドアーさながら。本から受け取るリアリティこそが作品に生命を吹き込むエネルギー。
4・5　偶然めくったページには、『スティール・ボール・ラン』に登場する"無限の回転"のごとき輪切り状の手のデッサンが。
6　古書コーナーの荒木さん。手にするのはアール・スタンリー・ガードナー『殴られたブロンド』。

STRAND BOOK STORE

ストランドブックストア

古書街でもあるユニオンスクエアの老舗書店。新刊やビジュアル本、コミックコーナーのほか、有名作家の初版などの稀覯本を多く取り揃える。日本へのシッピングにも対応し、この場合、送料はかかるものの州税が免除されるため、実にお得。書店オリジナルのトートバッグはＮＹ土産としても有名。荒木さんもお買い上げ。

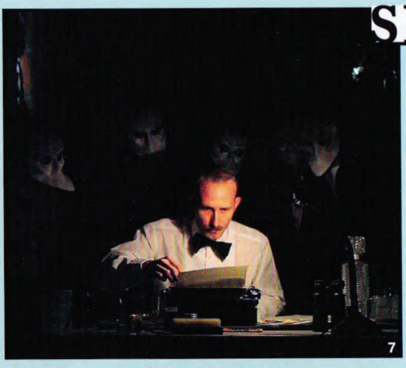
●828 Broadway　☎212-473-1452
㊝9時30分〜22時30分、11時〜(日曜)
無休　www.strandbooks.com





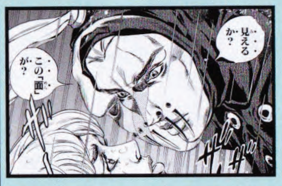






7　観客は入場時に渡される白いマスクを着用して、ホテルで起こる数々の諍いの現場に立ち会う。あたかも自分が亡霊となり、起こるべき惨劇を静かに見届けるような立場に。
8　ベッドルーム、バスタブ、屋根裏部屋……ゴシックな調度にあふれたホテルの随所で、繰り広げられるパフォーマンス。観客はそれらに自由に近づいて見守る。だが一度見ただけでは全貌を把握することはできない。
9　マクベスやマクベス夫人などの主要キャスト、看護師やホテルの従業員まで、パフォーマーは約19名。予約はすべてネット上から。鑑賞するのに英語はわからずとも問題ないが、『マクベス』を読んでおくと、随所にちりばめられた元ネタを理解しやすい。暗闇を歩き回り階段の上り下りもあるため、歩きやすい靴が必須。





雨の上を歩くキャッチ・ザ・レインボー(上・第7部)やブラック・サバス(左・第5部)など、『ジョジョ』には"仮面"のスタンドがたびたび登場。

SLEEP NO MORE

スリープ ノー モア

ニューヨークでロングランを続ける体験型エンターテインメント。舞台は廃業したホテルThe McKittrick。この不気味な場所を舞台に、シェイクスピア『マクベス』を下敷きとした、一晩の悲劇が始まる。観客はみな白いマスクをつけ、ホテル内のフロアを自由に回遊。その場で突発的に始まるパフォーマンスを目撃していく。そして最後にはすさまじいカタストロフが……！「最初は何をしたらいいのかすらわからなかったけど、よくできてるよ。面白い！」と荒木さんも絶賛。

●The McKittrick Hotel　530 West 27th Street　公演期間、予約、料金はウェブで。
http://sleepnomorenyc.com



THE WHISKY SHOP BROOKLYN

ウイスキーショップ ブルックリン

マンハッタンを離れ、クリエイターたちが多く暮らすブルックリン、ウィリアムズバーグへ。『ウイスキーショップ ブルックリン』は、バーに併設されたウイスキー専門の酒屋。世界中からセレクトされたスコッチ、ウイスキーは実に99種類。おすすめはこのショップのオリジナルとなる「Tom Lawless」や、ニューヨークで最も古い蒸溜所で造られたバーボン「Kings County Distillery」。実はウイスキーもイケるクチだったりする荒木さん、思わずお土産に購入。

●44 Berry Street Brooklyn
☎718-387-8444
㊌15時～23時、13時～(土・日曜)
㊡火曜
http://whiskeybrooklyn.com







1 「ワインやシャンパンだけでなく、ウイスキーもけっこう飲みますね。好きなのはスコッチだと『マッカラン』。サントリーの『響』もよく飲んでいます」と荒木さん。ウイスキーショップブルックリンの店主からニューヨーク産のバーボン「Kings County Distillery」をすすめられたところ、「でも実はバーボンは独特の匂いがちょっと苦手で……」と腰が引けぎみ。こわごわ飲んだが……「あ、これはおいしい！　香りもいいし」。
2 「酒！　飲まずにはいられないッ！」貧民街でやけ酒を煽るディオ。石仮面をかぶったあとの超人ぶりと上から目線な態度から考えると、可愛らしいとすら思える、人間らしいヒトコマ。
3 「Kings County Distillery」のバーボン。オールドファッションで武骨なボトルも雰囲気だ。
4 右側のドアから階段を下ると、深夜も営業するバーへ。

BROOKLYN FLEA IN FORT GREENE

ブルックリンフリー イン フォートグリーン

マンハッタン内ではめっきりと減ってしまったフリーマーケット。むしろ賑わっているのがブルックリンのマーケットだ。土曜はフォートグリーンで、日曜はウィリアムズバーグでそれぞれ開催される。

●176 Lafayette Ave.　㊊10時～17時(毎週土曜)　冬季は屋内で開催
www.brooklynflea.com



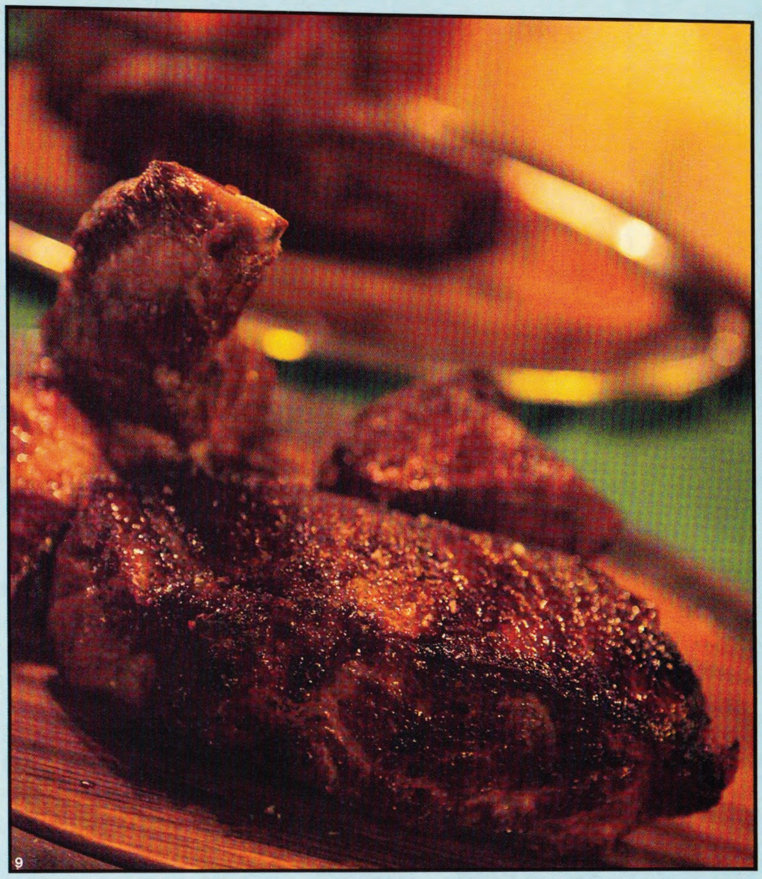






5・6 荒木さんがパクついているドーナツはフリーマーケットにも店を出している人気のドーナツ店「DOUGH」(ドー)のもの。ブルックリンのベッドスタイには店舗も構えている。ちなみに『ジョジョ』第3部でオインゴ・ボインゴ兄弟に話しかける"取材中のマンガ家"が携えているお菓子は「タベッコドーナツ」。
7 アナログ盤をチェック。トム・ジョーンズのラスベガスでのライブ盤を見て「これはCDになってないんだよ」。
8 このとき物色していたのは中古の二眼カメラ。





9・10　「プライム ポーターハウス」は２人前で＄96。ビーフのほかにマトンチョップも伝説的に有名。
11・12　300席にも及ぶ広大な店内。肖像画やプログラム、鎧兜……ディスプレイの数々に、老舗ならではの歴史を感じさせる。リンカーン大統領ゆかりの品をコレクションした「リンカーン・ルーム」も。
13　エントランス近くに飾られたパイプには、〝キング・オブ・ポップ〟マイケル・ジャクソンをはじめSF作家アイザック・アシモフ、アクション俳優のチャック・ノリスらの名前が、脈絡もなく並ぶ。クレイパイプ（陶製のパイプ）は壊れやすく持ち運びができないため、店で預かる習わしだった。やがて壁や天井に飾られたパイプが、有名人たちがこの店を訪れた証明書のようになっていった。





KEENS STEAKHOUSE

キーンズ ステーキハウス

歴代大統領や名だたるセレブが数多く通ったステーキハウス「キーンズ」。もともとは女子禁制。男たちはパイプをくゆらせ、店内にはかぐわしい紫煙が立ち込めていた。禁煙となった現在も壁から天井のいたるところに掲げられるクレイパイプは往時の名残だ。そんな〝歴史的空間〟で味わうステーキは重厚にして滋味深い。荒木さんが頼んだ「プライム ポーターハウス」はじっくり熟成されたプライムビーフのガツンとした味とボリューム、分厚い肉を骨ごと屹立させる独特のサーブまで含めて、まさに〝ビッグアメリカ〟。

●72 West 36 Street　☎212-947-3636
㊋11時45分～22時30分、17時～（土曜）、17時～21時（日曜）　無休　www.keens.com



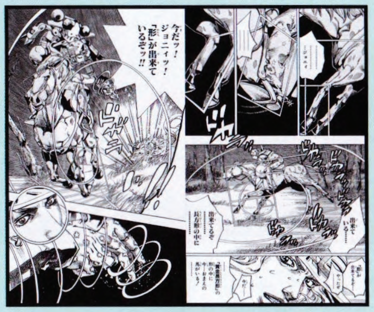
14　キーンズ ステーキハウスは1885年創業。年代から推察すると『スティール・ボール・ラン』に登場し、〝最初にナプキンをとる者〟を志していたファニー・バレンタイン大統領がこの店でディナーをとっていた可能性も。







1・2　美しい木馬に黄金長方形のフォームのごとく優雅に揺られて。この回転木馬はブルックリン・ダンボ地区のディベロッパーの妻が、地域振興のため私費を投じ、20年かけて修復・開業したという。そんな篤志家スティーブン・スティールを思わせる逸話も。



JANE'S CAROUSEL

ジェーンズカルーゼル

美しいヴィンテージの木馬とそれを覆うモダンなガラスのコントラスト。2011年、ブルックリン・ブリッジ・パークに開業した回転木馬が話題だ。1922年にフィラデルフィアで制作された木馬は完璧に修復され、建築家ジャン・ヌーベルが設計したプレキシガラスに覆われ、1200個のライトとともに光り輝く。

●The Brooklyn Bridge Park (between the Brooklyn and Manhattan Bridges)　㈱火曜
料金／＄2　営業時間は季節により変動。ウェブで確認を。　http://janescarousel.com

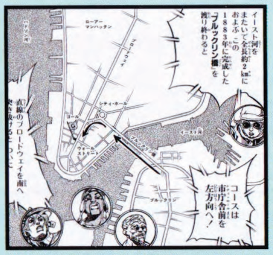
『スティール・ボール・ラン』、最終レースのコースを巡る



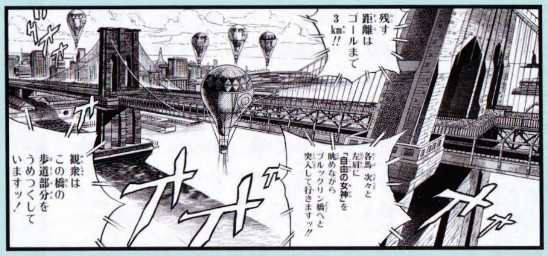
BROOKLYN BRIDGE

ブルックリン橋

『スティール・ボール・ラン』ファイナルステージで、ジョニィとディオが死闘を繰り広げたのが米国で最も古い吊り橋、ブルックリン・ブリッジだ。クライマックスを描くにあたり、荒木さんは2011年1月、この橋を訪れた。「ブルックリン側から渡り始めて資料写真を撮ろうと思ったんだけど、ものすごく寒くてカメラを持つ手がかじかんで大変だったんですよ。最初は歩いて橋を渡り切ろうと思ったけど、途中であきらめたくらい寒くて……」という思いもよらない裏話が。



橋を渡ったら市庁舎を左へ。ブロードウェイを南へ突っ切り、ウォール街に入ったら、ゴールはすぐそこ。



ファイナルステージの舞台はニューヨーク。コニーアイランドからブルックリン橋を渡ってマンハッタンへ至る、13kmの市街戦だ。ブルックリン橋を渡り切る直前で、ジョニィとディオの最後の戦いが行われる。



TRINITY CHURCH

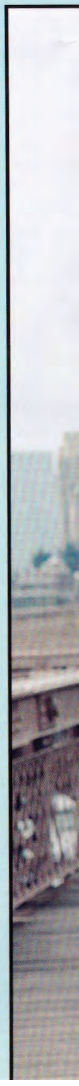
トリニティ教会

頂点に十字架を掲げたゴシック様式の尖塔。『スティール・ボール・ラン』のゴールとなったトリニティチャーチ。「でも最初はレースのゴールをセントラルパークにしようと思ってたんですよね。でも調べてみたら当時のセントラルパークはちょっと田舎というか、まだあまり開けてなかったらしいから場所を変えたんです」。そこで選ばれたのがトリニティチャーチ。作品内でレースが開始された1890年まで、この教会はニューヨークで最も高い建築物。ローワーマンハッタンのランドマークは長い旅を締めくくるにふさわしい、祝福された場所だった。

●74 Trinity Place ㊐7時～18時、8時～16時（土曜）、7時～18時（日曜）
www.trinitywallstreet.org

当然だが、実際には地下にシェルターはない。ちなみに映画『ナショナル・トレジャー』('04)でもトリニティ教会の地下に宝が隠されているという設定が。





JOJO'S 25TH





4



6
7





HIROHIKO'S 52

ANNIVERSARY



3

2

1

5



ジョジョ25周年、荒木飛呂彦52歳のお祝いをＮＹで

2012年６月７日。この日は荒木さん、52回目のバースデイ。ＮＹ滞在中に誕生日を迎えるにあたり、SPURの取材スタッフとグッチ・ジャパン担当者で、サプライズパーティを開くことに。集合場所に、いきなり横づけされる真っ黒なストレッチリムジン。驚きながら急かされて乗り込む荒木さん。満載された風船や鳴り響くクラッカーで車内にいながら、すでにお祭りムードに。向かった先は2012年春に開業したホテル「The NoMad Hotel」(www.thenomadhotel.com)のメインダイニング。シャンパンでの乾杯のあとは、ひたすらおいしい食事。次々と開くワインのボトル。誕生日のギフトにグッチから黒いハイトップ・スニーカーを。SPUR編集部からは夏用の麻のキャスケットをプレゼント。そしてクライマックスはデザート。この日のために準備した〝スペシャル・ケーキ〟が運ばれる。これは自身も大の『ジョジョ』ファンというＮＹ在住ケーキ職人・黒川綾子さん(www.ayakokurokawa.com)が作ったレモンタルト。『岸辺露伴 ルーヴルへ行く』の表紙の絵を点描で再現し、ルーヴル美術館をブルックリン橋に変更したニューヨーク・バージョン。イラストをタルトの縁の部分にまではみ出させたダイナミックなアレンジに、荒木さんも感動。次は連載30周年アニバーサリーまで頑張ってください、荒木先生！

special thanks:The NoMad Hotel

ND BIRTHDAY

画家とマンガ家、絵を語る。

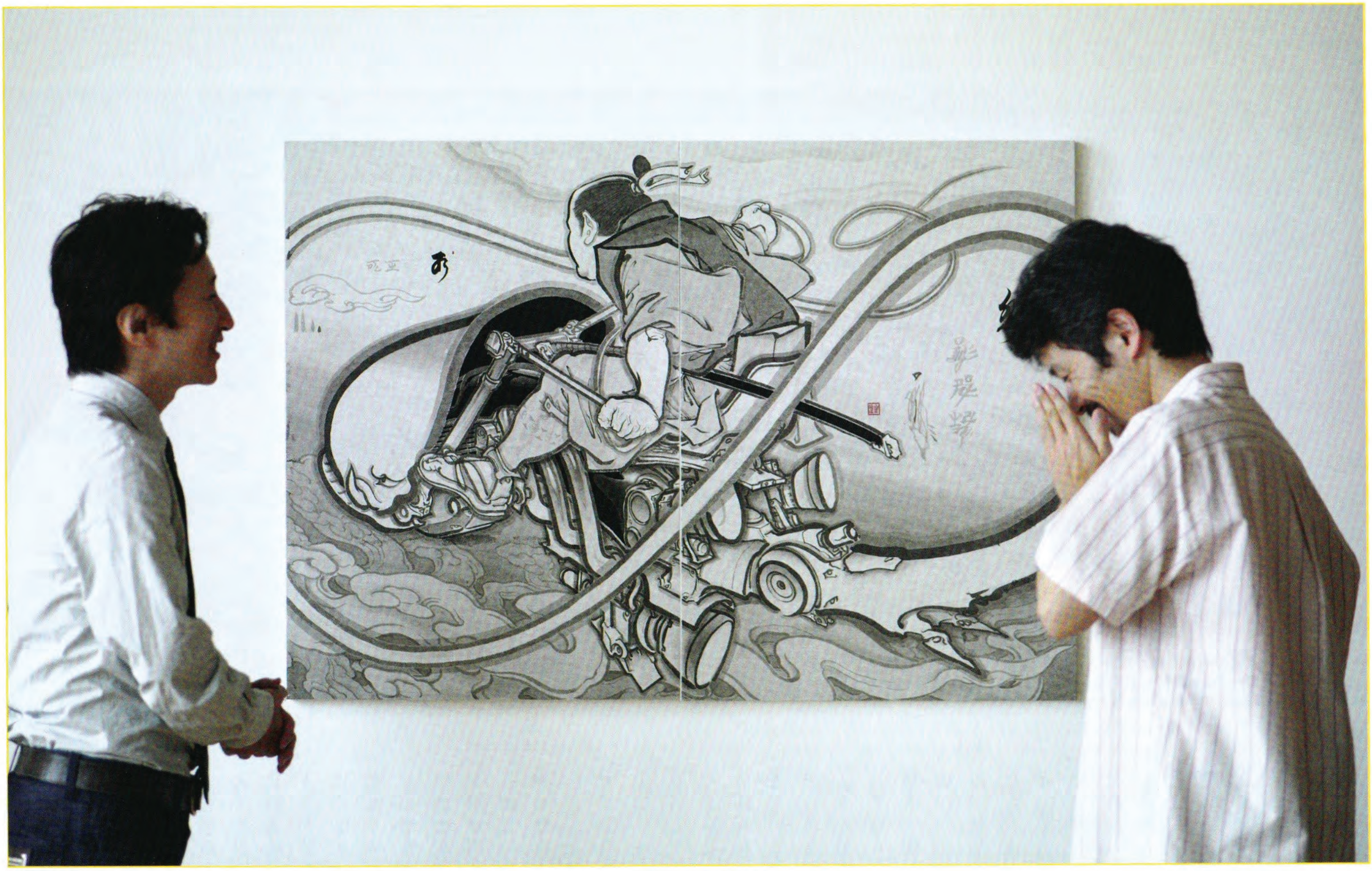
山口晃・荒木飛呂彦 筆とペンのはなし

互いの作品に敬意を払い合う画家・山口晃とマンガ家・荒木飛呂彦。空間を埋め尽くす密度の濃い画風、時空を超えて描かれる世界観など、創作のジャンルは異なれど、その作品に共通する点は多数。筆とペンの初顔合わせ。さて、勝負はいかに？



photographs:Shin Suzuki
text:Jun Ishida
cooperation:
MIZUMA ART GALLERY

愛用の画材を握る山口と荒木。
筆を持つのは山口の手。
ペンを持つのは荒木の手。
手は絵描きのもうひとつの顔である。
ふたつの手から想像できる人物像とは、
どんなものだろう。



荒木飛呂彦（左）と山口晃（右）。山口が対談場所に持参した作品の前で談笑中。「spe-II/r-machine」（2010年、和紙に墨、84.1×118.8㎝）

荒木飛呂彦（以下、**荒木**）　展覧会でよく山口さんの作品を拝見しています。

山口晃（以下、**山口**）　本当ですか？　うれしいです。この作品（「邸内見立洛中洛外圖」p．49）は、京都の街を描いた洛中洛外図といわれる日本画のジャンルのものです。昔からいろいろな人が描いていますが、現代を描いたらどうなるだろうと思いまして。でも街全部を描くと大変なので、ひとつの家で京都を表してみました。

荒木　日本画の方かと思っていましたが、こちらは油絵ですか？

山口　僕は油絵出身です。いろいろな画材を併用していて、地は水彩、線は墨、油でグラデーションをかけています。グラデーションの濃いところは油で、薄い部分は水彩です。

荒木　山口さんの作品は、たとえば「spe-II/r-machine」のように、江戸時代の武士のような風貌をした人物がバイクに乗っていたり、人間と馬が一体化していたり、異質なものがひとつの世界のなかで溶け合っているんですよね。映画のCGだと嘘っぽくなるけれど、絵だからこそできる表現だと思います。時代感まで融合させているところがまたすごい。

山口　絵だと質感が揃います。実物すべてが変換されますから、違和感のないところに収まっていくんです。

荒木　時代を超えた世界が描かれているから、逆に時代は変わっても人間は同じだと思わせる。「頼朝像図版写し」は何が嘘で本当かわからないところが面白い。頼朝の絵は何点描いているんですか？

山口　3点です。「遠見の頼朝共時性」では西洋の肖像画風に、微妙に立体感をつけてみました。

荒木　微妙な描き方の違いがいいですね。素通りする人もいるだろうけど、「何？」となると「なんだこれ！」って思うんですよ。

山口　ちょっとでも立ち止まって見ていただかないと（笑）。

絵に込められたロマン、謎、そして真実。

山口　荒木さんの作品は『魔少年ビーティー』のときから読ませていただいています。『ジョジョ』は、まず「奇妙な」というタイトルがいいですよね。奇妙な瞬間がいろいろなところで起こる。怖いでも面白いでもカッコいいでもない。「なんだろう」という意味づけできない瞬間があるんです。特にスタンドが登場してから、そうした奇妙な瞬間が多い。シリーズの第1部、第2部まではすべて科学的な裏づけがありますよね。でも



山口晃●1969年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻（油画）修士課程修了。日本画の題材をモチーフとした細密な画風で知られる。『ジョジョ』の中で好きなキャラクターは、ジョナサン・ジョースター。



明智光秀率いる軍勢の夜食の情景を描いた山口の代表作「最後の晩餐」（2008年、カンヴァスに油彩、水彩、墨、80×233㎝）。緊張感漂うなか、机の下や椅子の後ろに描かれた小さな人物の姿がユーモアを誘う。

第3部でスタンドが登場し、J・ガイルの鏡面を移動するスタンド（ハングド・マン）が出てきたとき、初めて超常現象のほうに針がふれたなと思いました。それまでは、スタンドは超能力といえども説明がついたのですが、理屈をすっ飛ばした設定に踏み込んだおかげで、不思議なスタンドがたくさん出てきた。物語世界が広がったと思います。

荒木　スタンドは超能力の絵画表現なんですよ。それまでは〝波紋〟を科学的に説明していたんですが、スタンドが出たらなんでもできるかなと。この世のあらゆるものが描けるって思ったんです。とはいえ光のルールなど、その現象内のルールは守ります。山口さん、鋭いですね！

山口　ルールは守るんですね。そこを外してしまうと、なんでもありでつまらないと思うんですよ。どこかで縛られつつ、最大限に幅を持たせるというのが醍醐味かと。今も目の前にあるマンガをついつい読んでしまうんですが『ジョジョリオン』になってから画風が変わっていますね？

荒木　変わってきますよ、どんどん。

山口　かなり立体的になっていますね。日本的な平面性の強い画風なのに、『ジョジョリオン』ではハッチング（面を斜線で埋める技法）を多用して立体的に作画しても成立している。二次元に特化した作画だと、立体的に影を入れ始めた途端、破綻することも多いのですが。

荒木　前のシリーズでやっていないことを次でやるんです。『スティール・ボール・ラン』はこうだったけど、『ジョジョリオン』はこれでいこうとか。

山口　ふたつの違いは？



源頼朝の図版に西洋の古い肖像画風の陰影をつけたバージョン「遠見の頼朝共時性」（2000年、カンヴァスに油彩、81×65㎝）。「見れば見るほどどれが本物かわからなくなってくる」と荒木。

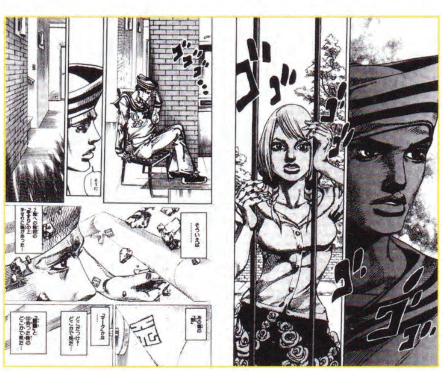


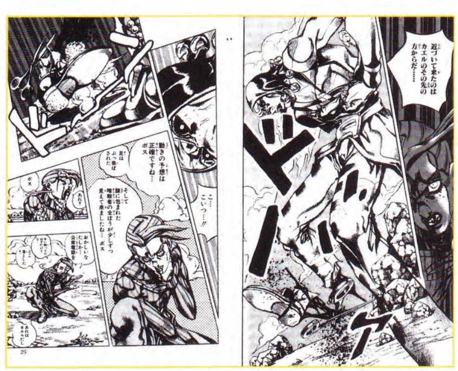


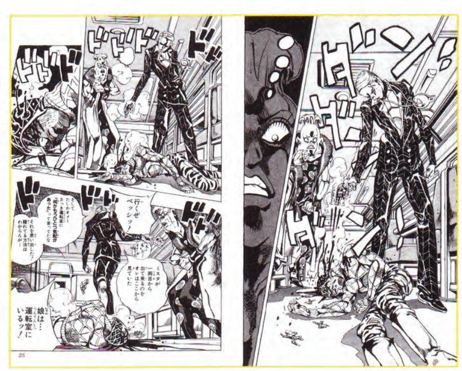
刷りによって印象が全く異なる源頼朝の図版に着目した「頼朝像図版写し」（1999年、カンヴァスに油彩、2点組　各81×65㎝）。絵と人物、印刷と実物の差異がトリッキーに描かれる。



最新の第８部『ジョジョリオン』の原画。バイクにまたがる東方定助の左肘は黒く塗りつぶされているが、デッサンの法則から考えるならばこの部分に影はつかない。見るものを納得させてしまうのが、荒木の画力。







コマ割の方法もシリーズごとに変えている。サスペンスのときは不安定な感じを出すために構図をずらすなど、心理的な効果も演出。第５部では斜めのコマ割を多用しているが、『ジョジョリオン』はまっすぐに。

「絵にはロマンがあるんですよ。そして謎がある」荒木飛呂彦



荒木　まず『ジョジョリオン』は色使いが地味でフラットになっています。背景が落ち着いている。あとは緩急が違います。日常の話なので、すっきりしているところはラブコメ風の絵でもいいかと思い白く描いたり、アクションはガツンと描き込んだり。

山口　荒木さんはシリーズごとに絵の雰囲気をどう決めるのですか？

荒木　ほとんどは気分ですけれど、ここは激しくいこうとか、逆にやわらかくしてみようとか、読む人たちが飽きないように変えています。昔、イラストで描かれた映画の看板を見てわくわくしたんですよ。見たいなとか、何が起こるんだろうとか。マンガの表紙でもあの気持ちを出したいんです。

山口　それはなぜ？

荒木　多分、絵だからだと思うんです。アラン・ドロン似てないなーとか思うんだけど、なんかいいんです。絵には、ドキドキするようなロマンがある。そのロマンって、きっと「謎」だと思うんです。

山口　やはり不完全なものなんですよね。本物そっくりではない。そのズレが謎であり、そこに秘密があるのでいろんな意味が含まれる。

荒木　絵を読んでいくんですよね。

山口　絵を通して実物を見るというのは、複眼で見るようなものです。絵と実物を複眼で見ることにより、本質が見えてくる。

荒木　想像力が働く。

山口　自覚的になるでしょうね。写真だと、実物をそのまま写したものとして普通に見てしまう。でも絵は最初から違和感に気づいているから、そこから現実を想像するなり見るな

「絵と実物を複眼で見ることにより、本質が見えてくる」　山口晃



互いの作品を見せ合いながら楽しげに会話を交わす荒木と山口。写真は山口が描いた小説の挿絵など。使用する画材や紙の種類から、画法、構図、印刷まで、絵をめぐる作家同士の話は尽きることがない。

りする。あらかじめ視点が広がっているのではないでしょうか。

絵画のルールを凌駕するジョジョの絵力

山口　扉絵はボードに描きますか？
荒木　ボードに下書きして証券インクという流れないインクで描きます。
山口　不思議なんですよね。デッサン的にはこの部分（p．43掲載の原画、東方定助の左肘）に黒はこないんですが、ちゃんと収まっている。
荒木　マンガはある程度立体感が出るように、わざとペタッと黒を置いてみたりします。間違えるときもありますけど、ま、いっかーと（笑）。ミュージシャンがコンサートで間違えても、そう思わせないのと同じと思って描いています。ライブ感が大事。
山口　僕も細かく描いていて唯一いいのは、間違ったのがわからないことです（笑）。あと『ジョジョ』を読んでいると、立体はしっかりしているけれど突然何が描いてあるのかわからなくなるコマがあるんです。図像認識が崩壊するコマというか。
荒木　黒の使い方だと思う。ちょっと反省したことがあります。伝えたい気持ちが強すぎて、勢いで描き込みすぎてしまい、黒のバランスが逆転するんです。白黒の絵の場合は、〝もの〟を線でなく影で認識する。あまりに描き込むと、どっちを見ていいかわからなくなってしまう。
山口　佳境のシーンに多いですよね。
荒木　さらっと描くと迫力が出ないんですよ。印刷と原稿の差もあるのかもしれないですが……。だからコミックス収録の前には、いつもゲラ

山口晃、スタンドを描く。

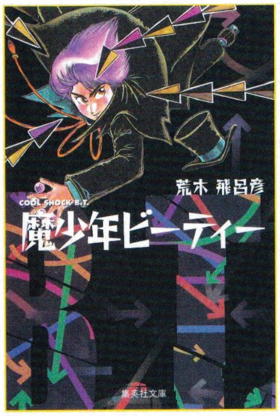


「学園奇妙な冒険、
お嬢校内征伐」

山口晃作（2012年、
鉛筆に水彩、マジック）

登場人物は、生徒会長の女子と運動部のキャプテンの男子。それぞれ、武将の近距離パワー型スタンド「ベリーベリー・スカル」と、戦闘馬の遠隔操作型スタンド「アッシー・ザ・ホース」を持つ。「授業中は席を離れることのできない生徒会長のスタンドを、アッシー・ザ・ホースが運び、体育館裏でタバコを吸う不良を懲らしめに行く、という設定です」。（山口）





山口の荒木作品との出会いは『魔少年ビーティー』。「荒木先生はサンプリングの方だと思いました。何でものみ込んで、何でも入れていく力強さが素晴らしい」。





『ジョジョ』シリーズ最初の主人公、ジョナサン・ジョースターと宿命のライバル、ディオ・ブランドーが描かれた『ジョジョの奇妙な冒険』第3巻の表紙と原画。原画は、最終的にコミックスの表紙サイズにトリミングされることを前提に描かれている。

で最後にチェックします。

山口　でも間違いを全部直してしまうと、それにつられて、いいところもなくなってしまいますよね。

荒木　ひとつの流れができていれば、そこで終わりにします。あとやっぱり時間の制約は大事です。描いていると無限に描き続けてしまうけど、それをやっていると体を壊しますから。週刊マンガは大変なんですよ。一本原稿が上がったら、次の週のことを考えないといけないから。

山口　描きすぎないのは大事ですね。僕も筆が走るときに描きすぎると、次の日だめなんです。時間や締め切りは大事だと思うんですよ。自分の外にあるもので、大きなことを決めるものがないと、動かないことってあるんです。締め切りがなかったら絵を描かないような気が……。

等身大のジョジョが出現？これからの挑戦。

荒木　画家の方は、あんなにも大きな絵をどうやって描くのだろうといつも思うのですが？

山口　僕は普段、下絵を描かないこともあるんですけれど、さすがに大きな作品の場合は下絵を描きますね。

荒木　すごいな。手塚先生みたいですね。手塚先生もいきなり描いたそうです。僕は青鉛筆でまずあたりをとります。漫画は連続しているし、僕は映画のカット割のように描いていくから、コマ同士の連続性を考える。

山口　なるほど。大きい絵を描くときは、引き延ばすより勢いを同じにすることが大事ですね。小さいものはぐっと一息で線を引けるけれど、大きいのはぐっ、ぐっとついつい分けてします。そうすると下絵の持っていた勢いが死んでしまう。だからなるべく、ぐっと一気にいけるように。

荒木　僕は大きな絵を描いたことがないので、顔とか歪んでしまうと思う。マンガの原稿を描く距離でしか、絵を見ていないから。

山口　同じ比率のまま意識が拡大されるので、先生の体が覚えていると思いますよ。手が自然に動くのではないでしょうか。自分が立って描くと、身体のスケール感が変わるんです。

荒木　そうですか。

山口　余裕でお描きになれるかと。

荒木　ペンで描きたいな。でもインクが持たないよね。

山口　2センチ幅ぐらいのペンを特注で作って(笑)。

荒木　チタン製の(笑)。

山口　楽しみにしています。



対談終了後に、山口が荒木のために描いたサインとイラスト。山口のマンガ作品集『すゞしろ日記』でおなじみの山口画伯もジョジョ立ち！



山口の作品「邸内見立 洛中洛外圖」(2007年、カンヴァスに油彩、水彩、墨、80×130㎝)の前で。金閣寺は「金隠し」、仁和寺は「みんな痔」など作品のそこかしこに描かれた駄じゃれにも注目。「なるべく長く面白がって見てもらえればとついついやってしまうんです」(山口)



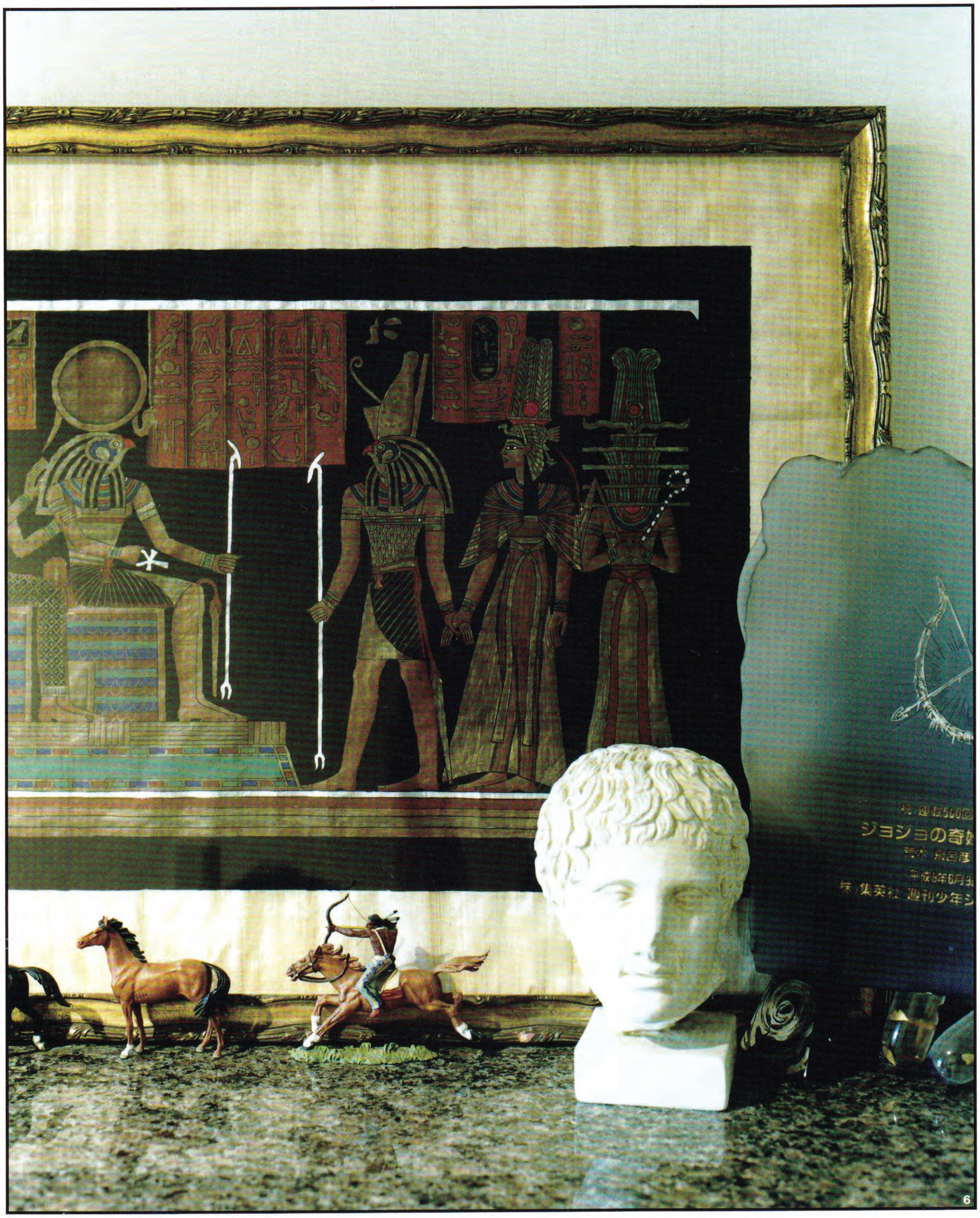
photographs : Taro Hirano

マンガ家の仕事場

『ジョジョ』が生まれるアトリエを訪ねて



荒木飛呂彦がマンガを描くアトリエは、都内の静かな住宅地の一角にある。「仕事場までは自宅から歩いてきています。距離は近いけどいつもわざと遠回りして。いまの場所に移って、もう7、8年になるかな。ここは2階なんだけど、あまりに高いフロアにある部屋ってダメなんですよね」。アトリエ奥のガラス窓から木漏れ日が差し込み、緑が目に飛び込んでくるちょうどいい高さ。



6



4　ペン先や筆も大量にストックしている。「ペン先はゼブラのGペン。クッション用に軸にはテープを巻いています。インクはパイロットの証券用インク。証券用は乾いたら上から色を塗れるのがいいんですよ。ベタは開明書液ですね。同じメーカーの開明墨汁よりも開明書液のほうが流れにくいから便利なんです」。

5　デスクのペン皿の上には、大量の青鉛筆が。鉛筆の青は印刷する際には出ない色なので、下書きなどの書き込みに使用している。長く残った芯が独特だが「鉛筆は自分で削ってますね。もったいないから短くなったときは、２本を接着剤でくっつけてる。そうすると倍になるじゃないですか（笑）」。

6　仕事場の玄関には、エジプトの神々が描かれたパピルス、馬を駆るネイティブアメリカンのフィギュア、大理石の頭像など、『ジョジョの奇妙な冒険』歴代シリーズの物語と関連したディスプレイが。右側にある盾は、『ジョジョ』の連載500回を記念して1997年に贈られたもの。弓と矢の図柄が彫り込まれている。

1　「マンガを描く画板はベニヤ板を買ってきて作ったんですよ。これは角度はつけてるけど固定していなくて、自由に動かせるのがいいんです」。マットに差し込まれている写真は、女優や俳優が写った古い映画雑誌の切り抜き。「フィービー・ケイツとかジェニファー・コネリーとか……あ、マイケル・J・フォックスも入ってた」。

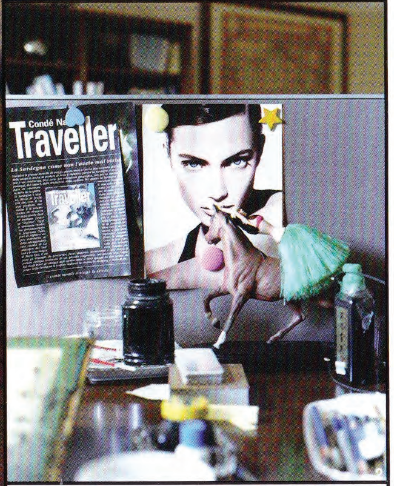
2　「よくできてる馬の人形ってなかなかないんです。写真だけじゃダメですね」。リヤドロ製の馬フィギュアは『スティール・ボール・ラン』を描くときにも役立った。正面のパーテーションには、雑誌のページが。「モデルの写真をまねして描くわけじゃなくて、たとえば鼻にどれだけ深く影が入るか、みたいに顔の陰影を見てたりするんです」。

3　筆ペンにマジック、各サイズそろえたミリペンにペン先、消しゴム、ねり消し、インクや墨汁、筆洗いにスポンジ、ホワイトにメンディングやドラフティングなどのテープ類などなど。『ジョジョの奇妙な冒険』を描くために必要な道具の数々は、デスク後ろのキャビネットにまとめて整理されている。



5


1



2


3


4



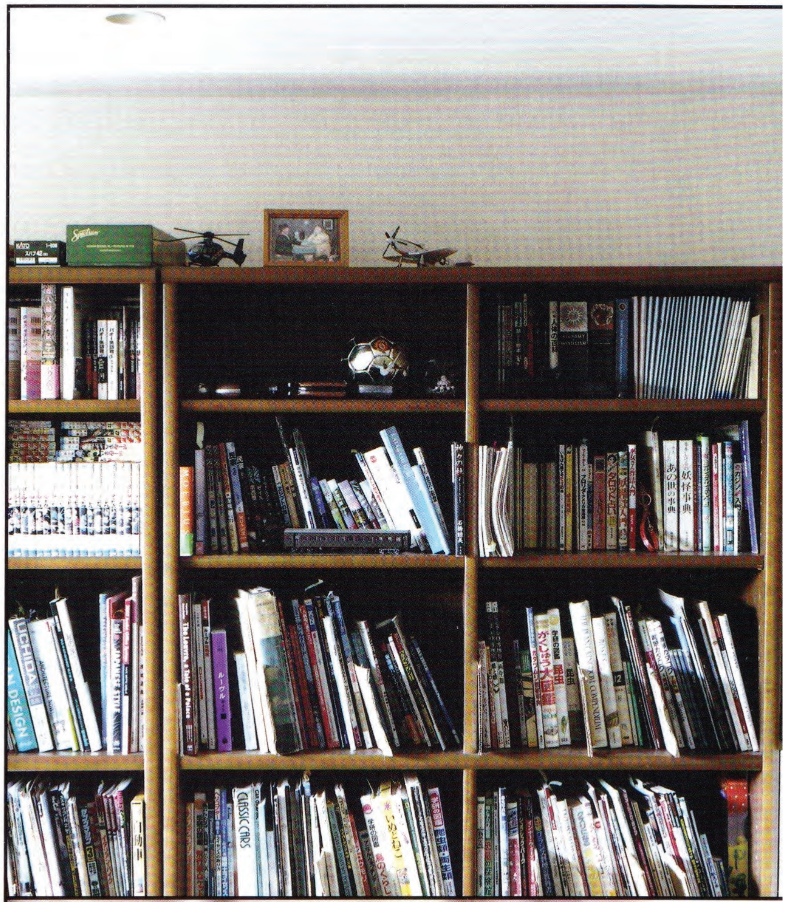


仕事場の取材当日に取りかかっていた作品は、2012年10月6日発売の『週刊少年ジャンプ』に掲載される読み切り作品「岸辺露伴は動かない ～エピソード5 富豪村～」。ペン入れの段階でこのクォリティ。露伴に語りかけるこの女性は、何者なのか？



取材中も黙々と執筆作業を続ける。現在、アシスタントは総勢５名。「仕事場で特にルールとか決まりみたいなものは別にないけど……。まあ、遅刻しないとかは当然ですね。あと水回りはきれいにしておいてほしい。そこが汚いとマンガもきれいに描けないから」。







1　アトリエの書棚には大量の写真集やビジュアル本が。マンガはもちろんだが、絵画や建物、乗り物に動物など、ジャンルごとに整理されている。「資料を探すにしても、インターネットを使うことがあまりないので、どの本にどういう絵や写真が載ってるかはなんとなく覚えてますね」。真ん中の列の最上段にはモデルガンも数丁。

2　2012年は「ジョジョ展」成功を祈願し、仙台の愛宕神社にお参りしたため、神棚にその御札が飾られている。「昔、海外雑誌が仕事場を取材に来たときは珍しがって神棚とモデルガンだけを撮影してた。『なんでアトリエに拳銃があるんだ？』って。日本には実物の銃がないから、モデルガン見て描くんだよって答えたんだけど」。

3　仕事中、現場には常に音楽が流れる。プレイヤーはLINN。アンプはLUXMANの真空管。棚下段に並ぶCDは、特にヘビーローテーションされている荒木的"名盤"だ。「CDを選ぶときはネットではなく直接お店に行きますね。店員さんのコメントを読むのも好きだし、CDの匂いを嗅ぎながら買うというか、よいかどうか自分で確かめながら買ってます」。

4　仕事の合間、休憩のために外出したり、気分転換にお茶を飲みに行ったりはしないという。「いつも自分でコーヒーを挽いて淹れて、飲んでますけどね。いったん仕事場に着いたら、特に出かけたりすることなく、ずっとここにいます。夜もたいていアシスタントたちより僕のほうが長いんですよ。一人になるとこの部屋、広いんだよな」。



4



小説家とマンガ家、物語を語る。

円城 塔・荒木飛呂彦「スタンドは、書くことができない」

かたや小説、かたやマンガ。
それぞれのフィールドで奇妙な物語を
紡ぎ続けるふたりの頭の中。

photographs:Mie Morimoto
text:Masayuki Sawada
book selection & text:Shintaro Uchinuma(p.63)



今回の対談では、お互い影響を受けた本を持参してもらった。荒木さんは、ホラー小説の巨匠スティーヴン・キングの『ミザリー』。円城さんは、幻視の作家と呼ばれるスティーヴ・エリクソンの『黒い時計の旅』をセレクト。



円城 塔 Profile
小説家。1972年札幌市生まれ。東京大学大学院博士課程修了。2012年『道化師の蝶』で芥川賞受賞。最新作は、早逝した伊藤計劃との共著『屍者の帝国』。『ジョジョ』の中で一番好きなキャラは、イギー。

ふたりは何を読んでいる？

――今回の対談に際して、おふたりにはそれぞれ影響を受けた本をお持ちいただきました。まずはその本をセレクトした理由から伺っていきたいと思います。

荒木 僕は、スティーヴン・キングの『ミザリー』を持ってきました。ある作家が熱狂的な女性ファンに監禁され、小説を書かされるという話なんですが、そこには極限の狂気を描いたホラーがあり、男と女の歪んだラブストーリーがあり、書かせる人と書く人の不思議な人間関係があって、その3つが合わさってひとつのシンプルな話になっているところがすごいと思います。主人公の作家がどんどん追い詰められていく過程はとても面白いし、ファンの女性の異常なキャラ造型も強烈で、僕が思うサスペンスの完璧な形ですね。『ジョジョ』を描くうえで勉強になるので、今でも読み返しています。

――一方の円城さんは、スティーヴ・エリクソンの『黒い時計の旅』です

「あとでセリフの意味を聞かれても全然覚えてない(笑)」 荒木飛呂彦





江戸川乱歩の怪奇短編集や横溝正史のミステリーを愛読し、お化けや心霊写真の本にロマンを感じていた子ども時代だったと荒木さん。最新作『ジョジョリオン』は、横溝ワールドを参考にしているとか。

か。

円城　この本の粗筋はすごく説明しづらいんですよ。簡単にいうと、ヒトラーのためにポルノグラフィーを書かされる男の話です。イギリスのどこか片田舎みたいなところで育って、戦争が始まるとナチスらしい部隊に拉致されて、それまではとくに小説を書いてなかったんだけど、ちょっと書いたものがどうもヒトラーに気に入られているらしいというので監禁されて、ヒトラーのためだけにポルノグラフィーを書かされるというのがひとつの筋になってます。

荒木　何だか『ミザリー』と似ていますね(笑)。

円城　監禁して書かされるところはたしかに似てますね(笑)。大学生の頃に初めて読んで、そのときは「わからん。いったい何の話なの?」という状態でしたが、最近はだんだんと筋がわかってきたような、こないような。とにかく幻想と現実がいろいろとごった煮になっている話です。まぁ、あまり筋を追いかけるような話ではないです。

荒木　そういうごった煮のストーリーが好きなんですか?

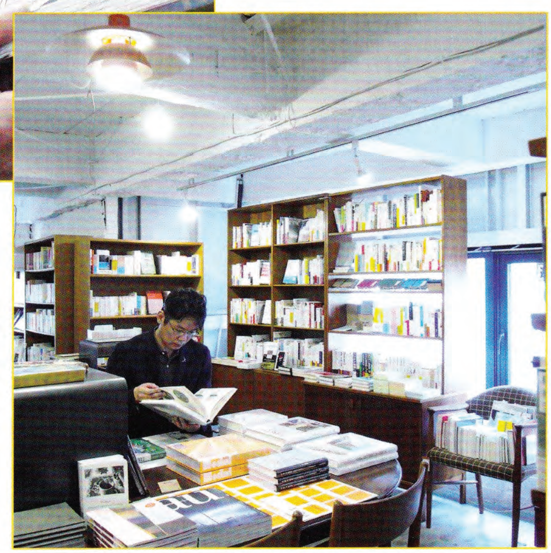
円城　それよりもまず、文章が好きなんですよ。自分自身が小説を書き出すたびにこの本の最初の一文とか二文を読んで、こういう感じでいこうと思うんですけど、実際はまったく違うものになってしまいますね(笑)。元ネタにしているつもりなのに、元ネタになっていないというか。荒木さんは何か描くうえで元ネタになっているものってありますか?

荒木　もちろん『ミザリー』みたいに恐怖描写の参考にしているものはあ

「スタンドを文字で書こうとしたらどうなるのか」円城塔



子どもの頃はあまり本を読まなかったが、大学生になるとＳＦ研究会に所属した円城さん。マニアックな読書趣味を持つ仲間に囲まれ、それが普通だと思って育ったことが現在の作風に影響を与えているという。



ります。ただ、セリフに関していえば、僕の場合、すべて天然なんですよ。こういうことを喋らせようとか、考えたことがないんです。

円城　その場で出てくるということですか？

荒木　そうですね。自動筆記状態というか、キャラクターが勝手に喋り出す感じです。だから、「あのセリフはどういう意味なんですか？」とか聞かれても、まったく覚えてないことがあります（笑）。

マンガはそこに絵もある

円城　僕は本当に機械が小説を書いてくれればいいなって思っているんですけど、現実はそんな都合のいい話があるわけもなくて（笑）。だから、荒木さんのように言葉が勝手に出てくる感覚は僕にはないんですよ。とても羨ましい。

荒木　マンガの場合はそこに絵もあるけど、小説家って文章だけでいろいろなイメージを伝えようとする作業だから、大変ですよね。とくにマンガはキャラクターの力が大きいので、こいつをどう動かそうか考えていると、自然とセリフも出てくるんですよ。

円城　キャラクターという点に関しては、僕はかなり思い入れが薄いほうだと思います。実際、小説だと、彼とか彼女とか私とかで済んでしまう場合もある。だから、主人公の名前すらつけていないときもあります。名前もないぐらいなので、ディテールを考えることもなく、あとになって「髪は何色？」「背はどれくらい？」

とか聞かれると、困ったりする。

荒木　そうですか。僕は反対に、身長、体重、血液型まで決めた身上調査書をつくってからでないと描けないですね。

円城　絵は一度描いたらイメージが固まってしまうから、事前に緻密な設定が必要ですよね。小説だと、詳細は決めなきゃいけなくなったときに決めればよくて、その隙間を利用できるものなんです。

荒木　そうですよね。以前、小説の挿絵を描かせてもらったときに、「腕にケガをしている」という描写があって、実際にそういう絵を描いていたのに、最後のほうで「左手」と書いてあるんです。右手がケガしているパターンで描いていたから、その時点ですべて描き直し。先に言ってよって話ですよね（笑）。

世界文学全集と木彫りのクマ

――おふたりとも幼少期はどんな本に触れていたんですか？

荒木　小学生の頃は、江戸川乱歩の怪奇短編集とか横溝正史が好きで、こういう物語をマンガで描いてみたいと思ってました。

円城　僕は、子どもの頃はほとんど本に触れた記憶がないんですよ。ウチの親があんまり本を読まなかったからなのか、本に囲まれる生活ではなかったです。ただ、なぜか『海底二万マイル』と『西遊記』はあって、それは読んでいましたね。そういえば、あの頃の流行りで、世界文学全集は棚に置いてあったんですけど、手に取ったことはないです（笑）。

荒木　世界文学全集はウチにもありました。

円城　読むというよりかは、たんなるインテリアの一部みたいなものだから、その前にこけしとか赤べことかが置いてあって。

荒木　あと、木彫りのクマも。どこのウチも同じなんですね（笑）。

円城　「中学生の頃にドストエフスキーを読んで……」とか、そういう人のインタビューを見るたびに、「ああ、ウチにもたしかにあったよ」って思います。でも、あの棚の中から取り出して読んでみようという発想はなかったですね。

荒木　UFOとか雪男とかの本はどうでした？　僕はあの手のものにすごくロマンを感じてましたね。

円城　好きなんですけど、怪奇になると怖いんですよ。お化けや心霊写真の本は怖くて絶対に見られなかったですね。子どもの頃には『ゲゲゲの鬼太郎』の放送が始まると、椅子の陰に隠れていたらしいです。それぐらい怖がりなんですよ。

荒木　えっ、『ゲゲゲの鬼太郎』で。じゃあ、『エコエコアザラク』とか、そういうのは絶対にダメですね。

円城　ダメですね。妖怪図鑑とかが机に置かれると近寄れないくらいの怖がりでしたから。荒木さんは怖くないんですか？

荒木　怖いですよ。でも、見たいんですよ。中岡俊哉という超常現象の研究家がいて、その人の本はよく読んでいましたね。

円城　僕はそういう本が家にあるだけで怖かった。

荒木　当時、円城さんみたいな怖がりの友達がいて、彼に心霊写真の本を貸したら燃やされたことがありましたよ（笑）。

円城　その気持ちはすごくよくわかります。もう家の中に置いておきたくなかったんですよ。

スタンドを文字で表現できないか

荒木　しかし、それでよく『屍者の帝国』を書きましたね。あれはゾンビでしょ。

円城　ゾンビは本当は苦手なんですけど、書く以上はゾンビ映画を観ないといけないと思って頑張って観ました。そしたら平気だったんですよ。いつの間にか嫌いなものが食べられるようになっていたみたいな。

荒木　案外そういうものだったりするんですよね。今回の『屍者の帝国』は、伊藤計劃さんの未完の絶筆を、円城さんが書き継いで完成させたんですよね。

円城　そういう形です。

荒木　知らない難しい歴史ばかりが語られると入りにくいけど、事実がうまく並べてあって、新たな歴史と世界をつくり上げているところが面白いと思いました。

円城　ありがとうございます。これまでは実際に見たことのないものは書けなかったんですが、初めて想像して書いてみたという感じです。

荒木　そうなんですか。逆に僕は何でも描きたいタイプなんですよ。世界のあらゆるものを、それこそ見えない空気みたいなものまで描きたい。波紋やスタンドはその表れですね。

円城　実は、スタンドを文字で書こうとしたらどうなるのかってことを、たまに考えるんですよ。

荒木　へぇー。でも、それってかなり難しいんじゃないですか。

円城　スタンドの姿を文章として表現することはできるんです。「背後に人の形をしたものが立っている」みたいな描写は簡単にできます。でも、それじゃないんですよね。かといって、文字を二重に描くとか、そういうことでもない。文章を生業にしている以上、ビジュアルに頼ったら負けな気もするので、何か文字で表現できないか考えているんですけど、わからないんです。

荒木　スタンドはマンガでしか描けないような気がしますね。映画なんかでもたぶん無理でしょう。

円城　リアルタイムで動かないといけないけど、どんな動きかとか。

荒木　CGとかを使うと、途端に嘘くさくなると思うんですよね。だから逆に見せないっていうのもありかもしれません。

円城　見せても脚だけとか（笑）。

奇妙な話を描いている意識はない

――マンガと小説という違いはありますが、〝奇妙な物語をつくる〟という点ではおふたりとも共通している部分があると思いますが、そのあたりはいかがでしょう？

円城　荒木さんは奇妙な話を描いているという自覚はありますか？　僕はあまりないんです。

荒木　ないですよね。

円城　あれ、奇妙だっけみたいな。

荒木　タイトルに「奇妙」って入っていますけど、僕自身は奇妙な話を

B&Bが選んだ荒木作品・円城作品と一緒に並べたい本



B&Bが選ぶ「荒木飛呂彦作品と一緒に並べて売りたい5冊」

1 『メルラーナ街の混沌たる殺人事件』

カルロ・エミーリオ・ガッダ著　千種 堅訳　（水声社／3,675円）

日本での知名度は高くないが、本国では世界的な巨匠と認められているガッダの代表作。一見古典的なミステリーに思えて、読み進めるうちに異様な小説に。舞台であるメルラーナ街は、第４部の杜王町と通じる雰囲気を持っている。

2・6 『バウドリーノ』（上）（下）

ウンベルト・エーコ著　堤 康徳訳　（岩波書店／各1,995円）

『薔薇の名前』で有名なイタリア文学を代表する作家・エーコの作品は、その情報量や世界観に荒木作品に通ずるものが感じられる。この『バウドリーノ』はその中でも最も読みやすいので、『ジョジョ』好きにぜひ手にとってほしい作品。

3 『ファッション・デザイナーの創作スケッチブック』

ハイウェル・デイヴィス著　（ブルース・インターアクションズ／2,940円）

『ジョジョ』のキャラクターの洋服やポージングからは、最先端のファッションが感じられる。本書は、カール・ラガーフェルドからティム・ハミルトンまで、さまざまなデザイナーのスケッチブックを紹介する、創作の秘密を覗き見ることができる一冊。

4 『ゾンビ映画大事典』

伊東美和著　（洋泉社／3,990円）

ホラー映画好きの荒木さんが、中でも特に一番お好きだと言われているのは「ゾンビ映画」。本書はありとあらゆる「ゾンビ映画」を網羅しようという意思のもと集められた、360本にわたる大辞典。『荒木飛呂彦の奇妙なホラー映画論』の隣に。

5 『解剖学者がみたミケランジェロ』

篠原治道著　（金沢医科大学出版局／1,890円）

「ジョジョ立ち」のルーツは、ミケランジェロなどのイタリア彫刻にあるとされているが、そのミケランジェロのほぼ全作品を網羅し、解剖学や医学の視点から解説したマニアックな一冊。これであなたも「ジョジョ立ち」の極意がつかめるかも？

B&Bが選ぶ「円城 塔作品と一緒に並べて売りたい5冊」

7 『May I offer you some π?—πを召し上がれ』

出原速夫著　（ラトルズ／1,050円）

理数系的と評されることが多い円城さんの小説。本書はひたすら続く円周率の中から一部の数字を抜き出し、１ページにひとつずつそれにまつわるエピソードを紹介していく一冊。これであなたも数字が風景に見えてくる？

8 『設計の設計』

柄沢祐輔、田中浩也、藤村龍至、ドミニク・チェン、松川昌平 共著（LIXIL出版／2,310円）

建築、技術開発、情報工学の若手５人が「建築設計をどう設計するか」という問いに立ち向かう一冊。円城さんが学生時代から興味を持っているといわれる小説執筆の自動化、機械化の話と通じるものが感じられる。

9 『ビジュアル・コンプレキシティ ——情報パターンのマッピング』

マニュエル・リマ著　久保田晃弘監修　奥 いずみ訳（ビー・エヌ・エヌ新社／3,990円）

円城さんは、小説をどうヴィジュアライズするかということにも常に意識的に取り組まれていると感じる。本書は、複雑な知識や情報の可視化に取り組んだ、約300点に及ぶインフォメーションデザイン作品を掲載した一冊。

10 『麗しのオルタンス』

ジャック・ルーボー著　高橋 啓訳　（創元推理文庫／882円）

1960年代に設立された実験的な文学集団「ウリポ」の一員として知られるジャック・ルーボー。某インタビューで円城さんが、ウリポの中ではクノーはまじめすぎて苦手だが、ルーボーは好きだとおっしゃっていたので。

11 『カオスの紡ぐ夢の中で』

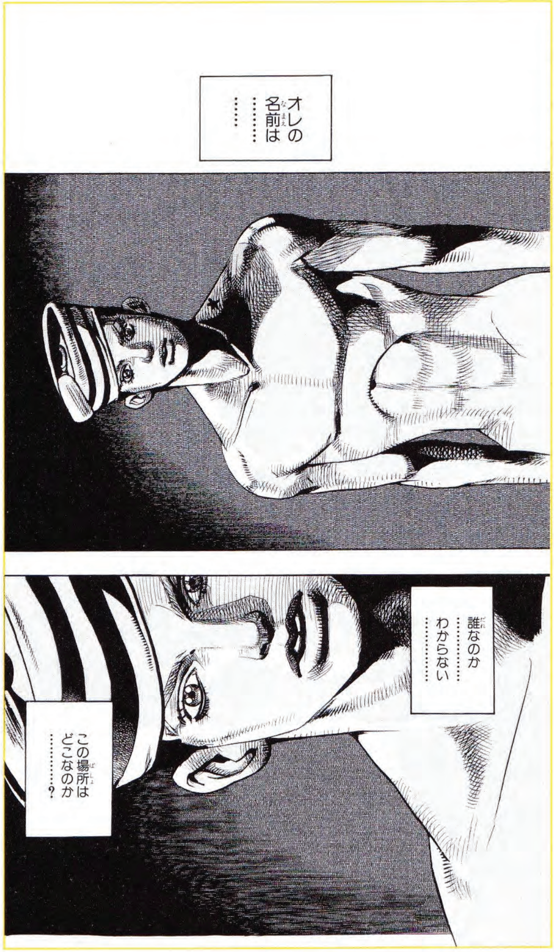
金子邦彦著　（ハヤカワ文庫／693円）

複雑系研究の第一人者である金子邦彦氏による、入門的なエッセイ＋小説。円城さんの指導教官でもあり、「円城塔」というペンネームも本書に由来する。文庫本解説も円城さんが書いていて、円城作品のルーツが垣間見える一冊。



B&B

対談が行われたのは、雑誌『ケトル』編集長の嶋浩一郎とブックコーディネーターの内沼晋太郎が手がける書店「B&B」。店名は「BookとBeer」に由来し、ビールを片手に、店内の本を楽しめる。また、本と人の新たな出会いの場としてさまざまなイベントも開催。●東京都世田谷区北沢2-12-4　第2マツヤビル2F　☎03（6450）8272　営12時～24時　無休（年末年始を除く）　http://bookandbeer.com



←現在連載中の第８部『ジョジョリオン』は、震災後の杜王町を舞台に、記憶喪失の主人公・東方定助が新たな家系図をめぐる謎を探っていく物語。現時点ではまったく先の読めない展開だが、その不穏なテンションに円城さんも大いに期待しているという。



→第６部『ストーンオーシャン』のラストが好きと語る円城さん。「何かいろいろなことがわからなくなってはいるんですが、これ以降、『ジョジョ』の物語が多世界方向に広がっていきますよね。そういう意味でも、印象に残っています」。

描いているという意識はなくて、ただほかの人とは違う話を描きたいだけ。『週刊少年ジャンプ』は王道中の王道ですから、そこからハズれることを考えていたらこうなった。

円城　異端だったはずの『ジョジョ』が第8部まで続いているのがすごいですよね。ここまでのシリーズになることは想像していたのですか？

荒木　いや、まったくしてないです。ただ、漫画の場合、一回立ち上げると今度は終わらせるのが難しくなるんですよ。

円城　終わらせ方の問題はたしかにありますよね。僕は第6部の『ストーンオーシャン』の終わり方が好きです。何かいろいろなことがわからなくなっていく感じが（笑）。でも、『ストーンオーシャン』が終わってから、ちょっと広がりが増えましたよね。多世界方向に。

荒木　そうですね。仕切り直したというか、違うことをやろうと思ったので、あの終わり方にしたというのはあります。

円城　違う方向に行くためには、違う宇宙が必要だったということですよね。今の『ジョジョリオン』もすごく面白いと思います。だけど、ここからどう広がっていくのかはまったくわからない（笑）。

その先入観を一度何とかしたい

——おふたりは創作の悩みってあるのですか？

円城　僕はわりと毎回違う方向のものを書きたいと思うんですね。ただ、それにはいろいろ調べたり考えたりしなきゃいけないので、そうしているうちに「そんなに違う方向ってあったっけ？」という具合に、だんだんわからなくなってくるのがちょっと悩みではあります。あと、ヘンなものを書く人だと思われているので、その先入観を一度何とかしたいんですけど、何ともできないのが今の悩みですね。

荒木　じゃあ、純愛ラブストーリーみたいなものを書くってこと？

円城　わからないですけど、とりあえずウチの親が「息子が書いたんですよ」と言って配れるぐらいのものが書ければと思うんですけど。

荒木　筒井康隆先生の『時をかける少女』みたいな。

円城　あぁ、筒井先生の中の立ち位置としては近いかもしれないですね。そういう作品が書きたいことは書きたいんですけど、書き方が全然わからない。荒木さんは、描いたものがほとんど『ジョジョ』ものですよね。

荒木　そうですね。昔、違うものを描いてくださいと言われたときに、「えっ、『ジョジョ』しか描けませんよ」と言ったことがあります。

円城　何かほかのものを描きたいという欲求もないわけですよね。

荒木　ないですね。仮にあったとしても、やっちゃいけないと思っちゃう。やるなら『ジョジョ』の中で描くくらいでいいかなと。でも、ウチのおふくろは『サザエさん』級のものを描かないと読めないだろうな。

円城　ウチも〝桃太郎〟級じゃないとダメ。だけど、いわゆる普通の話ってやり尽くされているし、そもそもの出発点が違うから、たどり着けないくらい遠くて難しいんですよ。



対談は終始なごやかなムードで進み、過去の読書体験から、それぞれの創作スタイル、さらには創作の悩みまで、話題は縦横無尽に広がった。

ジャズの即興演奏だと思えばいい

円城　あと、小説を書く人は週刊連載とかで鍛えたほうがいいのかなって、たまに思うんですよね。つらいだろうけど。

荒木　漫画家の場合は、持ち込んだら「来月から連載ができる」と言われる感じですよ。そうしたらやらざるを得ない。

円城　そうなんです。今の文芸の中で一番不足しているのは、その鍛え方なのではという気分にだんだんなってきているんですよ。

荒木　かもしれないですね。

円城　ただ、小説って、粗く書くことにあんまり対応してない気がするんですよ。締め切りの拘束も強くない。少なくとも僕はそう思っていて。

荒木　ジャズの即興演奏だと思えばいいんじゃないですか。即興だからちょっとのズレも味だし、直せないものはしょうがない。僕はそういう気持ちでやっていましたよ。

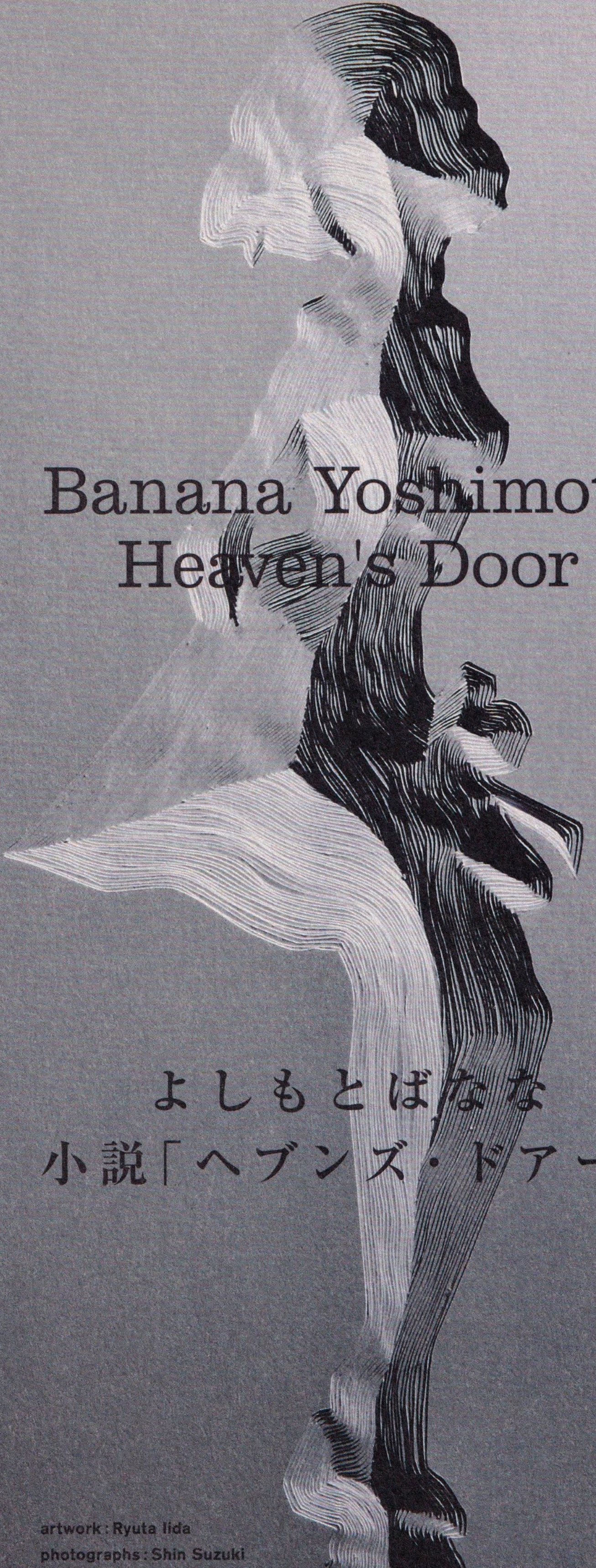
円城　それがすごい能力だと思うんです。僕は「この先続かない」と思ったら戻れるところまで戻って直すし、場合によってはそれまで書いた原稿をすべて捨てることだってありますから。

荒木　そうですか。そこはいろいろですよね。円城さんのようなやり方もあれば勢いで書くやり方もありますし。ちなみに、『ジョジョリオン』は月刊誌で連載していますけど、今も変わらず週刊ペースで仕事してますよ。

円城　えっ⁉　信じられないです。僕にとって一番奇妙なのは、荒木さん自身なのかもしれません（笑）。

PART 1
HIROHIKO ARAKI

PART 2 STAND



Banana Yoshimoto
Heaven's Door

よしもとばなな
小説「ヘブンズ・ドアー」

artwork : Ryuta Iida
photographs : Shin Suzuki

私が一泊二日の予定で訪ねたのは伝説の杜王町だった。

その透明な風の中では、アンジェロ岩やボヨヨン岬が今にもそのへんにありそうに思える。

震災の前の晩に突然地面が隆起してできたという「壁の目」と呼ばれる海岸沿いの不思議な城壁のようなものも、海沿いに歩けばあたりまえのように見つけられそうな気がした。

なんで一泊で杜王町に来ることになったかというと、父の古い友人が亡くなり、忙しい両親に代わってお通夜に私だけが代表で来ることになったからだ。

私が中学生の頃少しの期間だけ住んだ杜王町は、なにも変わっていなかった。けやきの並木もそのままそびえたっていたし、震災の影響も拍子抜けするくらいに影を落としていなかった。

いや、あまりにも深い影なので、人々はそのままずっしりと受け入れてしまったのかもしれない。ここは、そんなふところの深さと気味悪さとのんきさが全て共存している町なのだ。

中学生のときからつきあっていた人と結婚するという幸運、そんな平坦な平和な人生を送る人がそうたくさんはいないと思うと、自分の人生ってなんてついているんだろうと思う。

中学生のとき杜王町に転校してきた私と、その時たまたまとなりの席になった豊は、子どもなのにとても真剣な恋をした。

子どもの初恋だからこそ切実だということはあると思う。定禅寺通りのけやき並木の下をただ手をつないで歩くだけで、私たちはもう死んでもいいくらい幸せだと多分お互いに思った。ホシヤマ珈琲店で高いけれどおいしい珈琲を飲みながらいっしょにモンブランを食べているだけで、見上げると彼の顔があるだけで胸が高鳴り、自分が消えてしまいそうなくらいに息が苦しかった。それなのにどこか深いところではいつでも私たちは落ち着いていた。ほんとうのふるさとにたどり着いたみたいな、それはずっと変わらない不思議な感覚だった。

高校二年のときまでその幸せな交際は淡々と続いたけれど、私たちは幸せすぎてただいっしょに宿題をしたり歩いたりしていただけで、男女の関係もせいぜいキス止まりなのに全く落ち着いていた。先は長いからのんびりでいい、とふたりは本気で思っていたのだった。

大きな企業で建築士をしていた私の父親が杜王町でのプロジェクトを終え、母と私を伴い東京に残してあった家に戻ることになっても、私たちの恋は終わらなかった。

豊は東京の私立大学を受験、ただひたすらにアメリカ文学を学び、翻訳家になるという夢と私に向かってまっしぐらに東京にやってきた。

それからのつきあいはいっそう順調だった。

いっしょにアメリカに行って、彼の好きな小説に出てくる土地を貧乏旅行したこともあったし、彼の家での半同棲も、つきあいが長い分両親から全く反対されなかった。

せいぜい「淋しいからたまにはふたりともうちに泊まりなよ」と言われるくらいだった。

私は人の健康に関わる仕事をしたくて、オステオパシーを学んだ。

人の体を触って不調を読み取り調整するのはきついけれど楽しい仕事だった。住宅街に治療院があるので常連さんばかりで人間関係もきつくなかった。大学の研究生を経て准教授になった彼と私はすぐに結婚した。

ずっと驚き続けたのは、私たち双方の両親だった。

彼のお母さんももう私のことを娘みたいに思っていたので、いつも別れるのがこわかったという。子どもの恋は燃え上がるけれど終わるときはあっけなく終わるから、もうあなたに会えなくなるのではないか、といつも緊張していたと結婚式のときに泣きながら言っていた。

そう、私たちの結婚式は、私たちよりも親たちが長年の心配から解放されてめそめそ泣いているという変わった式だったのだ。

私たちはずっとにこにこしていた。

必ず結婚すると思っていたし、それをずっと公言してきたけれど、あまりにも子どもだったのでだれもほんとうに信じてくれなかった。でもこうなったでしょう？　だから言ったじゃない、という気持ちだった。

私たちはふたりともマイペースで地味なのだ。

いっぺんにいろいろなことができないし、いろんな人を好きになったりできない。

豊が勉強している後姿は私にとって人生でいちばん重要なものだったし、そんな豊を見ている私が振り向けばいつも身ぎれいにしてそこにいるということは、彼にとってとても大切なことだっただろう。

疲れているときにはなぜか湯豆腐を、眠れないときには逆に辛いカレーを、朝はとにかくみそ汁とごはんではなくてパンとフルーツを、そんな彼の好みが自分の好みとほとんど重なるような人生を送ってきた。彼の体を調整できるのも私だけだった。

とても幸せなことだと思う。

いつしか互いに溶け合って、自分より好きな自分が外部にいる、そんな愛だった。

そんな私たちにも障害がひとつもなかったかといえば、嘘になる。

中学三年生から高校を卒業するあたりまで、豊はひとつ年上の坂口美代子という女子生徒にものすごく好かれた。まるで広瀬康一が山岸由花子に好かれたように熱烈だった。

豊にひとめぼれした彼女はなにかに取り憑かれたように、気が狂うほど豊を好きになり、いつでも彼を見ていたし待ち伏せもしていた。そして当然私のことをねたんだり、憎んだり、じゃまに思ったりしていた。

坂口美代子は長い黒髪を持つ不思議な雰囲気の美人だったので、百人並み





のかわいさの平凡な容姿の私は内心かなり動揺した。
あんなエキゾチックな細身の美人、しかも成績もよくてまじめで、いかにも先生たちにも人気がありそうな年上の彼女が熱心に言いよってきたら、豊だっていつかくらっとくるのではないだろうか、と思うと胃が痛くなった。
彼女の髪の毛は人を攻撃したりしなかったし、豊にも自分を守るエコーズはくっついていなかったから、こう着状態のままで数年を私たちは過ごした。いつ豊が彼女を選んで去ってもしかたないと覚悟していた私も、もやもやしたままで杜王町を去ることになった。
無言電話もしょっちゅうかかってきた。
彼女は電話の向こうでいつもしくしく泣いていた。受話器を取ると、ほんとうにしくしくと音がしているのだった。私はしばらく切らないで聞いていた。「坂口さん、私にもどうすることもできないよ。」と言ってもみた。でも、泣く音以外なにも聞こえてこなかった。今もあのじめじめ降る雨みたいなあの泣き声が耳に残っている。悲しく美しい音だった。
そして物語は重く悲しい結末を迎えた。
彼女は十八のとき、深夜に家を出たまま行方不明になって町はずれで遺体となって発見されたのだ。
その日、何回も告白した豊にまた告白をして「もう目の前に姿を現さないでほしい、大学に受かればもうこの町を出て彼女と結婚に向けていっしょに住むから、もう僕のことはあきらめてほしい」と何回目かの真剣さで豊にさとされた坂口美代子は、それでもあきらめることができず、夜中に家を抜け出し、豊の家の裏でじっと豊の帰りを待っていたという。
しかし夜中になっても豊は帰らなかった。
実はその日、豊は家にいなかった。
坂口美代子のことであまりにも精神的に疲れてしまい、夕方の新幹線に乗って私の実家に遊びに来て泊まっていたのだった。
私たちが私の両親と笑い合い、後味の悪い気持ちだった豊をなぐさめ、婚約したければしてもいいよ、とはげまし、みんなでしゃぶしゃぶを食べて、デザートのケーキを食べて、温かいお風呂に入って、豊と父が同じ部屋、母は私の部屋に泊まって、一つ屋根の下で仲良く過ごしていたその間に、坂口美代子は近隣の町からやってきた犯人に誘拐され、犯され、町はずれで殺されて捨てられたのだった。
そのことは、私たちの恋愛を小さくしかし長い間損なった。
豊はそのあともくじけずに受験をし正々堂々と東京にやってきたが、地元でうわさにされつくし、坂口美代子の両親や友達に憎まれ続けたその顔には憂いが含まれ、私たちの愛には大きな影ができた。
それでも私たちはまたそこから始めた。
豊の小さな部屋に通いながらお弁当

を作ったり、実家に送ってもらったり、豊が泊まって行ったりしているうちに、大切なものを守ろうとがんばっていた私たちの傷は少しずつ回復していった。

お通夜に出て杜王町のホテルに一泊し翌朝、私は電車で松島海岸に向かい、遊覧船に乗った。

船が出るとたくさんのかもめが追いかけてきて、えさをねだる。その目は坂口美代子の目のようにひたすらに永久にただ欲する目だった。見ていて切なくなるかなわぬ欲望の目。

私と豊は一度だけ、あまりにもかわいそうになってしまって、つけてきた坂口美代子をデートに入れてあげたことがあった。

三人でまるで普通の高校生グループみたいにいっしょに遊覧船に乗って、松島の島巡りをしたのだった。

そのことを思い出し、私はその事件があって以来初めて杜王町を訪れたその機会を使い、心から坂口美代子を悼むためにひとりで思い出の船に乗ってみたのだった。

あの日と変わらない仁王岩、整然と並ぶ牡蠣の養殖地、静まりかえった滑らかな海、青々と松を抱いて連なる美しく小さな島々とかもめのシルエットと深い青空。

今は平和に見える、しかし震災で橋はなくなり、岩は削れ、松は倒れ、全てはいったん壊れてしまったのだととなりにいた地元の人が言った。

「津波の力を、あの小さな島々が受け止めて弱めてくれたんです。だから私たちは助かった。」と。

なにもなかったように平和に静まる海と島々を私は祈りの念をこめて見つめた。

この美しさをたたえます、この町の人々を守ってくれた自然の力と、人々の命を奪った自然の力の双方を畏怖します。そして、この地に眠る坂口美代子の霊よ、どうか安らかに鎮まってください、と。

あの若き日、いっしょに船に乗ったとき坂口美代子は誘われたことに驚いて少し恥ずかしそうにしていた。私を見る目は氷のように冷たく、豊を見るときには同じその目がだれもが焼けこげてしまう炎のように燃えていた。

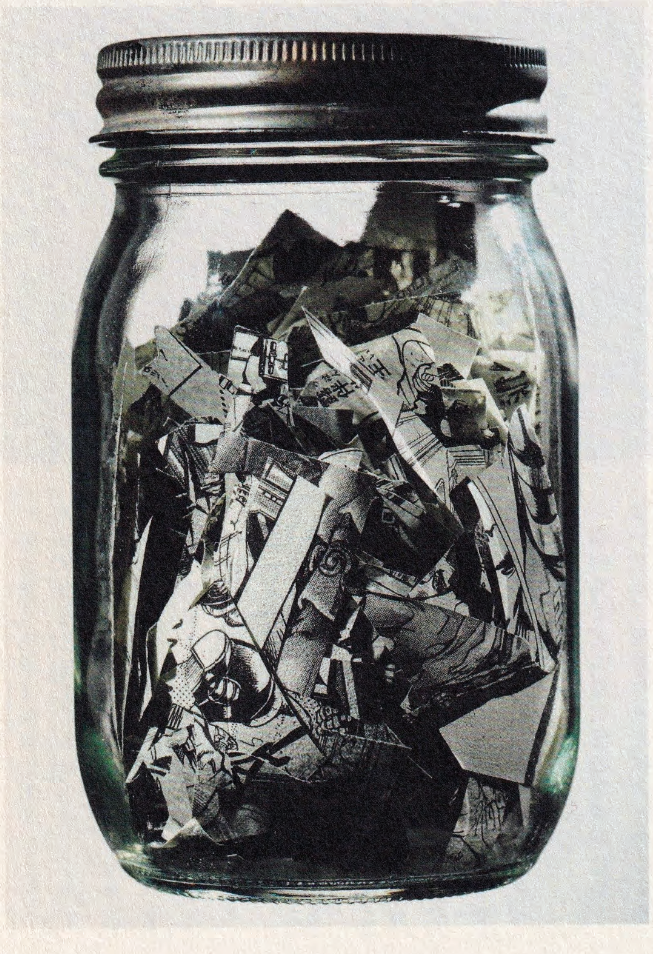
不思議と私は自分がじゃまもののように思えてきた。自分は幽霊でこのふたりのデートにくっついてきちゃっているような、そんな悲しい気持ちだった。豊の一言一句を一挙手一投足を決して聞き逃し、見逃すまいとしている坂口美代子は生き生きしていた。

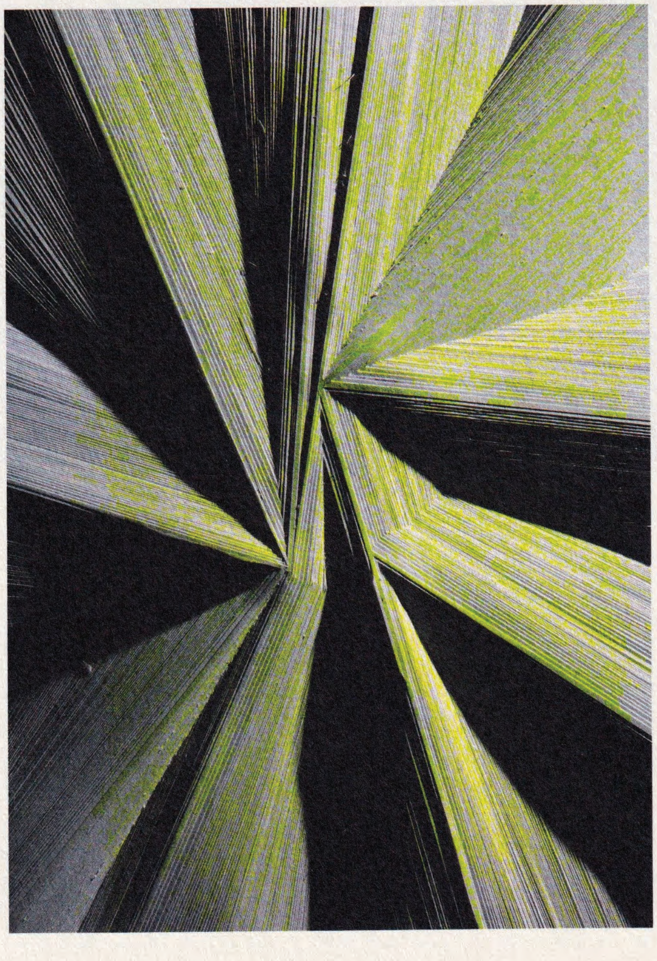
一度だけ、あんぱんを半分分けてあげ、ポットに入れていた紅茶を飲ませてあげたら、坂口美代子は私ににっこりと微笑んでくれた。

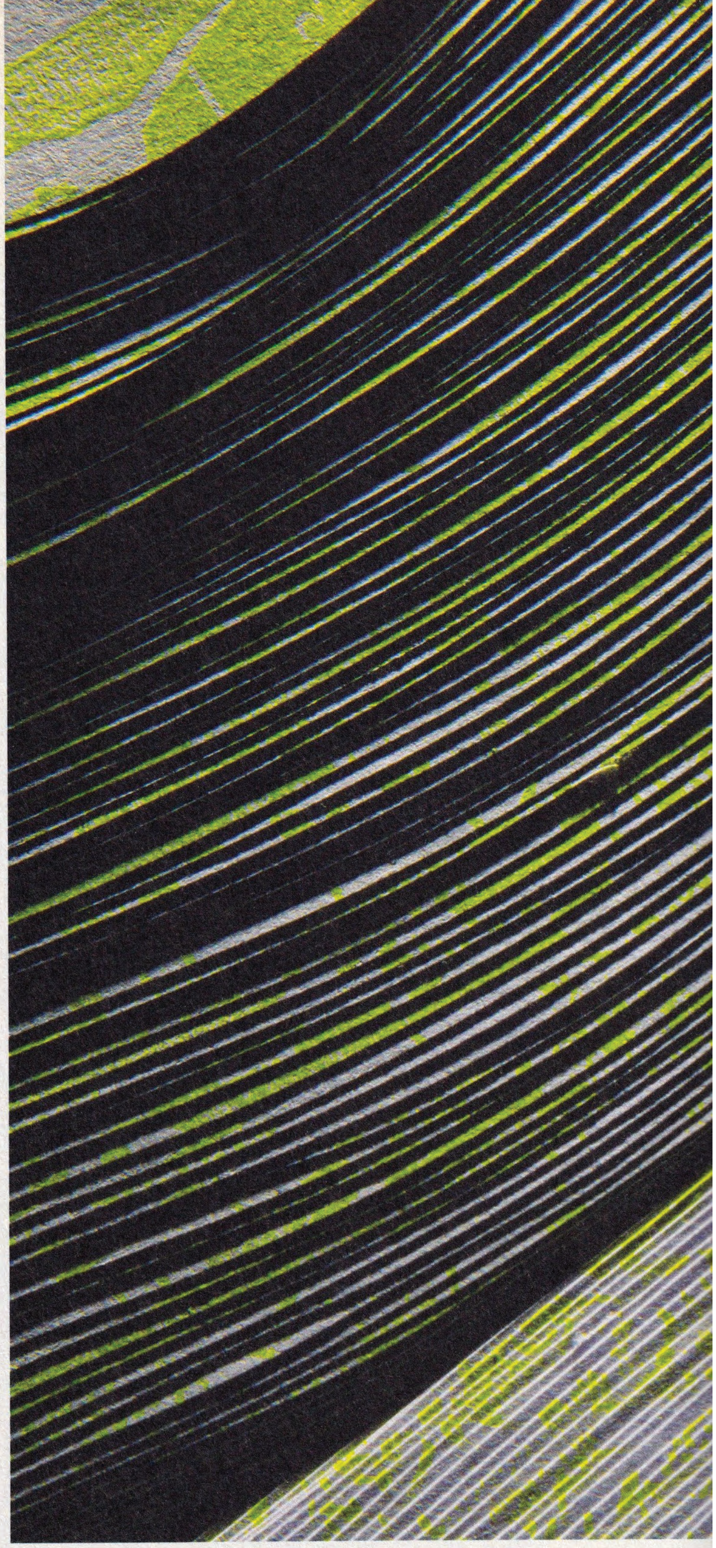
私は嬉しくて微笑み返した。

その直後に「なんで私この女に微笑んじゃったんだろう」という顔をして赤くなった坂口美代子はかわいかった。それが最初で最後の心の交流だった。どう考えても救いようがなかった私と坂口美代子の悲しい関係だった。

現実の杜王町には友達のピンチにす







言った。

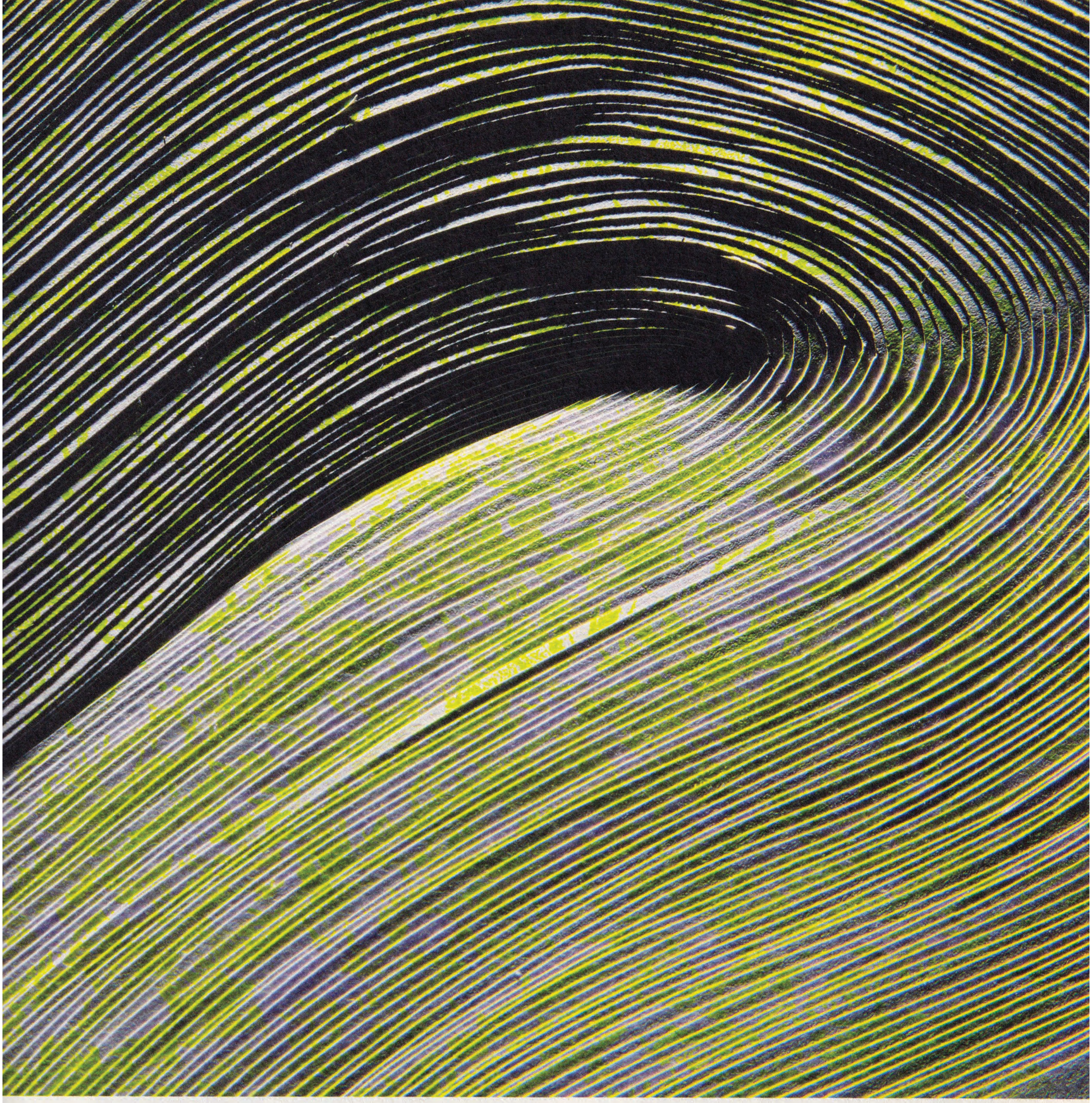
「僕は、あの日松島海岸で、デートの後をつけてきた坂口がかわいそうだから今日だけまぜてあげよう、と無邪気な顔で言った君の表情を見て、絶対にこの人と結婚しようと思った。坂口はとてもかわいそうだった、でも、しかたないんだ。僕たちが共に生き続けて、子どもをたくさん連れていつかあの町を訪れたなら、きっとそれが答えになる。ほんとうの供養になる。自分の心の中にある大切なものを命がけで守る、僕たちにはそれしかできることはないんだ。」

まんがの読みすぎだよ、と言い返そうと思ったけれど、その横顔を見ていたら涙が出てきて、言葉が出なかった。

よしもとばなな

Profile

小説家。1964年、東京生まれ。
日本大学芸術学部文藝学科卒業。
1987年に小説「キッチン」で
第6回海燕新人文学賞を受賞しデビュー。
その著作は30カ国以上で翻訳出版される。
近著は『もしもし下北沢』
『どんぐり姉妹』『ジュージュー』
『スウィート・ヒアアフター』など多数。
ジョジョの中で好きなキャラクターは
『ジョジョリオン』の広瀬康穂。
www.yoshimotobanana.com



ぐかけつける仗助はいない。オーソンの脇の道を行けば杉本鈴美さんとアーノルドが霊となって町を守ってくれているわけでもない。ごま蜜団子も牛たんもあるのに、不器用にひかれ合い助け合う康穂と定助はいない。坂口美代子は吉良吉影に殺されたのではなくて、そこいらのごろつきに殺された。

きっと坂口美代子の両親は一生、豊を恨むだろう。

きっとそれぞれがそれぞれのやるせない物語を秘めて町を歩いている。でも、だれも岸辺露伴のように天国の扉を使ってほんとうの物語を開いて見せてはくれない。

私たちがどんなに良心を大切に生き抜いても、邪悪なものは人々の心からくりかえしわきたち、世を訪れ、人を損なう。そのことが止まることはディオがいた時代から一度もないのだ。

現実ってなんて悲しいんだろう。

私は帰宅し、豊に松島に供養の祈りをしに行った話をしたあと、そんな考えをつぶやいた。

豊はうなずいた。

「でも僕らの心の中には、ジョセフも承太郎も仗助も生きている。オーソンの近くのポストの先にはいつだって鈴美さんとアーノルドが高潔な心で立っている。今日もどこかで康穂と定助は助け合ってピンチを切り抜けているだろう。人の心のそのもう一方の力が消えない限り、彼らは僕らとともにいる。黄金の精神はいつだってここにあるんだ。」

豊は自分の胸を手のひらで押さえて



THE LITTLE GIRL WHO LIVES IN THE TRIANGULAR ROOF HOUSE.

「三角屋根の家の少女」

ある晴れた秋の日、友人にバッタリ遭遇した。
「この道、知ってる？」と誘われて
通ったことのない道を進んでいくと、
知らない女の子が声をかけてきて……

starring:Yuka Mizuhara
photographs:Muga Miyahara
styling:Daisuke Iga



天才料理人が作ったトマトソースのスパゲッティ

↑ダイニングに案内されると、トマトと黒オリーブとアンチョビのスパゲティがテーブルに。キッチンではつい今しがたまで、イタリア人コックが料理をしていたのだそう。ニット￥43,050／TOGA 原宿店（TOGA PULLA）　手首につけたアンクレット￥7,875／Sister　ネックレス￥52,500／H.P.FRANCE exclusive（Philippe Ferrandis）　カチューシャ￥7,140／ラウジー・バロック

案内してもらった先で目にしたのは

→女の子は道の突き当たりにある洋館に住んでいると言った。広くて大きいこの家は立派だけれど、人が住んでいる気配がしないねとつぶやいたら、彼女はちょっと悲しい顔をした。コート￥71,400／ANREALAGE　シャツ￥25,200／SHOW CASE by plumpynuts（plumpynuts）　スカート￥34,000／Diptrics（カレン ウォーカー）　カチューシャ￥8,400／Sister　サンダル／スタイリスト私物



枠線の引かれた原稿用紙が机の上に置かれて

一緒についてきた友人は遠慮もせずに書斎に入り、キョロキョロと部屋を見渡している。女の子はそんな彼を、なつかしそうなまなざしで見つめていたのが印象的だった。カーディガン￥31,000／Diptrics（ANALOG LIGHTING）　ワンピース￥60,900／ANREALAGE　眼鏡〈参考商品〉／Diptrics（Linda Farrow LUXE）　リング￥1,890／ラウジー・バロック　カチューシャ／スタイリスト私物



女の子のそばにいつも寄り添うようにいる犬の名は

寝るときも一緒にいるという愛犬は、いざというときは番犬にもなる大型犬。真夜中の暗闇でも、ベッドの下に手をのばせば「クク一ン」と甘えて女の子の手をペロペロと舐めてくれるらしい。ブラウス¥29,400／TOGA 原宿店(TOGA PULLA)　スカート¥23,100／JEANNE VALET　ヘッドドレス¥9,975／too much　靴¥49,350／ANREALAGE



屋根裏に何かがいる、そんな気配を感じて

天井から音がしたような気がして女の子に尋ねると、屋根裏にいるネズミだという。細くて急な階段を上がってみると、埃っぽい空気とともに、片隅にはちぎれた写真のかけらが散乱していた。ドレス¥16,800／birthdeath　ニット¥24,150／TOGA 原宿店（TOGA PULLA）イヤーフック¥1,890・リング¥3,990／ともにtoo much　サンダル¥60,900／DOERS　タイツ／スタイリスト私物

愛に無敵のヒロインになれることを信じて

おしゃれに気を使っていそうな彼女は、30分もたたないうちに口紅を塗っている。何かを保つためだと言っていたけれど、その意味はよくわからない。コート¥39,000／Diptrics（BACK）　スカーフ¥5,040／ラウジー・バロック　ベルト¥26,000／Diptrics（A'N'D）　帽子〈参考商品〉／ショールーム リンクス（CAHALEL）　ブレスレット¥3,990／too much





リアルとアンリアルの境目で

そろそろ家に帰る時間になったので、さっきの道まで案内してもらうことに。目印のポストの前で道案内のお礼と別れを告げると、女の子は最後に小さくこう言った。「決して後ろを振り向かないでね」。
ワンピース¥47,000／Diptrics（KAREN WALKER）　カチューシャ¥7,140／birthdeath　靴〈参考商品〉／ショールーム リンクス（CACHALEL）
タイツ／スタイリスト私物
※この特集中に掲載した商品の情報は2012年10月の時点のものです。
※特集内の商品についてのお問い合わせは、107ページ掲載のリストをご覧ください。



Muga Miyahara

宮原夢画。独自の美意識や視点を投影した写真ビジュアルに定評があり、雑誌や広告、ムービーなどで活躍。『ジョジョ』での好きなキャラは美しき波紋使いリサリサ。

Daisuke Iga

伊賀大介。映画や広告、セレブリティのスタイリングで活躍するほか、文学やサブカルにも造詣が深く、雑誌などで連載コラムも執筆。好きなキャラは第5部のペッシ。

Yuka Mizuhara

水原佑果。恵まれた長身を生かしたファッションモデルとしてアップカミングな17歳。女優でモデルの水原希子は実姉。好きなキャラは第4部で独特の存在感を放つ山岸由花子。

photographs:Muga Miyahara
hair:Ryoji Imaizumi〈SIGNO〉
make-up:Masayo Tsuda〈mod's hair〉
stylist:Daisuke Iga〈Band〉
model:Yuka Mizuhara, Boku
composition & text:Satoko Hatakeyama

"五七五"素数じゃないよ俳句だよ

「ジョジョ句会」開きました。

某月某日、都内某所。メンバーは公開型句会「東京マッハ」の面々に、『ジョジョ』ファンの大物ゲスト柴崎友香さん。俳句と『ジョジョ』のめくるめくスパイラルワールドへようこそ！



photographs:Satoko Tsuyuki
text:Akane Watanuki

墓石にジッパーがある開けて洗う

秋晴の岸辺露伴の居留守かな

撃ち抜いたつもりでキスを草の花

落下するあいだに結ぶ靴の紐

筋肉より骨を信じて晩夏光

蛙が降るあいだ素数を数えている

今回の句会はこのように進行したッ！

1　司会者が参加者に句の数だけ短冊（細く切った紙）を配る。事前に作っておいた句を、各人１枚に一句ずつ書き写す。
2　全員が書き写し終わったら、司会者が短冊を集め、誰の句かわからないようにシャッフルし、再び参加者に配布する。
3　参加者が短冊に書かれた句を清記用紙に書き写す。
4　書き写し終わった清記用紙を人数分コピーして配布。
5　参加者は清記用紙に書かれた句から、特選（一番好きな句）、並選（好きな句）、逆選（文句を言いたい句）を選び、清記用紙に印をつける。このとき、自作の句は選ばない。今回参加者が選句した数は、特選１句、並選５句、逆選１句。
6　特選（２点）、並選（１点）、逆選（カウントせず）を順に発表。各句の点数を集計する。
7　句の論評をし合う。一句終わると司会者が作者をたずね、作者が名乗り出る。原則、点数の多い順に句評する。

参加者はこの句を選んだァーッ！

	長嶋 有 選	柴崎友香 選	米光一成 選	堀本裕樹 選	千野帽子 選
特選（2点）	「秋晴の～」	「墓石に～」	「墓石に～」	「撃ち抜いた～」	「筋肉より～」
並選（1点）	「落下する～」 「蛙が降る～」 「月がきれい、～」 「ジョジョ立ちの～」 「黒髪～」	「秋晴の～」 「落下する～」 「蛙が降る～」 「亀の背に～」 「『あなたも～」	「カプリ島～」 「ジョジョ立ちの～」 「二学期は～」 「空港の～」 「石仮面～」	「墓石に～」 「亀の背に～」 「月がきれい、～」 「『あなたも～」 「運動会～」	「撃ち抜いた～」 「落下する～」 「カプリ島～」 「あり得ない～」 「秋桜や～」
逆選	「花になる～」	「『ネコドラくん』～」	「『ネコドラくん』～」	「二学期は～」	「黒髪～」

カプリ島に男六人いて薄暑

亀の背に鍵置いてみる秋の雷

月がきれい、でも振り向いちゃダメな道

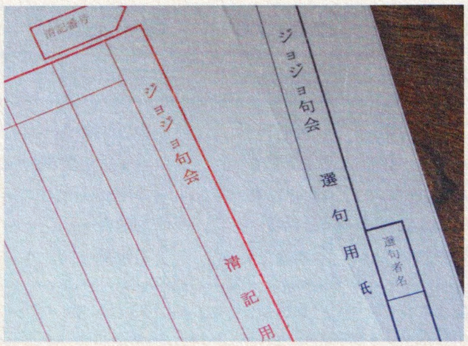
「あなたも河馬になりなさい」だが断る

ジョジョ立ちの正中線や秋の天

黒髪くちびるパフェ溶けり彼岸花

二学期は爪伸びるのが早すぎる

▼**千野**　では始めます。5点句が一句あります。「墓石に〜」です。
米光　これ、『ジョジョ』を知らなくても奇想で面白い。知ってると、作品世界の外伝的にちゃんとイメージできるところが素晴らしい。物語に描かれていない後のことが盛り込まれていて、響きました。
柴崎　俳句を作るのは初めて。しかも『ジョジョ』なのでどう作っていいか悩みました。でもこの句はなるほどと思うしイメージが湧く。
千野　これはブチャラティですね。
堀本　僕は「墓洗ふ」という秋の季語をうまく使っているなと。上五(最初の五音)で「墓石に」と表記して、最後「洗う」と置くことで、季語「墓洗ふ」を分解して使っているのが、テクニカルな感じ



がしました。「ジッパーがある開けて洗う」と、身近にスタンドを引きつけて一句にしている。その作り方がうまい。
米光　その辺が『ジョジョ』に合うよね。『ジョジョ』って奇想がいっぱいだけど日常とも密接している。妄想を喚起する力があります。
千野　ええっと、作者は私です。
長嶋　おぉ。僕がなぜ採らなかっ

空港の芝のウサギを指させり

石仮面被りし以後の夜食かな

あり得ない理屈で通す龍の髭

秋桜や人に切らせてあげる爪

花京院まさか葡萄もレロレロレロ

長月は扱ひ有ります猫の草

運動会子ら吠える午無駄無駄URRRYY！

たかというと、ブチャラティのスタンドは躍動感があってマンガ的にも絵になる。でも静止している墓石みたいなものとそれが合わないなと思って。季語は合ってるよね。

千野　確かに墓石にジッパーがあったら、昔の家にあったファンシーケースみたいになっちゃう（笑）。

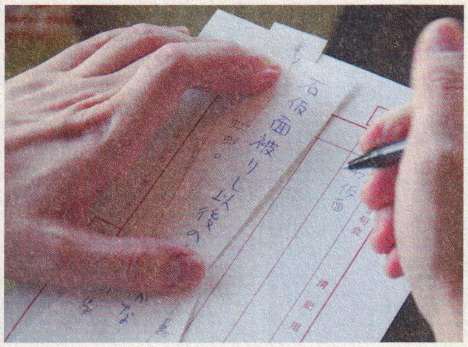
長嶋　L字形に開けるんだよね。

千野　そうそう。彼は自分の墓参りができるくらい頑張っているから、もうお盆になったらジッパー開けて墓から出てきたっていい。

長嶋　実質第5部はジョルノよりブチャラティの存在感が大きいよね。

▼**千野**　次は3点句。「秋晴の〜」。

長嶋　これは、岸辺露伴を知っていることでぐっとくる句なんです



けど、知らなくても、こんな文豪みたいな立派な名前の人が居留守を使っているというだけで、素敵な感じがしました。あと岸辺露伴という名前のよさもちゃんと使っている。『ジョジョ』を知っていれば、あの偏屈なヤツって思うから。

千野　作中で居留守使ってるしね。

柴崎　私も「岸辺露伴」で「居留守」というのが合っていて、しか

も動きがないのに岸辺露伴をすごく表している感じがして、とてもいいなあと。居留守なのに、秋の爽やかな日の雰囲気がする。

千野　たぶん『ジョジョ』を読んでいる人はそういうふうに読めるし、知らない人は幸田露伴という有名な文豪がいるから、「岸辺」で切っちゃうんだよね。

柴崎　ああ、「秋晴の岸辺」か。

長嶋　で、幸田露伴が居留守を使って、と。

千野　二度おいしいところがある。

堀本　その読み、面白い。

千野　作者は？

堀本　はい、裕樹です。

▼千野　次「撃ち抜いた～」です。

堀本　これは有名なディオとエリナのキスシーンで、「ズキュウウウン」のところ。「撃ち抜いた」だから「ズキュウウウン」が浮かんでくる。「つもりでキスを草の花」というのは何か日常的。『ジョジョ』を抜きにしても面白い句だなと。奪ってやったぜ、みたいな感じなのに最後は「草の花」。これは秋の季語で、下五（最後の五音）の季語のまとめ方も自然。

千野　僕はもう、さらにこれを短歌で、「撃ち抜いたつもりでキスを草の花そこにシビれる！あこがれるゥ！」としたいくらい（笑）。キスなんていうこっそりやることを、こんなふうにスケール大きく書いちゃうんだという、パワーみたいなものがいいなと思いましたね。

長嶋　こういう句は、普通の句会を何百回やっても作れないよ。

千野　「ズキュウウウン」がわからないと、この句のよさは半減。

長嶋　まあね（笑）。

千野　作者はどなたでしょうか。

米光　はい。季語使えたよ（笑）。せっかくだからあの「ズキュウウウン」と「メメタァ」は何か詠みたいなと思っていました。

▼千野　3点句の最後。「落下する～」。3人が採っています。



柴崎　スタンドの世界が表現されていて、靴の紐を結びながら浮いている、靴が上で頭が下のような姿が浮かんできました。スタープラチナみたいな、時間を止めるスタンドの。『ジョジョ』らしい句。

長嶋　でも、季語がほしいな、この句には。

堀本　僕が採らなかったのも、まずどのシーンかわからなかったのと、ひょっとして何か季語が入れられるんじゃないかなと思って。

千野　「落下するあいだに」を縮めて「落ちる間に」と五音にして、何か季語を入れるとか。

堀本　白靴とかね。夏の季語だから。結構使えると思ったな。

千野　「落ちる間に白靴のひも結びけり」とか。

長嶋　でも、こういう機会でなきゃできないことをやろうとしてるよね。

千野　作者は？

米光　はい、僕です。

▼千野　ひとりだけ特選を入れている句。俺なんだけど（笑）。「筋肉より～」ね。これは第6部、狙撃手のジョンガリ・Aが、筋肉は信用できないけど骨は信用できると言うところ。この信じるというのは『ジョジョ』ではかなり重要なキーワードになっています。信用という言い方を「信じる」というふうにまとめているのがすごくいい。季語の晩夏光は、カッと照りつけるような残暑の光。光と影のコントラストがくっきりしている状態。目にも厳しいような過酷な状況で、照準を見ている感じがいいなと。

柴崎　カッコいい句ですよね。

堀本　「筋肉より骨を」というのも、僕たちが生きている中では考えないし、『ジョジョ』の世界だから読み取れる。『ジョジョ』俳句の特徴の出た一句だなと思います。

千野　作者は？

長嶋　僕です。ジョンガリの言葉に説得力を感じたよ、僕は（笑）。

▼千野　次、2点句です。まず「蛙が降る～」ですが、長嶋さん。

長嶋　これは第6部ですね。6部は素数を数えるプッチ神父が面白かったし、蛙が降るところも印象深い。荒木さんは相当なシネフィルと聞いていて、蛙が降るシーンは映画『マグノリア』にも出てくるけど、映画に負けない別のインパクトがある。「蛙が降る」という強い表現と「素数を数える」面白さの、俳句でいう「二物衝撃」（季語と、季語でないものを組み合わせる作り方）ですよね。『ジョジョ』自体がそういう個性と個性が二物みたいにぶつかり合うマンガでもあって、俳句っぽい。

米光　俳句って、ルールの中でお互いやり合って、でも時にルールからはみ出してもよいものはよいっていう感じがあって、『ジョジョ』の戦いとすごく近いよね。

柴崎　蛙が降るという動的な部分と、素数を数えるという静的な部分。違う時空が同時にあるみたい。

千野　作者は私でございます。

▼千野　次は「カプリ島～」。

米光　第5部です。高級リゾートに、女なしで男6人いる感じに憧れます。楽しそうな雰囲気が伝わって、いいなと。俺、男6人で誰と行けるか考えたら、いないんだよ（笑）。でも行きたくなった。

千野　シチュエーションだけ書くことで、キャラクターや群像劇がわーっと浮かび上がってくるよね。

長嶋　カプリ島は男6人で行く島じゃないからね。超リゾートで。

千野　『黄金の七人』や『オーシャンズ11』を思い出す。第5部の魅力はチームプレーのカッコよさにあって、彼らは最初からチームというのが「男六人」という言い方に出ている。で、薄暑というのがいいよね。乾いていて夏っぽい海の照り返しみたいな感じがあって、明るくていいと思いました。

米光　深夜にふと、テレビ映画見て、すごく面白かったけどタイトルも何もわからない。でも、最高って感じの映画みたい。

千野　そう。予備知識なくてもわーっと持っていかれる。作者は？

長嶋　はい。カプリ島好きなんですよ。

▼千野　続きまして「亀の背に～」。

堀本　これ、日常に落とし込んで詠んでいるのかなと思ったんですよね。「置いてみる」で試している様子が見えてきて、身近なところで『ジョジョ』の世界に入りたい感じがにじみ出ています。

柴崎　『ジョジョ』は物が具体的。この句でも亀、背中、鍵と具体的だし、質感とか量感が想像がつくというか、ぱっと実感できて面白い。「秋の雷」というのも第5部の雰囲気に合っています。

千野　「秋の雷」という季語を最後にして、亀の背に静かに鍵を置いているんだけど、心中には情熱があるんだろうなと思わせる。

長嶋　鍵穴に差し込むほうが一見面白そうなのに、置くっていうことに荒木さんの美学を感じる。

千野　作者はどなたでしょう。

長嶋　ああ、僕です。



▼千野　「月がきれい、～」です。

長嶋　これは、普通の句会だと散文的と言われちゃいそう。「、」まで入ってるしね。あえてこの読点もありの散文的な言い方。「振り向いちゃダメな道」は第4部の杉本鈴美のいる道のことで、古典的な怪談話にあるようなネタが、日常話っぽい第4部の中でフックのように出てくる。この怖い雰囲気と

「ネコドラくん」十月から声優一新

花になる猫もいるんだ原発反対

血まみれのイギーの死力すさまじき

鉄扉まどろむ飛びてェ秋の蝶

蚯蚓鳴く馬の背で知るジャイロの名

さまよへるカーズ秋星ともなれず

のら犬にスタンドのあり晩夏光

宇宙果つるバス停過ぎし秋時雨

冬天や神父唱えている素数

風死して希望絶望絶望希

※このページの句は、スペースの関係上、句評を掲載することができなかったもの。作者は89ページを参照。

散文的な言い方とが響いていて、たとえば一緒に歩いている女の人にふっと言われた怖いこと、という感じがすごくいいなあと。

堀本　どこかに「切字」(句末か句の途中に入って言い切る形。詠嘆も含む「や」「かな」「けり」など)がほしいと思う。でも『ジョジョ』の作品世界が下敷きにあると、杜王町のオーソンと薬屋の間の路地で振り向く、あの描写がすごく怖いんですよね。

千野　手がいっぱい伸びてきて。

堀本　それをまた、月に視点を持っていっているところも面白い。この全体の軽い言い方が逆に怖さにつながる、みたいなね。秋の季語の月をさり気なく入れているということで、採りました。

千野　作者、私です。



▼千野　次は『あなたも～』です。

堀本　僕が採った中で、唯一季語がない句。よく河馬俳句を作る坪内稔典さんという俳人がいて。

長嶋　あれか。有名な「桜散るあなたも河馬になりなさい」って句ね。

堀本　その「本歌取り」(元ネタのフレーズを流用して作るトリビュ

ート作品」みたいな形。「だが断る」は岸辺露伴ですよね。稔典さんと露伴を「二物衝撃」させています。俳句の世界と『ジョジョ』の世界が拮抗しているような衝撃の仕方が面白いなと。

長嶋 稔典さんの原典を知ると、俄然よくなるね。

柴崎 「だが断る」をつけるだけで、何でも『ジョジョ』の世界。

千野 究極の下五だ(笑)。「だが断る」に勝てる、上五、中七(真ん中の七音)がなかなかないね。

堀本 もし上五に「だが断る」って使ったら、相当難しそう。

千野 作者は私です。

▼千野 次「ジョジョ立ちの～」。

米光 ジョジョ立ちってねじれてるけど、正中線はまっすぐ貫かれている。そこに「秋の天」という季語が正中線に響いて高く抜けている。気持ちいい感じです。

千野 正中線がうまいよね。

長嶋 ジョジョ立ちの面白さに正中線という堅い言葉を持ってきて芯を通したという、俳句っぽい手柄があるよ。

千野 作者、誰でしょうか。

堀本 はい、裕樹です。

千野 立つという字と、中も天も左右対称。それでさらに伸びやかな感じになる。字面って大事だね。

▼千野 並選、逆選、両方入っている句「黒髪～」です。

長嶋 これは第4部で、山岸由花子が康一とパフェを食べているところだよね。全然五七五じゃないリズムなんだけど、『ジョジョ』の世界のリズムという感じがして。そこがよかった。

千野 「り」は「溶け」にはつかないから「溶けぬ」か「溶けたり」だと思う。でも、山岸由花子は怖いよね。『ミザリー』みたい。

堀本 そこと、彼岸花は死人花という言い方もありますから、何か怖くて不気味な感じが合っている。

千野 康一のストローから、黒い髪の毛がウワーッと出てきたときは、伊藤潤二かと思ったよ(笑)。

柴崎 楳図かずおっぽいというか、ホラーっぽいところもありますね。

長嶋 荒木さんは、グロテスクなこととか、ためらわないよね。

柴崎 ホラー映画評論の本も出していらっしゃいますし。

長嶋 これは唇とパフェを並列に置いたのが、何かいい気がする。

千野 名詞だけで「黒髪くちびるパフェストロー彼岸花」でもいい。

長嶋 そうそう。かなり「破調」(定型の調子が破られている状態)の句になるけれど。官能性もあるし。

千野 作者はどなたでしょうか。

柴崎 私です。よかった、一句は入って(笑)。女子キャラが好きだから、それで一句作りたかったんです。少年マンガでこういう女子キャラを描ける人はいないと思うので。で、これは「彼岸花」に山岸由花子の名前が入っています。

長嶋 あ! 挨拶句(ここでは、句会に参加した人や、お題に関わる字を詠み込んだ句)だ。

▼千野 もうひとつ「二学期は～」。

柴崎 これも第4部ですね。

千野 そうですね。4部人気です。

米光 『ジョジョ』の中でも僕は、「爪伸びる」というような肉体が変わる、ある種の不気味さや面白さが、その人のキャラクターに結びついているところが好き。この句は、爪の伸びるときに殺したくなるみたいな、何とも言えない感じがいい。爪が伸びるなんてどうでもいいっちゃどうでもいいんだけど(笑)、それが吉良だと思って読むと、中学生みたいにやべえ、やべえって、どんどん妄想が広がって、ちょっと楽しかったです。

堀本 第4部は学園ものだけど、吉良は普通の社会人だから二学期は関係ないかなと。季語もないし。

千野 吉良は子どものときから爪をためているよね。だから二学期だった時期もあるかもしれない。

柴崎 若い頃の吉良の話。

長嶋 だから可愛い句だよね。

千野 はい、作者は私です。



▼千野 1点句です。「空港の～」。

米光 これは第5部ですね。情景としていいし、いかにもありそうだなぁというのと、そういうのを発見してちゃんと拾ってきているのが、僕は好きですね。

千野 空港というすごく人工的な場所の、緑の部分にいるウサギを俳句にするということで『ジョジョ』を離れても、句として面白い。

堀本 僕は柴崎さんに対する挨拶句なんじゃないかと……。

千野 シバという音が入って、ウサギ……そうか。作者は?

長嶋 僕です。それ、今気づいた(笑)。たまたま挨拶句。でも、この光景を描いた荒木さんがすごいんだよね。一刻も早く飛行機を盗んで移動しなきゃいけないときに、ナランチャが急に子どもっぽいことを言う。空港の芝生に野ウサギがいるねって。話の流れの合い間に無駄を挟む。それはたった一コマなんだけど何か豊かな感じがする。

千野 確かに、余裕というかね。

長嶋 それは荒木さんが俳句の目を持っているってことだと思う。

柴崎 私も絶対そう思う。

▼千野 次は「石仮面～」です。

米光 これはほのぼのした感じで。

千野 石仮面かぶったんだから、絶対ほのぼのじゃないよ(笑)。

米光 いやいや、石仮面かぶっていても生活はあるんだよ。夜しか動けないから、夜食を食べる。

千野 言われてみれば確かに、ディナーはよくしているよね。

長嶋 第1部を詠んだのは珍しい。

千野 「ズキュウウン」とこれだけかも。作者は誰でしょう。

堀本 はい、裕樹です。

千野 これは怖い夜食だな。多分、俳句史上最もヤバい、危険な夜食。

▼千野 では次、「あり得ない～」。これは場面ではなく作品世界全体のことを言っているんじゃないかと。そもそも彼らはあり得ない理屈、屁理屈で戦っている。さっきの「骨なら信用できる」もいわば屁理屈じゃないですか。それで「龍の髭」って植物なんですけど面白い季語で、ちょっとふざけた感じ。そういうのとあり得ない理屈で強引に通しちゃう感じとが合っていると思いました。作者は?

米光 はい、僕です。龍の髭とか、普段なかなか使えないカッコいい季語をこの機会に使ってみました。



▼千野 次は「秋桜や～」。何か「あげる」っていうのが、ちょっと女王様目線っぽくていいなと思ったんです。何かエロい感じもあって。爪というと第4部の吉良吉影か第7部のジョニィ・ジョースターなんだけど、「あげる」だから、7部の大統領夫人みたいなエロいキャラを思い起こさせる。

柴崎 圧迫祭りですね(笑)。切らせているのはきっと足の爪ですよ。

長嶋 深爪しないように切らせるにはよほど調教しないとダメとか。

柴崎 でも痛いのがまたいいとか。

千野 どんどん奇妙な世界に(笑)。作者はどなたでしょう。

長嶋 僕です。

▼千野 次は「花京院～」。俺、すごく笑っちゃったんだけど。これは花京院になりすましたラバーソウルが、チェリーをレロレロってするところ。さくらんぼだと季節は夏だけど「葡萄」は秋だから、ブドウがあったらそれもレロレロしてるだろうな、という考えでしょう。実際は花京院じゃないけど。

柴崎 それが「まさか」にかかってくる。
千野 作者は誰でしょう。
堀本 はい、裕樹です。
千野 堀やん、こんなの作るの？
堀本 僕は好きなキャラクターが、花京院なんです(笑)。それに笑える句も作ってみたかったので。

▼千野 では次、「長月は～」は。
柴崎 私です。これは第4部の川尻家の庭に生えてきた猫草です。可愛いから、売ってたらいいなと。
千野 あれ、動きがすごく猫なんだよね。荒木さんって、すごく猫のことを見てるなと思って。
柴崎 若い頃読んだときはあれが猫って全然思えなかったんだけど、猫のことを知った後で読み直したら、もう猫そのものだった。
千野 あの「ン…!?」という一コマがめちゃくちゃ猫なんだよね。

▼千野 話題の「運動会～」。堀本さん、これ採ったんだ！ みたいな。
堀本 これは「運動会」っていう季語がうまいなと。『ジョジョ』好きの調子に乗った小学生が、運動会の隅のほうで「無駄無駄」とか「URRRYY!」とか言って友達とじゃれ合っているみたいな。
千野 いるいる、お調子者が。
堀本 それをうまく「運動会」に落とし込んでいるなと思いました。
千野 作者は？
柴崎 はい。「無駄無駄」「URRRYY!」は入れたかったので。
長嶋 「URRRYY!」とか「オラオラ」とか、強い言葉をね。
千野 「貧弱！ 貧弱ゥ！」も考えたんだけど、入れられなくて。
米光 入れたいセリフが、いっぱいなんだよね。
柴崎 『ジョジョ』語は強いから、入れるのは難しいですよね。
千野 今回カブったのは意外にも「素数」と「爪」でした。

▼千野 では最後に、柴崎さん、初めての句会の感想は？
柴崎 今日がなければ一生、俳句作らないままだったかも。
千野 今気づいたんだけど、「長月は～」って挨拶句なのかな。長嶋さんの「長」と「有」が入ってる。
長嶋 僕の「空港の～」の句と、たまたま挨拶し合っている(笑)。ウサギと猫で動物、芝と猫草で植物。モチーフも合ってる、すごい！
千野 ホントだ。やっぱり句会には魔物が棲んでいる。本人を超えたところの力、すなわちスタンドって感じがするよね(笑)。
長嶋 マンガや小説に題材を借りる句会には可能性があるよね。またやるとしたら何がいいかな。『ガラスの仮面』句会とかかな？
柴崎 トリビュート句会ね。



長嶋 有
作家。1972年生まれ。2002年『猛スピードで母は』で126回芥川龍之介賞、'07年『夕子ちゃんの近道』(講談社文庫)で第1回大江健三郎賞を受賞。著書に『ねたあとに』(朝日文庫)、『祝福』(河出書房新社)など。近著は『佐渡の三人』(講談社)。ミスタのスタンド「セックス・ピストルズ」が好き。ミスタが死にそうになったときに、弱虫の5番が泣く場面でぐっときた。



柴崎友香
作家。1973年大阪生まれ。『その街の今は』(新潮文庫)で数々の賞を受賞。2010年『寝ても覚めても』(河出書房新社)で第32回野間文芸新人賞受賞。著書に『また会う日まで』(河出文庫)、『ビリジアン』(毎日新聞社)、『わたしがいなかった街で』(新潮社)などがある。女子キャラ好きで、お気に入りは徐倫とルーシー。ふたりとも強い！



米光一成
ゲームデザイナー。代表作に『ぷよぷよ』『BAROQUE』などがある。立命館大学映像学部教授。著書に『日本文学ふいんき語り』(双葉社・共著)、『自分だけにしか思いつかないアイデアを見つける方法』(日本経済新聞出版社)などがある。第1部のディオが好き。『魔少年ビーティー』を気に入っていて、ディオにはその雰囲気が感じられる。

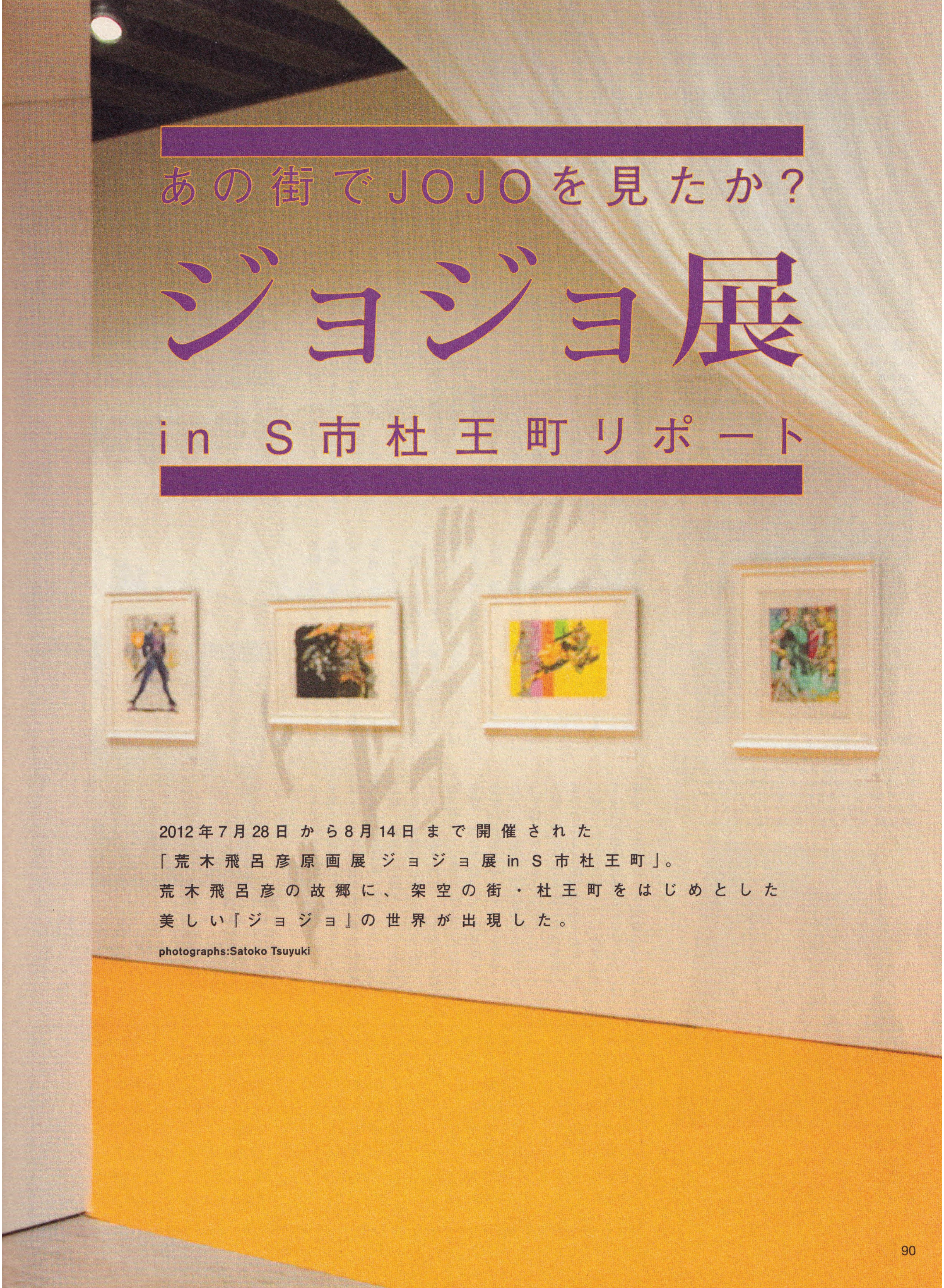


堀本裕樹
俳人。1974年和歌山県生まれ。「いるか句会」「たんぽぽ句会」主宰。2010年に千野帽子と「千堀」として雑誌連載開始。第2回北斗賞、第26回角川春樹賞受賞。著書に『十七音の海 俳句という詩にめぐり逢う』(カンゼン)、句集『熊野曼陀羅』(文學の森)がある。好きなキャラクターは花京院典明。同じ獅子座のA型で親近感を持っている。



千野帽子
日曜文筆家。2004年より文芸誌などに寄稿。'10年に堀本裕樹と「千堀」として雑誌連載開始。「東京マッハ」の企画、司会を担当。著書に『文藝ガーリッシュ』(河出書房新社)、『読まず嫌い。』(角川書店)、『俳句いきなり入門』(NHK出版新書)など。岸辺露伴が好きだけどリンゴォ・ロードアゲインのヘアスタイルにも憧れる。

長嶋 有 作	柴崎友香 作	米光一成 作	堀本裕樹 作	千野帽子 作
「筋肉より～」	「黒髪～」	「撃ち抜いた～」	「秋晴の～」	「墓石に～」
「カプリ島～」	「長月は～」	「落下する～」	「ジョジョ立ちの～」	「蛙が降る～」
「亀の背に～」	「運動会～」	「あり得ない～」	「石仮面～」	「月がきれい、～」
「空港の～」	「鉄扉～」	「花になる～」	「花京院～」	「『あなたも～』
「秋桜や～」	「蚯蚓鳴く～」	「のら犬に～」	「血まみれの～」	「二学期は～」
「冬天や～」	「宇宙果つる～」	「風死して～」	「さまよへる～」	「『ネコドラくん』～」



あの街でJOJOを見たか?

ジョジョ展

in S市杜王町リポート

2012年7月28日から8月14日まで開催された
「荒木飛呂彦原画展 ジョジョ展in S市杜王町」。
荒木飛呂彦の故郷に、架空の街・杜王町をはじめとした
美しい『ジョジョ』の世界が出現した。

photographs:Satoko Tsuyuki


JOJO





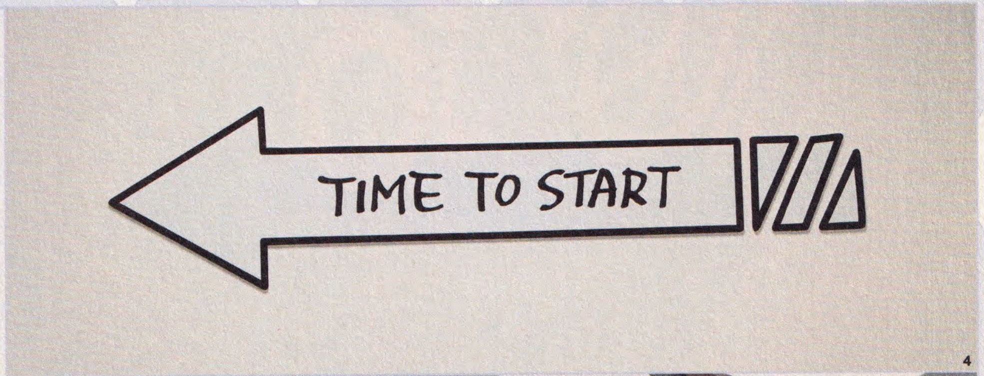


1　「ジョジョ展」初日オープニング前に、せんだいメディアテークでスピーチをする荒木飛呂彦。このあと、仙台市長の奥山恵美子氏らとテープカットし、18日間の「ジョジョ展」がスタートした。
2　エントランスを入ってすぐのエリアに展示されるのは〝ジョジョ以前〟の時代の原画の数々。『魔少年ビーティー』『バオー来訪者』のエッセンスは、どのように『ジョジョ』に受け継がれているのか。
3　パステルカラーで描かれたサイケデリックなマルチストライプ。1983年『週刊少年ジャンプ』42号、荒木飛呂彦にとって初の連載となる『魔少年ビーティー』第１回の扉に使用されたカラー原画。

「定禅寺通りのけやきを見ると『ああ、仙台だな』って思います。けやきと、このモダンな建物（会場／せんだいメディアテーク）で、杜王町のイメージが完成しているなと思います。この素晴らしい場所で、自分を育てていただいた仙台市からご依頼を受けて原画展が開催できるのは本当に光栄ですし、夢にも思っていなかったというか、そんなことが起こるのかと感動しております」。オープニングでの荒木飛呂彦の挨拶は、故郷への感謝の言葉から始まった。

『ジョジョの奇妙な冒険』の原画をはじめ、フィギュアやAR技術を駆使した展示で『ジョジョ』の世界を伝える一大イベント。特に仙台展では「杜王町」（仙台をモデルとした架空の街）を舞台とした第４部、第８部にフォーカスした構成だ。だがそれだけではない。期間中、仙台には架空のコンビニ「オーソン」が期間限定オープンし、市内有名レストランでは作中のメニューを再現したコースが提供されるなど、さまざまな仕かけが多発的に起こった。まさに出身地だからこそできた街をあげての原画展だ。期間中の「ジョジョ展 in S市杜王町」入場者総数は３万人以上。数多くのファンたちが〝杜王町への旅〟を満喫した。









4　ファンにはおなじみの筆跡で描かれた「TIME TO START」の矢印。ここから、1987年に連載開始となった『ジョジョの奇妙な冒険』の展示へ。
5　特別製作された立体物も展示される。第１部エリアには黒騎士ブラフォードがジョジョに託した「PLUCK（勇気）」の血文字入りの剣が。ちなみに〝PLUCK〟には「（家畜などの）臓物」の意味もある。
6　「二人の囚人が鉄格子の窓から外を眺めたとさ。一人は泥を見た。一人は星を見た。」『ジョジョ』の原画の前に置かれた、フレデリック・ラングブリッジ『不滅の詩』のエピグラフに胸が高鳴る。
7　圧倒的なクオリティで再現されたリアル石仮面。隣には第１話のカラーページのために描かれた、石仮面をかぶる族長（オサ）の原画が。







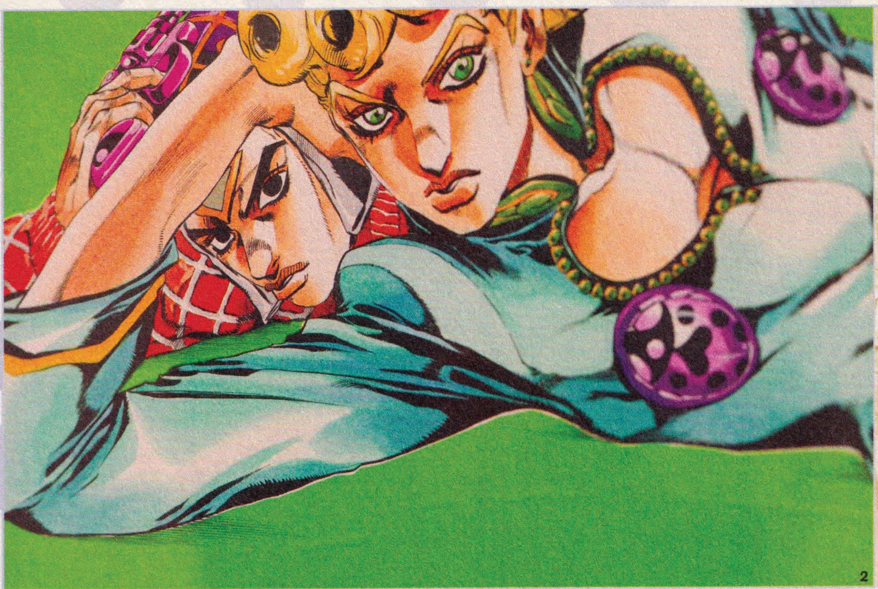
8　コミックス第４巻カバー原画。顔に手をあてたジョナサンの姿は"ジョジョ立ち"の基本ポーズとしても引用され、何度も目にしているはずだが、実際に原画を目にするとその鮮やかさに驚く。
9　1988年に描かれた、ジョセフ・ジョースターとシーザー・ツェペリ、リサリサの集合イラスト。背景のイエローはカラートーン。
10　蹴りを放つジョセフの原画の部分アップ。『ジョジョ』らしいパープルとブルーのグラデーションを背景に、白い飛沫が。立体的なホワイトの重なりは原画ならではの醍醐味。

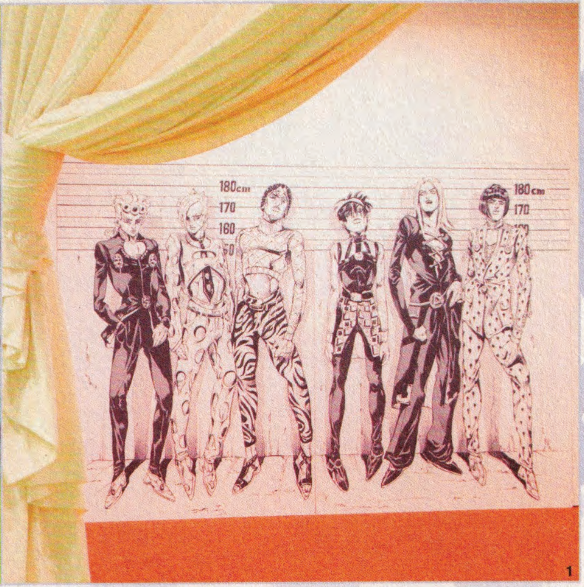






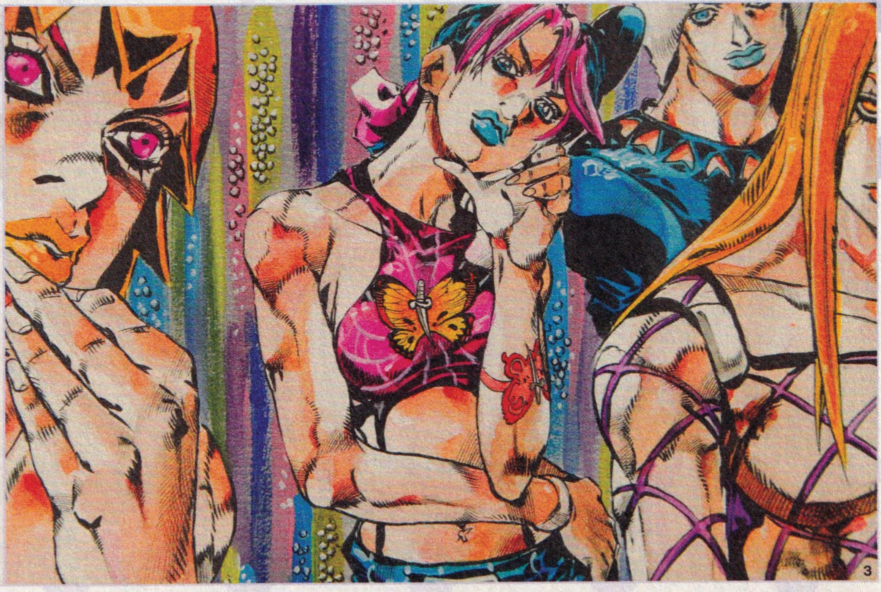
11　第３部「スターダストクルセイダース」展示エリア。承太郎（光り輝くプラチナ）、花京院（グリーン）、アブドゥル（レッド）など、各キャラクターのスタンドのイメージカラーで背景を彩色。
12　随所にある手書きの書き込みを見つけるのも原画展の楽しみ。エジプトのシーンを描いた原画の右隅に入れられた「荒木飛呂彦」のサイン。下書きと同じく、青鉛筆で署名されている。
13　『ジョジョの奇妙な冒険』の特徴的なコマ割を意識して、各部の展示の境目のカーペットも斜めにカットされている。奥にはにらみ合う承太郎とディオの図が。





1　マグショット風の背景を使った第５部ブチャラティチーム６人の等身大パネル。メンバー全員、思った以上に背が高い。
2　コミックス55巻にも掲載されるトビライラストのカラー原画。蛍光色のような発色を見せる背景のグリーンはカラーのトーン。経年変化による浮きがあるが、それも原画ならではの味。



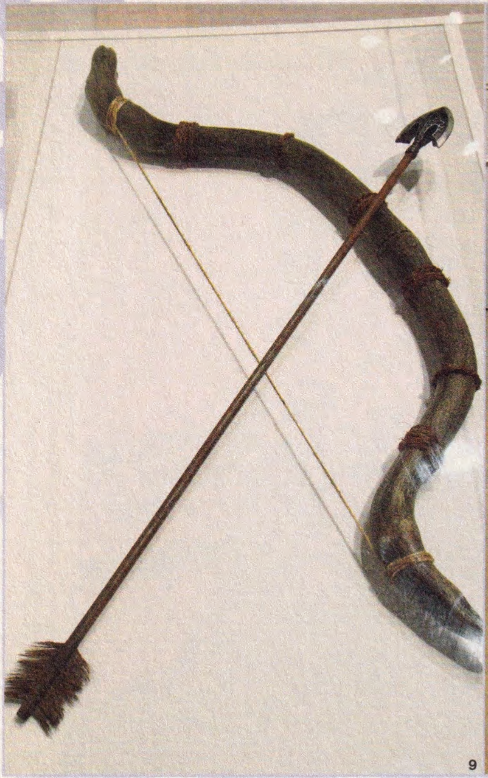


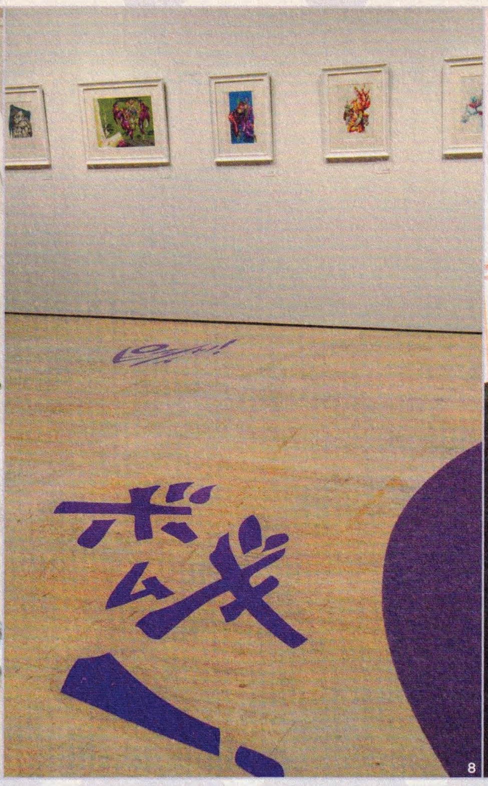
3　徐倫を中心にＦＦ、ウェザー・リポート、ナルシソ・アナスイが並ぶ、第６部『ストーンオーシャン』コミックス10巻のカバー。使われる色の数も多い。
4　『ストーンオーシャン』コミックス第１巻のカバーを飾った、檻につながれた空条徐倫の図。





5　仙台での展示では、『ジョジョ』特有の擬音が大書された白い壁に原画が配置される。花吹雪の中のジャイロ・ツェペリを描いたのは『ウルトラジャンプ』2009年４月号の表紙イラスト。
6　馬を駆るジョニィ、ジャイロ、ディオとポコロコ。天井までの壁一面に伸ばされた『スティール・ボール・ラン』の躍動感あふれるイメージ。



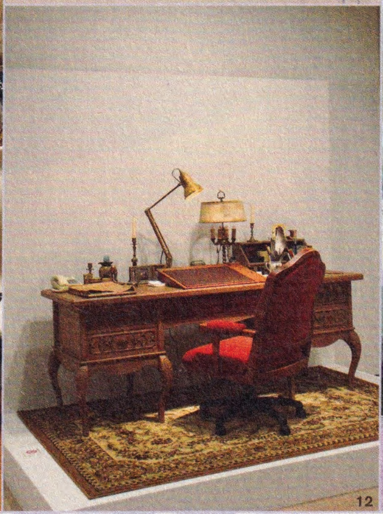




7　杜王町を舞台にした第４部と第８部には、大きなスペースが割かれる。原画展示コーナーの中央で会場を見守るように立つ東方仗助の等身大フィギュア。会場を視察した荒木氏との２ショット。
8　「ボムギ！」「ピシィッ！」などの擬音がシートになって床面を飾る杜王町エリア。仗助の学生服と同じく、このスペースのイメージカラーはパープル。
9　射抜かれた者のスタンド能力を発現させる、吉良吉影の父親が所有していた弓と矢の展示も。

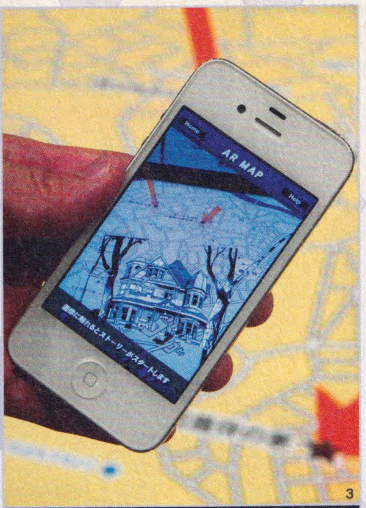


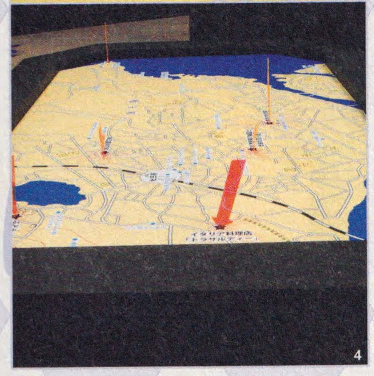






10　杜王町在住の人気キャラクター岸辺露伴の特別展示スペース。2011年夏にはグッチ新宿で展示されていた岸辺露伴の等身大フィギュアが。
11　ニューロマンティック風スタイルに描かれた岸辺露伴のキャラクター紹介ページ。ペンや消しゴムなど、マンガ家が使う画材でかたどられたHEAVEN'S DOORのタイポグラフィが、きわめて露伴的。
12　岸辺露伴のデスクを原作に忠実に再現したコーナー。デスク左側の茶封筒の中には、マニア垂涎の『ピンクダークの少年』生原稿が入っている……。
13　露伴の頭文字「R」の文字を入れたマグカップをペン立てに。さらに原作に忠実にRILOT社製のインク瓶が。ランプやキャンドルの配置など、細かな部分まで期待を裏切らずに再現。

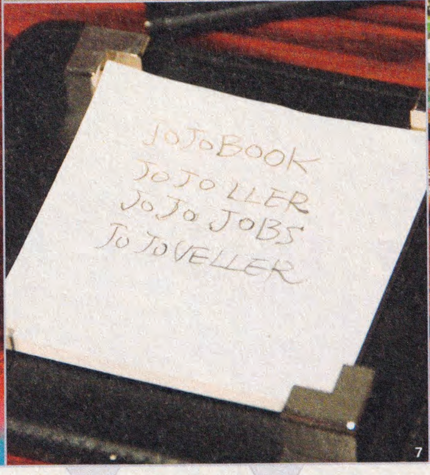


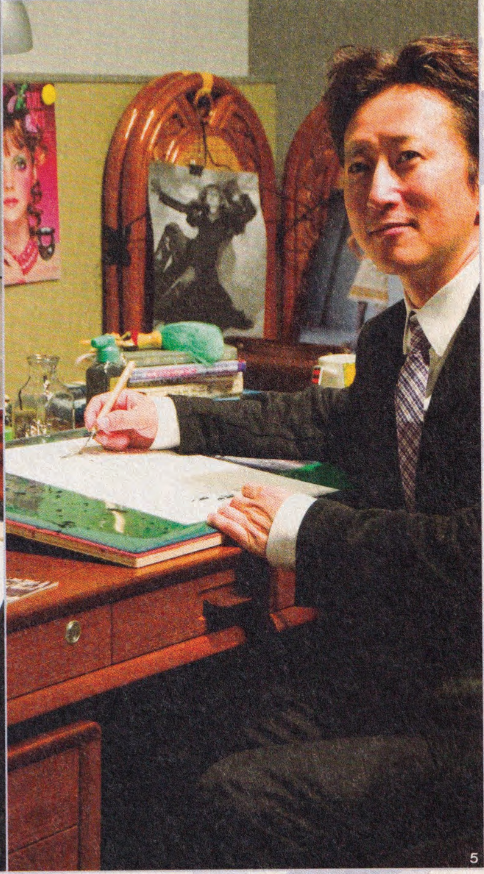





1　東方定助と広瀬康穂、車中にはソフト＆ウェット。会場のみで公開された描き下ろし原画「松島」。「松島の写真を見て描いたのではなく、どちらかといえば歌川広重の浮世絵のイメージ」と荒木氏談。
2　「パチン」というシャボン玉が弾ける擬音と並べられた『ウルトラジャンプ』2012年５月号で使用されたカラー原画。
3・4　AR技術を利用したインタラクティブな展示「ジョジョの奇妙な杜王町MAP」。専用アプリを入れたiPhone、iPadのカメラに杜王町の地図を認識させると、オリジナルストーリーが見られる仕組み。







5　岸辺露伴デスクだけでなく、荒木飛呂彦自身のデスクも会場で再現された。荒木氏が握っているペンも実際に使用されているもの。
6　木製デスクにハーマン・ミラーのアーロンチェアという荒木仕様のデスク。デスク左上の黒い電話機（20年以上前のソニー製）は、普段から仕事場で使用しているものを持ってきている。
7　デスク上のメモパッドには、荒木氏直筆による謎の文字列が。「JOJOBOOK JOJOLLER JOJOJOBS JOJOVELLER」、これらは何を意味するのか？
8　吉良吉影の爪を入れた瓶ならぬ、使用済みのペン先をためているボトル。実は荒木飛呂彦はこれら役目を終えたペン先を、針供養の日にまとめて豆腐に刺して〝ペン先供養〟をしているのだ。

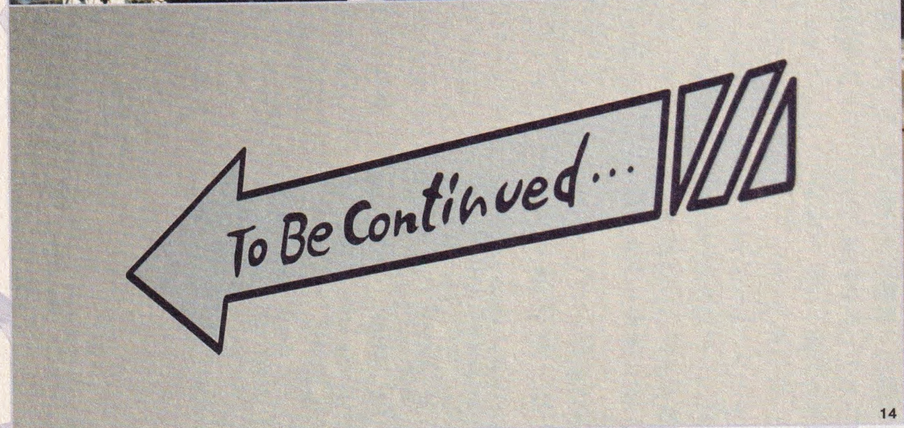




9 『SPUR』2011年10月号に掲載され、グッチ新宿で特別に原画展を行った「岸辺露伴 グッチへ行く」。全ページの原画を展示し、順番にストーリーを追うことができる形式に。
10 『ジョジョ』25年のヒストリーをまとめた年表形式の展示も。『ジョジョの奇妙な冒険』第１話が掲載された『週刊少年ジャンプ』1987年１・２合併号。表紙に載る同時期の連載マンガもそうそうたるもの。









11 初代担当編集椛島氏との対談の模様をまとめた動画も上映。「ちゃんとやらなきゃいけないんだな……」は、原稿にホワイトをかけてなかったことを編集に指摘されたことを受けての荒木氏コメント。
12 ７月28日より９月30日まで期間限定オープンした杜王町のコンビニ「オーソン」（ローソン仙台柳町通店）。オリジナルグッズやレジ袋を求めて、多くのファンが詰めかけた。
13 「グッチ×ジョジョ展」のチャリティオークションに出品された、荒木氏署名入りの複製原画やスニーカーなどのグッズも、期間中、仙台藤崎グッチショップ店頭にディスプレイ。
14 "To Be Continued…"。「ジョジョ展」の感動は、2012年10月６日から開催される東京展、そしてフィレンツェでの「荒木飛呂彦原画展」へと続く……。

すぐわかる！女子のための ジョジョ入門 集中講座

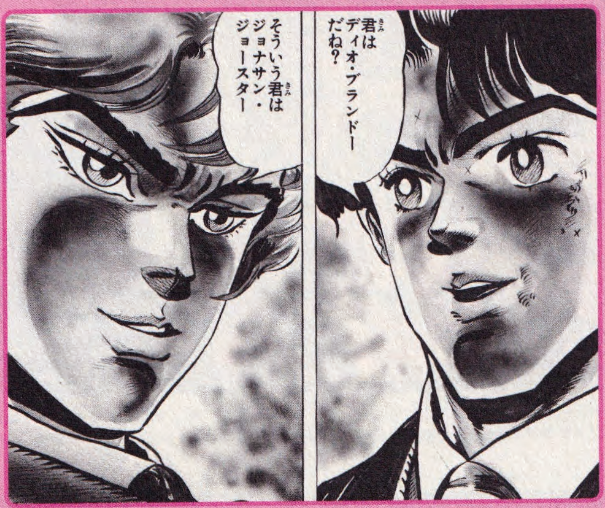
「面白いって勧められるけれど、どこから読んだらいいの？」「"ジョジョ立ち"とか"スタンド"ってなに？」というように、『ジョジョの奇妙な冒険』に興味はあっても、なかなかその世界に踏み込む勇気がない……そんな女子のために、簡単・明解な入門講座を開講！　ストーリーやキャラの魅力から、イケメンコレクションや深イイ話まで、これを読めば今日からあなたも『ジョジョ』の世界に、ズキュウウン！

text:Satoko Hatakeyama

1限目 『ジョジョ』ってどんなストーリーなの？

1987年の連載開始から現在まで、単行本にして100巻を超える『ジョジョの奇妙な冒険』。シリーズすべてのストーリーを語るには数時間あっても足りないほどだが、全体に通じているのは"人間讃歌"という壮大なテーマ。物語には、不気味な吸血鬼や究極生物、強敵とのバトルや派手なアクションが満載だが、作品のメインストリームに常に置かれているのは、魅力的な登場人物たちが繰り広げる家族愛や熱い友情、仲間との信頼や絆といった美しい人間愛だ。

加えて、『ジョジョ』で見逃せないもうひとつのポイントが、19世紀末から現代に受け継がれた、ジョースター家の「血脈のバトン」。第1部の主人公ジョナサン・ジョースターと宿敵ディオとの因縁が、時を超え世界中を股にかけ繰り広げられるさまは、『源氏物語』や『三国志』に匹敵するドラマティックな大河群像劇ともいえる。



となるとやはり、初めての『ジョジョ』は、ジョースター家とディオの因縁が始まる第1部から順に読んでもらうのが断然おすすめ。名門の貴族に生まれたジョナサン・ジョースター（＝ジョジョ）が、貧困家庭に育ち野心を持つディオ・ブランドーと出会い対立するといったドラマから、ディオが石仮面により不死身の吸血鬼に変身するという場面で物語は一気に加速。ジョジョの成長や熾烈な戦いの数々が繰り広げられる展開にぐいぐい引き込まれ、唯一無二といわれる『ジョジョ』の世界観にどっぷりハマること間違いなし。第1部にはいわゆる「ジョジョ立ち」や「名言」も数多く掲載されているので、ここを押さえれば基本はマスターしたといっても過言ではないほど。あとは読みたい衝動のままに第2部、第3部と読み進むだけ。めくるめく『ジョジョの奇妙な冒険』にいざ出発〜！

2限目 「波紋」とか「スタンド」ってなに？

『ジョジョの奇妙な冒険』を語る上で絶対に外せないのが「波紋」と「スタンド」と呼ばれるふたつの特殊能力だ。いずれも敵との戦いの中で使われ、時には相手を攻撃し、ある時は自分を守る盾のような役割も果たす。

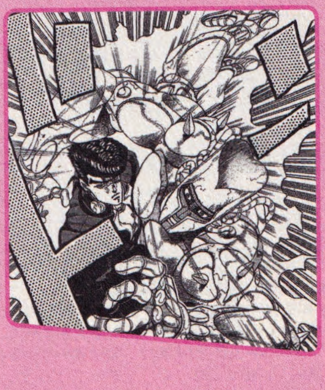
特別な呼吸法で作られる「波紋」のパワー

「波紋」とは独自の呼吸法を習得することで得られる生命のエネルギーのことで、水に波紋を起こすように肉体に波紋を起こすこと。ケガの痛みが消え、枯れ木に触るだけで花を咲かすポジティブな効果は、太陽のエネルギーと同じ波動でもあり、吸血鬼やゾンビには最大の武器となる。習得すれば、水の上も歩くことができたり、口に含んだワインを飛ばしてカッターにできたりと、かなり使える。





十人十色の能力が楽しい「スタンド（幽波紋）」



第3部から登場した「スタンド」という能力は、個々の持つ超能力が視覚化されたもの。持ち主のそばに出現する（＝スタンド・バイ・ミー）ことから名付けられ、敵を攻撃したり、持ち主を守ってくれる。人間はもちろんのこと、犬や猫などの動物や、刀剣やバッグなどの静物にも出現する。

その能力も、時間を止めたり天候を操るといった壮大なものから、舌に取りついて嘘を言う、自販機のお金を集めるといった身近なものまで多種多様。他のマンガにないユニークな形態から『ジョジョ』好きは必ずといっていいほどお気に入りのスタンドがあり、同好の士が集まると必ずといっていいほど「どのスタンドが好きか」「最強はどれか」という話題になる。「もし自分がスタンド使いだったら……」と妄想するのも楽しい！



3限目 第1～8部までのポイントを教えて！

PART1 ファントム ブラッド



第1部の大きな見所は前半と後半のふたつ。前半は、主人公のジョナサン・ジョースターと、時代を超えた宿命の相手となるディオ・ブランドーとの、みずみずしくもほろ苦い因縁を描く青春劇。後半は不死身の吸血鬼となったディオを倒すため、波紋と出合い奮闘するジョナサンの成長物語。当時、少年誌ではありえないといわれた、衝撃のラストにも要注目！

PART2 戦闘潮流



第2部は第1部の50年後の設定でジョナサンの孫であるジョセフが主人公。メキシコで発見された「柱の男」に端を発した騒動で戦いの運命に巻き込まれたジョセフが、波紋使いのリサリサのもとで過酷な修業を積み、究極生物に進化しようとする柱の男たちに立ち向かう。シリーズの中でも激闘が多いが、ツェペリの孫シーザーとの友情やリサリサとの師弟愛など、泣けるエピソードも満載。

PART3 スターダストクルセイダース



ジョセフの孫で高校生の空条承太郎に「スタンド」が出現。100年の眠りから目覚めたDIOの邪悪な波動で危篤状態になった母を救うためDIOを倒しに行くRPG風ストーリー。エジプトに向かう先々で遭遇する様々なスタンドはバラエティに富み、そのネーミングもユニーク。仲間とのチームワークの美しさに加え、ところどころに盛り込まれたギャグも楽しい。

PART4 ダイヤモンドは砕けない



舞台は1999年の日本、M県S市杜王町。ジョセフの隠し子で高校生の東方仗助に、スタンド能力が出現。弓と矢によって町中に増加したスタンド使いたちの起こす事件を仲間と解決し、最終的には殺人鬼・吉良吉影の悪事を追い詰める。個性豊かな町の住人たちのキャラに、サスペンスホラー的な面白さも盛り込まれた人気シリーズ。日常使いのスタンドも秀逸。

PART5 黄金の風



主人公は、DIOの息子でイタリア人のジョルノ・ジョバァーナ。揉め事がきっかけでギャング組織「パッショーネ」の一員となるが、気高い精神で仲間の信頼を得、自らの理想を実現するために敵に立ち向かう。登場人物のイケメン度、かなり高し。

PART6 ストーンオーシャン



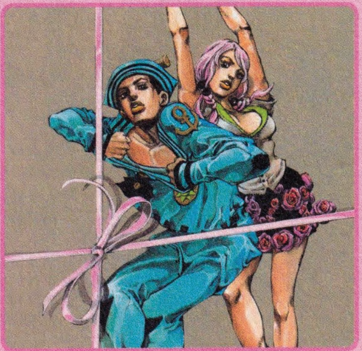
シリーズ初の女性主人公・徐倫は、空条承太郎の娘。敵の陰謀で刑務所に収監され父にも不信感を抱くが、娘を助けに来た際に身代わりになり仮死状態になった父を助けるべく、DIOの親友である黒幕を倒す決意をする。感動のラストはもちろんだが、エルメエスやプッチ神父などファッション好きにはたまらないキャラクター名も見もの。

PART7 スティール・ボール・ラン



19世紀末、北米を横断するレース「スティール・ボール・ラン（SBR）」に出場するジョニィ・ジョースターとジャイロ・ツェペリの冒険活劇。今までの『ジョジョ』の血脈はこのシリーズには当てはまらず、パラレルワールド的なシリーズになっている。とはいえ、スタンドを駆使した戦いやサスペンス的な展開、主人公の成長物語は『ジョジョ』の系譜を受け継いでおり、壮絶なレースが終わったあとのラストは感動。SBRのみ独立して読んでも面白さは抜群。

PART8 ジョジョリオン



現在、『ウルトラジャンプ』に連載中の最新シリーズは、第4部に登場したS市杜王町が舞台に。地震によって隆起した「壁の目」に埋まっていた記憶喪失の青年を大学生の広瀬康穂が発見。小さな手がかりや次々と起こる奇妙な事件から、青年の素性を探り当てていこうとするストーリーだ。なぜ埋まっていたのか、肩にある星形のアザは？ タマが4つある意味は？ など謎だらけの青年の正体も含めて、今後の展開が見逃せない。

『ジョジョ』のイケメン図鑑

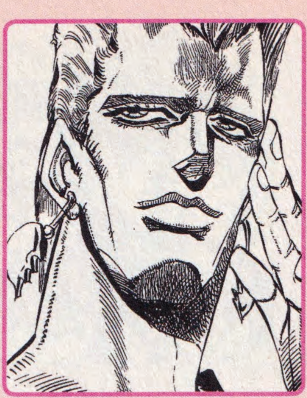
男も惚れるイケメンぞろい

『ジョジョ』には、男も惚れてしまうような美しく男気あふれたキャラクターが盛りだくさん。独断で厳選したラインナップをご覧あれ！



スティーリー・ダン

交渉上手のドネルケバブ売りから一変。遠隔操作のスタンド「ラヴァーズ」を使い、承太郎を下僕のようにこき使うペテン師。当初は優雅なジェントルマンを気取るも、次第にこすい本性を現し、最後は承太郎に怒濤のオラオララッシュで粉砕される。スタンドは最小最弱だが卑劣であくどい。イケメンだが近づきたくないタイプ。



ジャン=ピエール・ポルナレフ

DIOの刺客として、香港で承太郎一行の前に現れるが、肉の芽を取り除かれ仲間に加わる。アブドゥルとの戦いで崇高な死を選ぶほどの騎士道精神の持ち主で、サーベルを持つ騎士のスタンド「シルバー・チャリオッツ」もクールでスタイリッシュ。フランス男らしく女性にはとことんやさしいが、仲間内ではコケティッシュな役回りも多い。



カーズ

第２部の最強敵キャラ。メキシコの洞窟の柱から目覚めたときの敏捷さは２千年眠っていたとは思えないほどのキレ味を誇る。ストールを巻いた姿も素敵だが、戦闘態勢時のウェーブのあるロン毛姿もシビレるほどの美しさ。ラストで勝利を確信した途端、火山の噴火に巻き込まれ宇宙空間を永遠に漂う存在に。別名「考えるのをやめた人」。



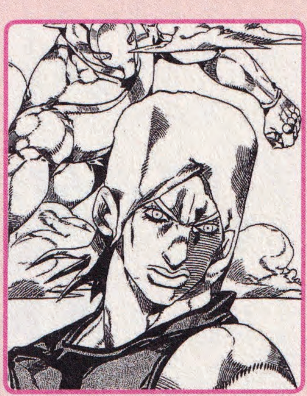
ジョセフ・ジョースター

祖父のジョナサンから誇り高き血統を受け継いだジョセフは、強靭な肉体と正義感を受け継いだナイスガイ。13歳のときに飛行機をハイジャックされた際、犯人から殴られたことよりも、その血で祖母から買ってもらった服を汚されたことに腹を立て、自ら飛行機を墜落させた大胆な逸話も。第３部、第４部にも登場し、存在感はピカイチ。



ジャイロ ＆ ジョニィ

SBRの主人公のふたりは、過酷な大陸横断レースを戦い抜くべく協力関係で結ばれている。個性的なウェスタンハット＆ゴーグルのジャイロ、星柄のワッチキャップにホースシューのアクセサリーをつけたジョニィ。ラストシーンでの、好敵手であり親友だった彼らの熱い友情を印象づける感動的なシーンでは、心からの拍手を送りたくなる。



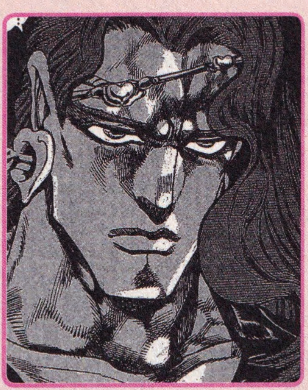
ウェザー・リポート

失った記憶を取り戻そうと、空条徐倫に協力する寡黙で心やさしいタフメン。記憶のDISCを取り戻すと、本来の凶暴な性格と危険なスタンド「ヘビー・ウェザー」が現れるが、実兄であるプッチ神父との死闘ではからずも絶命する。ウェザーのDISCを抱きしめながら死を悟ったエルメェスと徐倫のシーンは第６部の中でも一、二を争う名シーン。



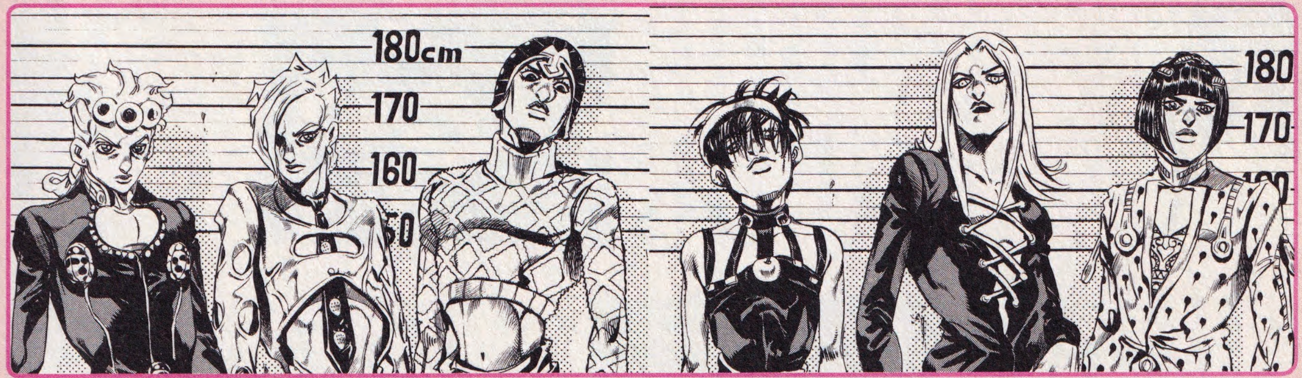
岸辺露伴

杜王町に住む人気マンガ家で、頭に巻いたギザギザのヘアバンドがトレードマーク。自身の作品においてはリアリティをなによりも重視し、取材時には人の迷惑も顧みない面も見受けられる。唯我独尊の芸術家肌で、スピンオフ作品にもしばし登場し、ルーヴル美術館で絵の呪いに遭遇したりイタリアでは盗難に遭ったりと常に波瀾万丈。



ヴァニラ・アイス

DIOの側近で、DIOが血を欲すると自らの首をはねて差し出すほどの忠義者。DIOの手により復活するが、口の中が暗黒空間という不気味なスタンドで承太郎一行を苦しめる。ヘアバンドやピアス、ブローチもハートで、けっこうなハート好きと見受けられるが性格は残虐。ゾンビになったことに気づかず太陽光で絶命する姿は哀れ。



ジョルノ・ジョバァーナ

くるっと巻いた前髪がチャーミングなジョルノは、ギャングスターになるという固い決意と野望をいだく若者。胸元を丸くくりぬいたスタンドカラーのジップアップジャケットにはてんとう虫のアクセントつき。

パンナコッタ・フーゴ

チームのブレーン的存在で頭脳明晰。ナランチャがチームに入るきっかけを作ったこともあるが、「組織」を裏切ったブチャラティたちに納得できず離脱。スタンドの「パープルヘイズ」は本人も制御不能な破壊力を持つ。

グイード・ミスタ

弾丸にまとわりついて軌道を自由自在に操る小人のスタンド「セックス・ピストルズ」を持つ。チームの中では明るく陽気な性格で、ショート丈のニットのへそ出しスタイルにニットキャップを合わせたスタイルが斬新。

ナランチャ・ギルガ

幼い頃から家族の縁に薄く少年院に入るも、ブチャラティに出会いギャングの道を志す。チームではジョルノやフーゴよりも年上だが、容姿や性格から年下に見られる。トレードマークはラフなヘアとヘアバンド。

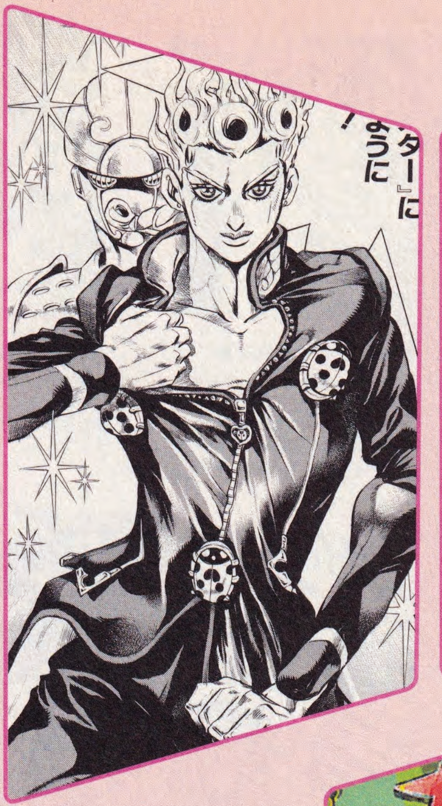
レオーネ・アバッキオ

元警官だったが、自身の汚職が原因で仲のよかった同僚が殉職。それが原因で落ちぶれ、ギャングに。その過去ゆえに人をあまり信用しない性格だが、いったん心を許すとどこまで信頼をおく義理に厚い人情派。

ブローノ・ブチャラティ

黒髪のボブが印象的なブチャラティは、チームリーダーらしい冷静沈着さと頭のよさが魅力。スタンドはジッパーを自在に操る「スティッキィ・フィンガーズ」。ドット柄の入ったスーツの着こなしもクール。







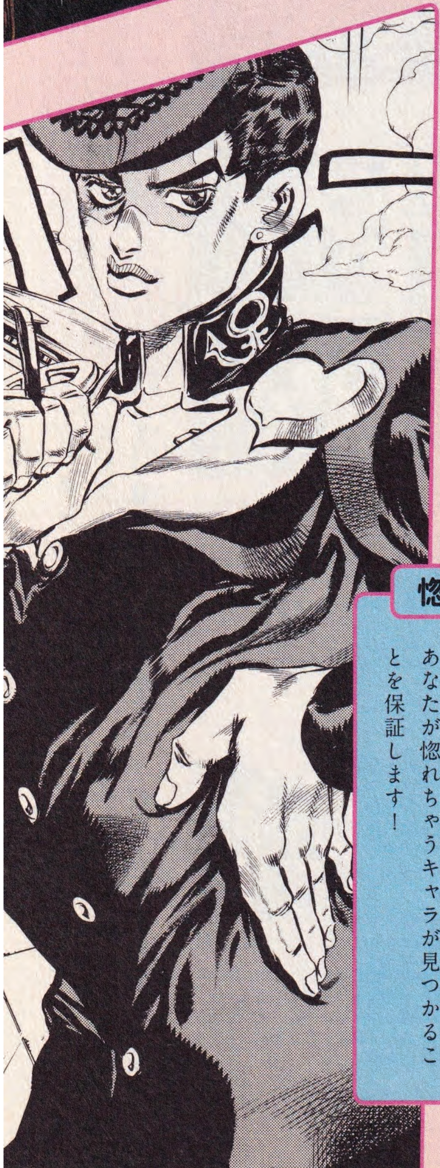
「ジョジョ立ち」ってこれさッ！

噂の「ジョジョ立ち」を徹底解剖する

今や『ジョジョ』を語る代名詞ともなっているポージングがこれ。バシッと決まれば、今日からあなたも「ジョジョ立ち」マスターに！



『ジョジョ』の作中で、主人公たちが見せるダイナミックで独特のポージングは、通称「ジョジョ立ち」と呼ばれる。作品のファンだった鬼教官氏らがそのポージングを披露するムーブメントを「ジョジョ立ち教室」と命名し、世に広めたのがきっかけで、始まったのは2003年頃のこと。'06年に開催された「荒木飛呂彦 執筆25周年パーティ」では、作者本人の前でジョジョ立ちが披露され、『ジョジョ』を語るのに欠かせないほど有名になっている。ここに掲載したのは、数多くある「ジョジョ立ち」の一部で、右下から反時計回りに、第１部のジョナサン・ジョースター、第６部の空条徐倫とストーン・フリー、第５部のジョルノ・ジョバァーナとゴールド・エクスペリエンス、第３部の空条承太郎とスタープラチナ、第４部の東方仗助。初心者がトライしやすいのは、ジョナサン・ジョースターが左手を顔の前で広げるポーズ（右コマ）。手の先まで力を入れ右肩を大きく上げるなど、一見簡単そうに見えて、細部まで神経を行き渡らせるのがミソだ。家で密かに練習して、ここぞというときに「ドッギャーン」と披露すれば、あなたはもう立派なジョジョラー！



惚れるキャラが絶対に見つかる！



犬山紙子さん

イラストエッセイスト。『邪道モテ！』（宝島社刊）が好評発売中。負け美女評論家として活躍。好きなキャラは岸辺露伴。

『ジョジョ』に出てくるイケメンはとにかく個性的。私の大好きな第4部だけでも、天才マンガ家で天邪鬼、振り回されたい男No.1の岸部露伴。ストーカー女子を受け入れる懐の深い男No.1の広瀬康一。硬派で癒やす力を持つ、彼氏にしたいNo.1の主人公・東方仗助。美意識が高く、書ききれないイケメンたちがもっともっといます。『ジョジョ』にしかいない、あなたが惚れちゃうキャラが見つかることを保証します！

この「スタンド」が欲しいッ！

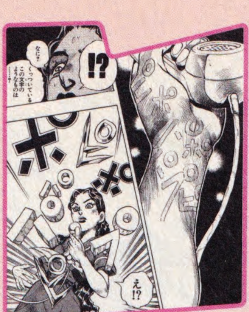
あると便利で超使える！ 日常使いにぜひ……

『ジョジョ』を読むと誰もが思うのが「自分がこのスタンド使いだったら」ということ。ここでは日常使いに最適な8つのスタンドを厳選！



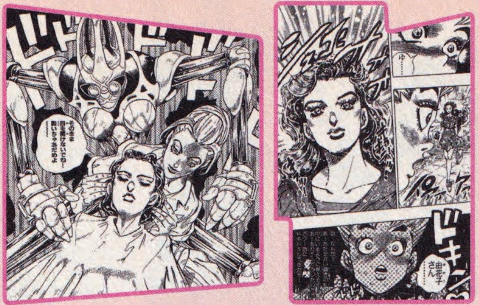
時を止める「ザ・ワールド」はシンプルで最強

自分以外の時間を止める……シンプルでありながら最強のスタンドを持つのは、第3部のラスボスであるDIO。自分だけに時間の経過があるということは、すなわち老化も早いというのが弱点かと思いきや、DIOは不死身のゾンビなので関係ないことがわかりガックリ。やはり、このスタンド、最強！



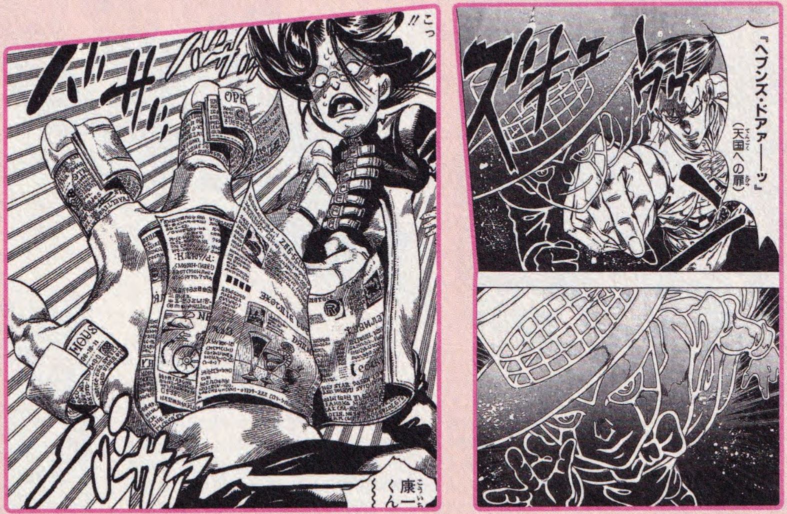
「エコーズ」で睡眠学習!?

擬音を身体に貼りつけ、繰り返し音声を発する「エコーズ」。たとえば試験問題を身体に貼りつけ、繰り返し聞けば、眠っている間の睡眠学習に効果テキメンかも!?



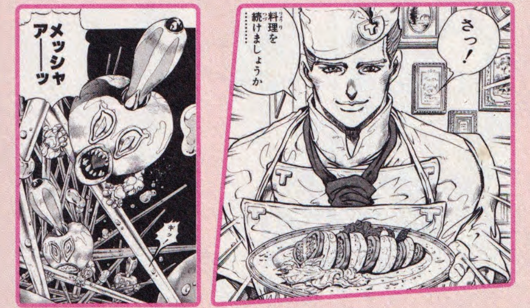
モテ顔に変身できる「シンデレラ」

杜王町でエステティックサロンを経営する辻彩のスタンド「シンデレラ」は、ボディをモンタージュのように組み替え、モテ顔にする能力を持つ。ただし使用条件を守らないと、恐ろしいことに……。



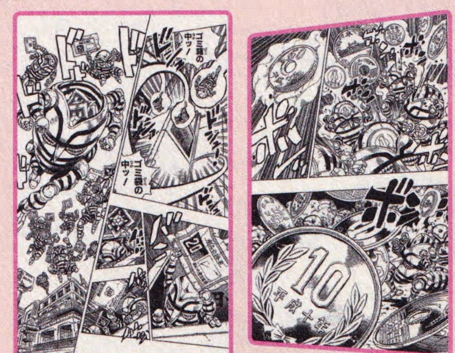
「ヘブンズ・ドアー」で彼の行動をチェック

岸辺露伴の「ヘブンズ・ドアー」は、相手を本にすることで、人生の経験をページをめくるようにのぞいたり、未来の行動を書き込めるスタンド。最近、やけに冷たい彼に発動すれば、浮気をしていないかをチェックでき、余計な寄り道もしなくなりそう。



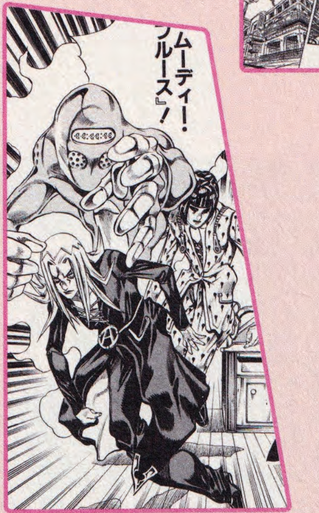
トニオ、私の専属料理人でいて！

おいしそうなイタリア料理で、身体の悪いところを治してしまう夢のようなスタンドが、トニオ・トラサルディが持つ「パール・ジャム」。その治療過程は少々常軌を逸してはいるが、治ったあとの爽快さは羨ましい限り。専属料理人になってもらうのはムリとしても、近所にトニオのお店があったら毎日でも通うこと必至！



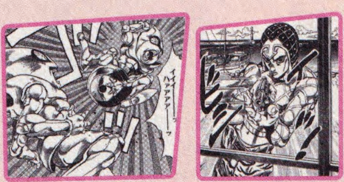
「ハーヴェスト」で探し物発見！

モノ集めが得意な500体以上の小人をかかえる「ハーヴェスト」なら、家の中での細かな探し物にひと役買ってくれそう。キッチンの床にばらまいたお米や、宅配便で使ったあとどこに置いたか忘れた印鑑、テーブルの下のパンの食べこぼしのカスなどなど……セコい使い方ならお手のもの！



楽しい時間を何度も巻き戻し再生！

友達の一発ギャグやうれしい褒め言葉など、何度でも聞きたい言葉はアバッキオの「ムーディ・ブルース」で何度もリピート再生。なにかをしに来たのになにをするかを忘れたという、よくある場面にも最適。



いたら愉快な「セックス・ピストルズ」

本体のミスタの軽く陽気な性格に似たスタンドは、弾丸に取りついて軌道を操る6人の小人たち。弾丸でなく球の軌道にいてくれたらどんなに頼もしいだろうと、テニスや卓球をするときにふと思った人も、いるとかいないとか!?

欲しいのは遠隔操縦＆スピード型

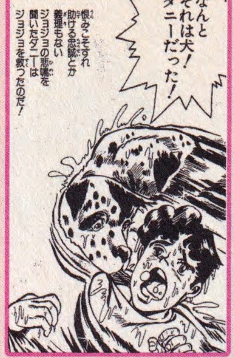


原田 忠さん
ヘアメイクアップアーティスト。広告を中心にNYやパリのショーで活躍。好きなキャラはジョセフ・ジョースター。

仕事柄、あったらいいなと思うのは、相手の要望を読み取ってヘアもメイクも瞬時に表現し、同時に何人も仕上げられる遠隔自動操縦＆スピード型のスタンド。たとえばシンデレラやアトゥム神のようにイメージを操作しながら、ハーヴェストやバッド・カンパニーのような無数のスタンドで同時に何人も仕上げる。『ジョジョ』は連載当初から欠かさず読んでいる大ファンなので、そんなスタンドが使えたらうれしいです！

『ジョジョ』の動物天国

作品に登場する動物は「奇妙」天外！



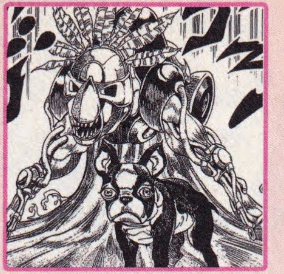
賢い猟犬、ダニー

ダルメシアンのダニーは、川で溺れた幼いジョナサンを助けて以来、熱い友情で結ばれたジョースター家の飼い犬。賢く従順で愛らしいダニーの姿にファンも多い。



サンモリッツの上品な猫

「ジョジョ」に登場する動物で、比較的多いのが猫。第２部でカーズが潜伏するサンモリッツにいた猫は、ジョセフにからかわれ散々な目に。



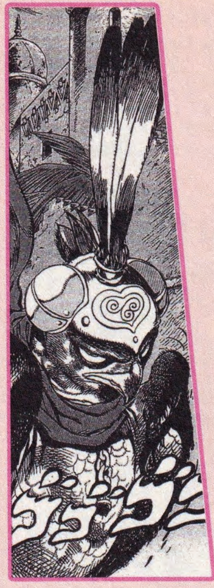
男気あふれるヒーロー犬

水や空気、火といった単純なエレメントを操るスタンドは、変幻自在で強いものが多い。イギーの砂のスタンドもそのひとつ。当初はヤル気がなかったが、最後には男気を見せる場面も。



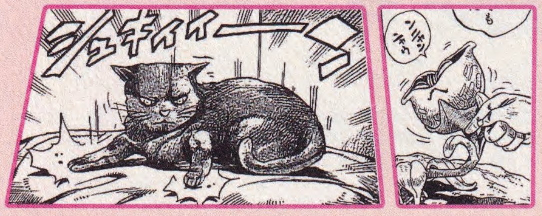
波紋の実験台にされたカエル

登場するのは第１部。ツェペリがジョナサンに波紋の威力を見せる際のおまけ的存在だが、波紋が炸裂した際の「メメタァ」という擬音とともに一躍有名に。



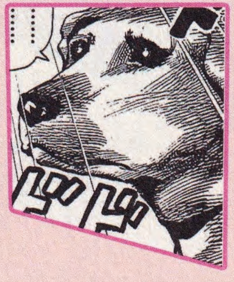
冷酷な番鳥「ペット・ショップ」

第３部、DIOの住んでいる館の番鳥で、侵入者に襲いかかる「ペット・ショップ」。氷と冷気を操るスタンドを持つハヤブサで、ツララのミサイルを発射するさまは、たかが鳥とあなどれない攻撃力を持つ。イギーとの死闘では川底まで潜水するという荒業を成し遂げ、かなりのダメージを与えるまでに追い込むが、最後にはイギーにツララのミサイルごとくちばしを噛み砕かれる。



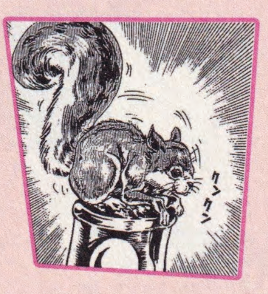
死んでからスタンドが出現したタマ

スタンドの矢に射抜かれた猫のタマは、死んでからスタンド「ストレイ・キャッツ」が出現し草のような生き物として生まれ変わった変異種。強い攻撃性を買われ吉良により川尻家の屋根裏で飼われるが、成長し、より凶暴な姿に変化。シリーズラストの戦いで能力を利用されるが、その後は虹村億泰の父と仲よくなり、楽しく暮らしたそう。



アーノルドは鈴美の友達

Ｓ市杜王町の「振り向いてはいけない小道」にいるとされるアーノルド。杉本鈴美のそばにいつも寄り添う姿は、なぜかいつも寂しげ。



カーズの腕から生えたリス

究極の生命体を自負するカーズの手首からニョキニョキと生えたのは、なんとも愛らしいリス。しかし中身は残虐なゾンビ……コワい！

『ジョジョ』グルメ

奇妙な美食の数々におなかも鳴りそう



肩こりすっきりの一皿

伊料理店「トラサルディー」での前菜のトマトとモッツァレラチーズのサラダは、億泰の悪い細胞を出し、肩こりもすっきり解消。こんなスタンドならいつだって大歓迎だ！



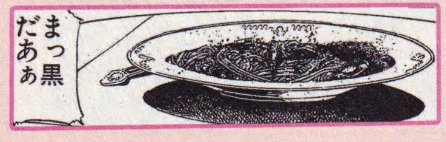
思わずレシピをメモメモ！

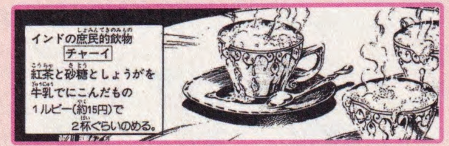
トニオが虹村億泰にサーブした２皿目に登場したのが「娼婦風スパゲティー」。黒オリーブとアンチョビ入りのトマトソースは、実際に作れるレシピも付属。



パスタが波紋ですごいことに

シーザーとの初対面で波紋で飛ばしたスパゲティをマカロニに貫通させられ、さらにワイングラスに刺されたジョセフ。こうなるともはや食べ物でない状態に……。



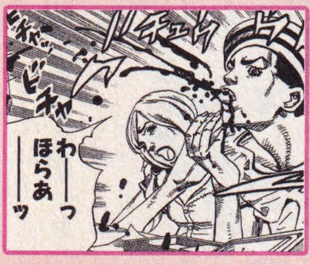


ミルクの香りがしてきそう

インドのチャーイも、イカスミスパと同じく、味わったことのない憧れの飲み物。現地の値段を入れてあるのも、物価の目安になってナイス！

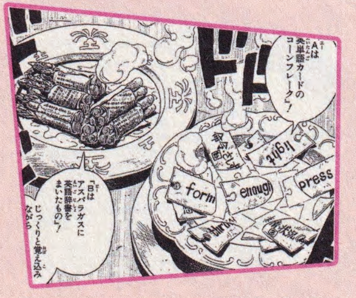
イカスミスパゲッティ

連載当時はまだ珍しく、「ジョジョ」に登場してその存在を知った人も多いイカスミのスパゲティ。ローマでジョセフが食べた一皿。



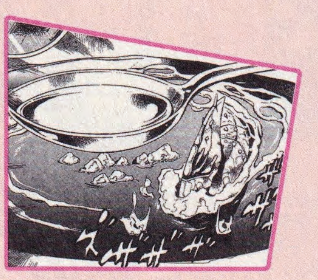
杜王町銘菓「ごま蜜団子」

広瀬康穂がお見舞いに買ってきた「ごま蜜団子」は、仙台市で開催された「ジョジョ展」でも実際に販売され話題に。決して前歯で噛んじゃいけないルールはもちろん適用！



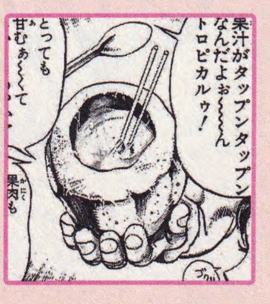
愛いっぱいの料理、できました

成績の悪い広瀬康一のために、山岸由花子が作った料理は、英語の辞書のページをアスパラガスに巻いたもの。ある意味、愛情いっぱいの料理だがこれで成績がよくなるのかは定かでない。



生きたフカヒレがスープに!?

ナランチャの食べていたスープから不気味なヒレをのぞかせているのは、敵キャラ・スクアーロの鮫型スタンド「クラッシュ」。スープの中から生きたフカヒレがのぞくなんて、怖すぎる！



ヤシの実の果汁はトロピカルゥ！

第３部で承太郎一行が訪れたシンガポールの屋台で売られていたヤシの実のジュース。売り手の口上がうまいせいもあって、甘くて爽やかな味が口の中いっぱいに広がる。



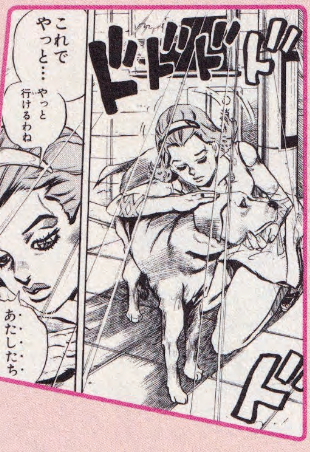
感動で思わず、涙……

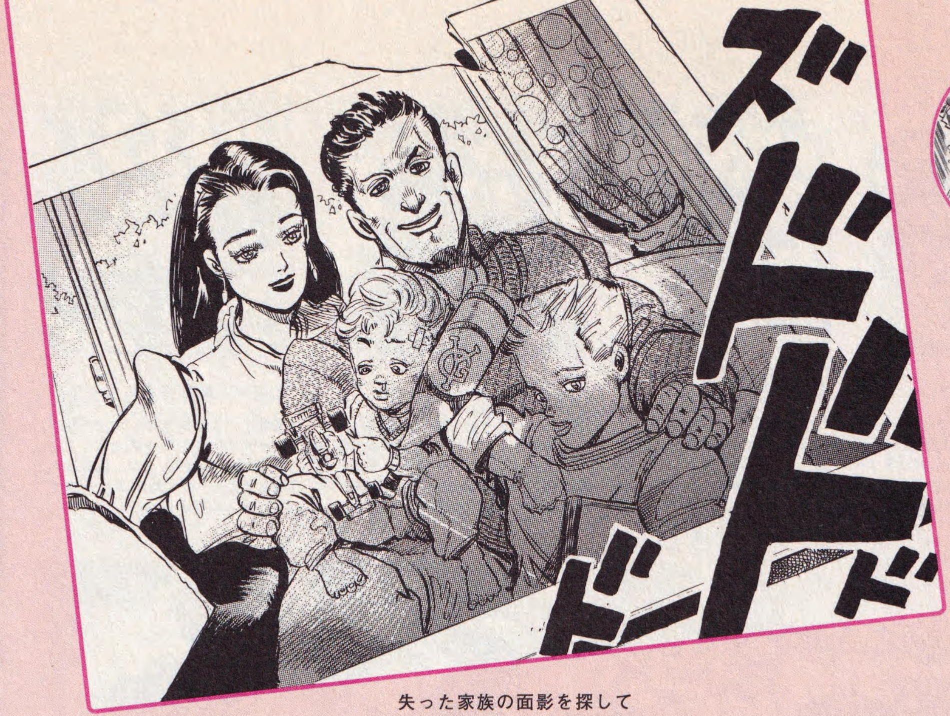
『ジョジョ』版「深イイ」話をお届け

「人間讃歌」がシリーズ全体にちりばめられている『ジョジョ』は、感動的で泣けるエピソードも満載！

天国へと召された鈴美とアーノルド

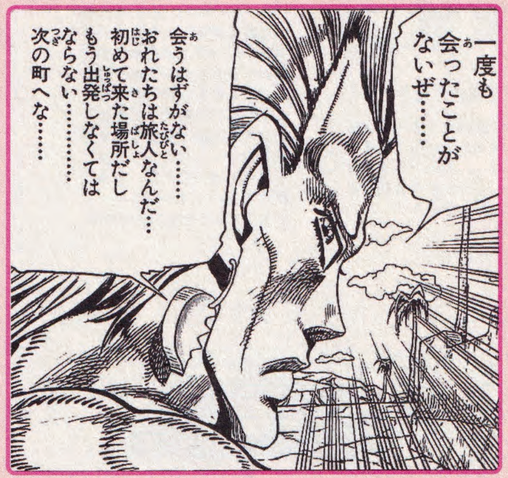
自分を殺し、連続殺人鬼でもあった吉良を追い詰め、自らの手で倒した杉本鈴美。ようやく成仏できると仲間に別れを告げる鈴美とアーノルドに、ひねくれものの露伴も康一に促され、寂しいと本音を吐露。穏やかな顔で天に召される鈴美とアーノルドの姿が印象的。





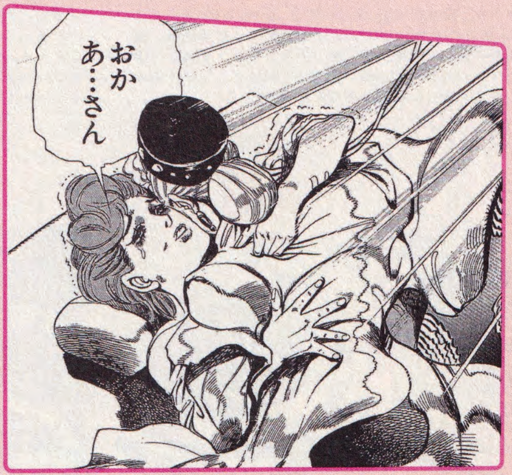
失った家族の面影を探して

DIOの元部下で不死身の化物になった虹村兄弟の父親。ちぎれた紙片を執拗にいじる姿を見かねた仗助がスタンドで元通りにすると、そこには在りし日の家族の姿が。人間の心を失っていなかった父親に兄弟も思わず号泣。



母の大きな愛に従者も大粒の涙

DIOの呪縛で危篤状態になった娘のホリィに会いに、はるばるニューヨークから駆けつける母親のスージーQ。夫のジョセフと孫の承太郎を信じ、娘を抱きしめる母の慈愛と真の強さに、従者たちも大粒の涙を流す。



幼い恋を胸の中にしまって

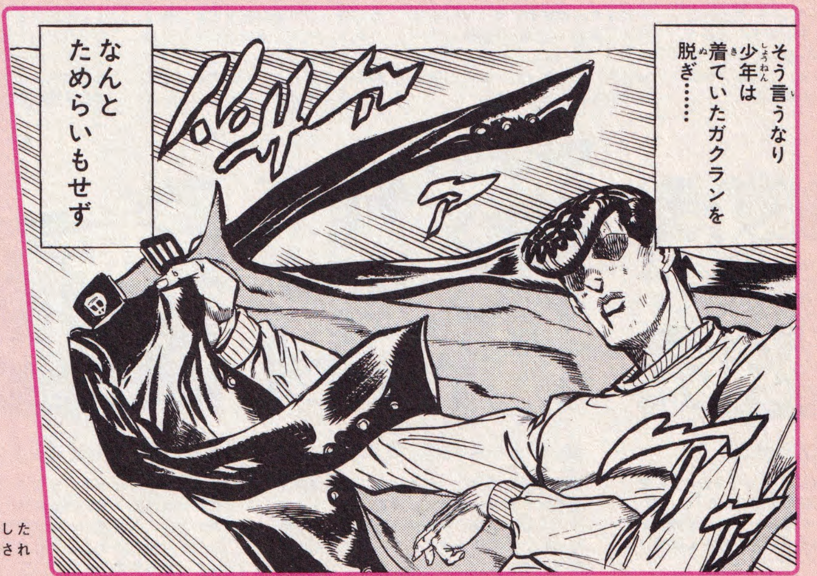
敵のスタンドで子どもに退化したポルナレフは、やさしいお姉ちゃんに助けられるが、逆に彼女を危機にさらしてしまう。承太郎のオラオララッシュで敵を倒し大人に戻るが、正体を告げず去る粋なところも。





人を信じることを教えてくれた男

下校途中に偶然マフィアの男を助けた幼きジョルノ。その男がひとりの人間として対等に接したくれたことがきっかけで、ジョルノは「人を信じること」の大切さを学ぶこととなる。不幸な境遇でも一筋の光が前に進むことを教えてくれるイイ話。



仗助がこだわるヘアスタイルのヒミツがここに

仗助が高熱で生死をさまよった４歳のとき。大雪で立ち往生したのを助けてくれたのが学ランでリーゼントの男性。熱に浮かされながら記憶に焼きついたヒーローへの憧れがあの髪形に。



自らの危険も顧みず友を救出

DIOにより肉の芽を埋められた花京院典明に対し、自らの危険も顧みずスタープラチナで肉の芽を抜き取る承太郎。その勇気と潔さに感激した花京院は、承太郎の仲間に加わることを決心。承太郎の男気とそれに応える花京院の友情が、泣ける！

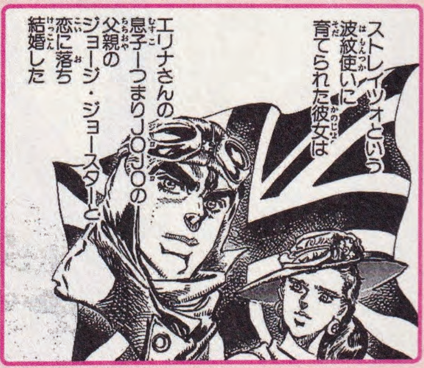
アバッキオの魂が救われた元同僚の許し

ボスの正体を見破るためにスタンドを発動するも攻撃を受け、絶命するアバッキオ。しかし、死後の世界で会った元同僚に大切なのは結果ではなく「真実へ向かう意思」だと教えられることで過去の呪縛が解け、ようやく魂が救われる。



ジョセフの両親を襲った運命とは

第２部では、リサリサの過去に秘められた驚くべき事実が判明。ジョセフの父親であるジョージ二世とリサリサは、DIOが間接的に絡む数奇な運命に翻弄された過去があった。その驚くべき事実には、運命のいたずらを感じずにはいられない！



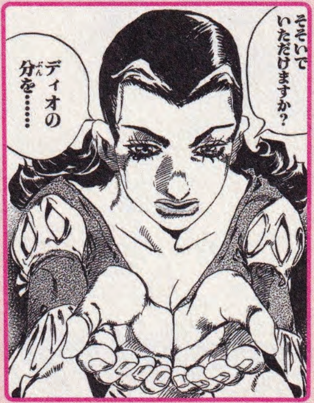


最後の波紋は仲間のために

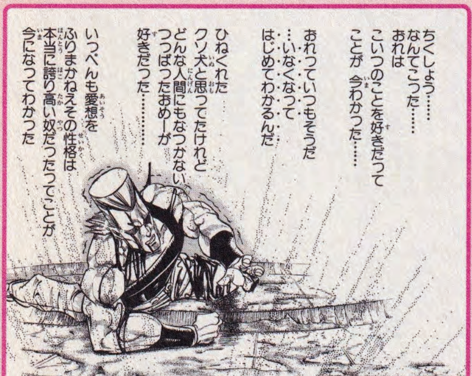
父の気高い自己犠牲の精神を受け継いだシーザー。自身の絶命の際にも最後の力を振り絞り、仲間のために解毒剤のピアスを入れたバンダナを血のシャボン玉に入れて残す。そのバンダナはのちにジョセフがワムウとの戦いに身に着けて戦い、シーザーのかたきを討つことに成功する。美しい友情が光る逸話だ。

熱いシチューを素手で受ける母の愛

ジャイロとジョニィの好敵手ディエゴ・ブランドーは、幼少時貧困にあえいでいた。とある農場で暮らすも、農場主に嫌がらせをされ、食器を壊される。それでも負けない母親はディエゴのために熱いシチューを手で受け取りやけどを負う。ディエゴが社会に復讐を誓う、やるせないストーリー。







瀕死の重傷を負いながらも戦う

いつもマイペースを崩さず、人になつかなかったイギーだが、最期は瀕死の傷を負いながらも仲間のために死力を尽くし絶命。犬好きの子どもを見殺しにできなかったり、番鳥ペットショップと激闘を繰り広げたりと、闘争心にあふれた魅力的なキャラは不滅！

ディオもろとも海の底へ

激闘でディオの一味を倒し、初恋の人エリナと結婚したジョナサン・ジョースター。しかし新婚旅行の船内で再びディオが襲い、ジョナサンは捨て身の戦法で、エリナと残された赤ん坊を守る。男らしい正義感にあふれたジョナサンの最期に涙、涙！

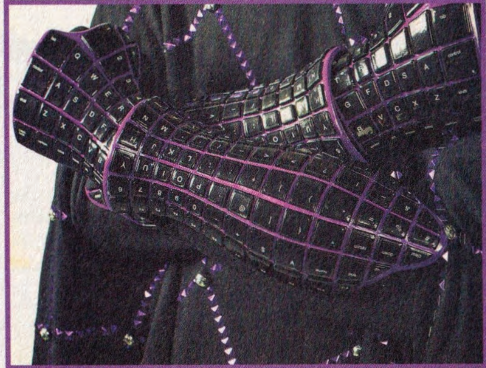
What's ЯEMOTE ROMANCE?

リモートロマンスとは何か？

10月６日より開催される「荒木飛呂彦原画展 ジョジョ展」会場には、黒く妖しげなスタンドが出没するという……。
この遠隔操作型スタンドを操るのは、「ジョジョ展に行きたい！」という強く願うあなた自身。











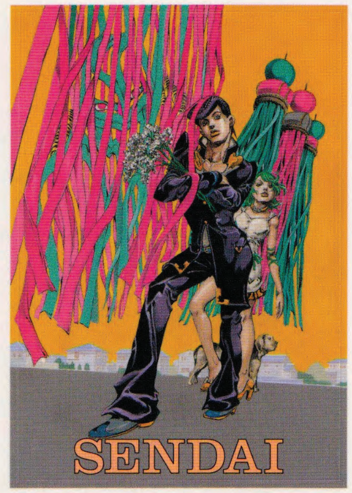
スタンド名／「リモートロマンス」　本体／ナシ（サーバーに宿る）

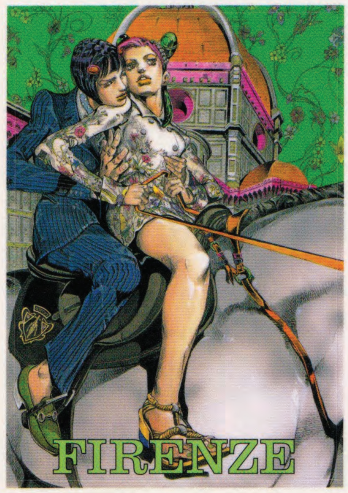
能力／リモートロマンスの本体は2006年、死刑にされた伝説のハッカー、ディキシー・フラットライン。死後、スタンド能力だけがネットワーク上に残った。特定のサーバーにアクセスした人間を本体として、遠隔地に分身をつくり出す力を与える。

荒木飛呂彦監修のスタンド「リモートロマンス」は、ウェブで遠隔操作されることで「ジョジョ展」会場を回遊し、カメラを通じて展示をリアルタイム配信するという驚きの能力を持つ。Google+のハングアウトアプリを介し、ユーザーはリモートロマンスを操作。ユーザー自身がこのスタンドを通じてジョジョ展を自由に鑑賞できる。つまり部屋にいながら、ジョジョ展が観られるということ。またウェブサイトでは、リモートロマンスが発動する様子を世界中の"ジョジョファン"と共有することが可能だ。リモートロマンスの最新情報は『ジョジョの奇妙な冒険』公式ファンページ「ジョジョ＋」で随時配信中。https://plus.google.com/116085836947959774664


JOJOmenon


TOKYO


SENDAI


FIRENZE


JOJO


ドドドド
ズキュウゥゥン
ゴゴゴゴ
メメタア